
美的労働に関する調査報告書

太郎丸博・編

2025年3月

目次

第1章	美的労働調査 2024 の概要	1
第2章	公的な場における女性的服装規範	6
第3章	会話頻度と服装への関心	18
第4章	オンライン調査モニターの写真調査	23
第5章	誰が美容サロンに行くのか	33
第6章	男性の外見管理の構造方程式モデルによる分析	42
第7章	文化資本は文系と理系に分かれるか	53
付録 A	「仕事と身だしなみに関する調査」の調査票	64
付録 B	「仕事と身だしなみに関する調査」の単純集計表	163

第 1 章

美的労働調査 2024 の概要

太郎丸 博

1. 目的

労働者には、単に何らかの業務を遂行するだけでなく、その仕事にふさわしい服装、髪形、化粧、等々をすることで外見を整えたり、その仕事にふさわしい立ち居振る舞いや身のこなし、話し方、等々をすることが求められる場合がある。このような労働の側面は美的労働と呼ばれる (Mears 2014; Williams and Connell 2010)。本調査は、この美的労働について研究するために行われた。美的労働については質的な研究が散発的に行われているだけで、質問紙を使った調査は管見の範囲では存在していない。そこで、適切な質問の仕方や尺度の構成を探索するために 2022 年に調査を行った (太郎丸 2022)。本調査は 2022 年調査を改善すると同時に、人々の美的労働に対する価値観を調べることを主な目的として行った。

本研究は JSPS 科研費 19K21721 の助成を受けた。

2. 調査の設計

本調査は、日本に在住する 20-59 歳の男女が対象で、性別、年齢の同時分布を総務省の 2024 年 1 月 1 日の推計値に近似させ、性別・年齢で条件づけたときの学歴の分布を、2020 年の国勢調査の分布に近似するように割り当てた (クォータ法)。割り当てのために性別、年齢、学歴をスクリーニング調査でたずねている。有効回答数は 1000、有効回収率は、スクリーニング調査の依頼数を分母とすると $1000/5505 = 18\%$ 、スクリーニング調査の回答者数を分母とすると $1000/1988 = 50\%$ である。本調査は 2024 年 3 月 8 日～13 日、後述の手の写真調査は 3 月 15 日～20 日に行われた。

要因配置サーベイ実験の仕様

本調査には、要因配置サーベイ実験のための質問が、4 つ含まれている。Q28～Q31 がそうである。例えば、Q28 は「あなたは以下のような人にどれくらい抵抗感がありますか。」と尋ね、以下のような項目を示す。

- ・ 髪を金髪に染めた BG28A1 (BG28A3 歳・BG28A2)
- ・ 鼻にピアスをした BG28B1 (BG28B3 歳・BG28B2)
- ・ 腕にタトゥーをした BG28C1 (BG28C3 歳・BG28C2)

BG28A1, BG28B1, BG28C1 には「医師」「小学校の先生」「市議会議員」「会計事務員」「トラック運転手」「清掃員」「大学生」のうちいずれかが等確率で代入される。BG28A3, BG28B3, BG28C3 には 25～50 の間の整数のうちいずれかが、そして BG28A2, BG28B2, BG28C2 には「男」または「女」のいずれかが、等確率で代入される。ただし、職業と年齢は非復元抽出（例えば、最初の項目に「医師」が選ばれたら、次の項目では残った 6 つの項目の中から選ぶ）である。性別に関しては復元抽出した。

そのため、どのような職業、年齢、性別について評価するかは、回答者によって異なる。本報告書の付録にオンライン質問票があるが、この質問票の最初に、上記の職業、年齢、性別のように、回答者によって表示される語が異なる部分のリストがあり、「バックグラウンド」と呼ばれている。このような表示する語の抽出は、回答者からは見えないバックグラウンドで行われているので、こう呼ばれると思われる。例えば、最初のリストは上の紙が金髪の人の職業に対応するが、BG28A1 という ID がふられている。これは、質問文中の BG28A1 に代入する語の候補のリストであることを示す。

類似の代入を行う質問が 4 つあり、代入する部分が多数あるため、質問票本体よりも、この代入語のリストのほうが長くなってしまっている。Q29～Q31 でも年齢を復元抽出して代入している。Q30 と Q31 は、服装やアクセサリの記述が代入されるが、候補語の数よりも、代入先の項目数のほうが多いので、すべての候補語が一回以上抽出されるように制約をかけている。すなわち、すべての候補語が 1 回代入されるまでは非復元抽出し、すべての語が代入された後は復元抽出に移行するようにした。

手の写真

本調査の最後で、手の写真調査への協力を依頼した。これに応じた回答者には後日、改めて調査依頼を送付した。写真調査では、以下のように指示し、写真をアップロードしてもらった。

以下の案内にしたがって、あなたの片手を撮影してください。

1. 撮影は、なるべく明るい場所でおこなってください。
2. 手袋はしないでください。指輪やつけ爪、マニキュアなどはつけたままでもかまいません。
3. 下のサンプル写真のように、カメラに手の甲を向けて、片手を広げてください。右手でも左手でもかまいません。壁や机に手のひらを押し当てると撮りやすいです。
4. すべての指の指先から手首までが収まっていることを確認して、フラッシュや画像の修正、加工などの機能は使わずに、撮影してください。

撮影例：図 1.1 参照。



図 1.1 手のサンプル写真

回収率等については、山本の章を参照されたい。

3. サンプルの代表性

性別、年齢、学歴に関しては、母集団に分布が近似するように割り当ててある。ただ、年齢には歪みがある。10 歳刻みで回答者数を割り当てているので、20 代、30 代、といった刻みで度数分布表を作れば母集団に近似するが、1 歳刻みで見ると、分布が偏っているのがわかる。詳しくは度数分布表を参照されたいが、例えば、20 代は 20～22 歳が顕著に少ない（23～25 歳の半分以下）、30～34 歳よりも 35～39 歳のほうが 2 倍以上多い、といった具合で、熱心に回答する登録モニターの年齢の偏りを反映していると思われる。

次に労働力調査の 2024 年 3 月の結果と、就業率を比較したのが図 1.2 である。20 代はほぼ同じ就業率であるが、その他は全般に美的労働調査のほうが低く、特に 30 代と 50 代で顕著に就業率が低いことがわかる。

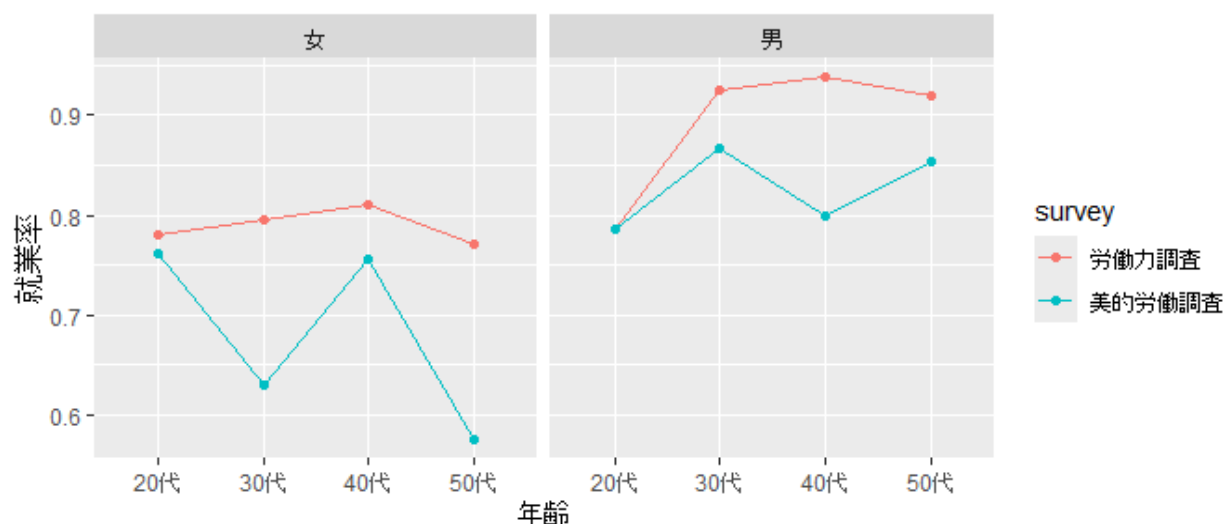


図 1.2 労働力調査 2024 年 3 月と美的労働調査 2024 の就業率

就業者に占める正規雇用、非正規雇用、自営の比率を示したのが、図 1.3 である。美的労働調査のほうが非正規雇用率が高く、そのぶん正規雇用率が低いことがわかる。

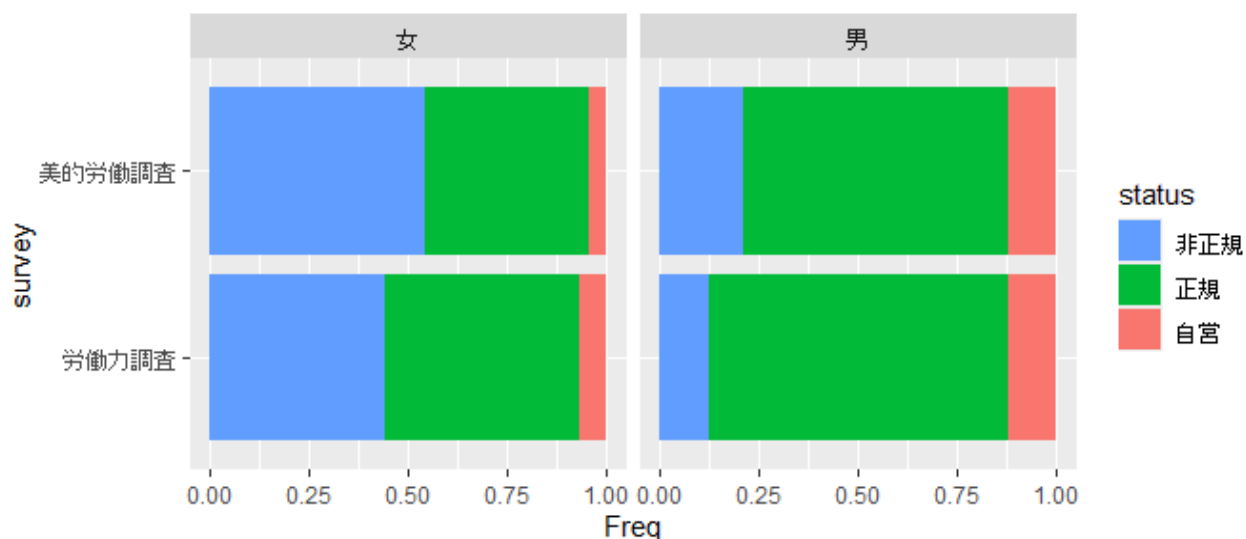


図 1.3 労働力調査 2024 年 3 月と美的労働調査 2024 の従業上の地位の分布

以上のような分布の偏りについては、分析法の選択や分析結果の解釈の際に注意が必要である。

文献

Mears, Ashley. 2014. “Aesthetic Labor for the Sociologies of Work, Gender, and Beauty.” *Sociology Compass* 8(12):1330–43. doi: [10.1111/soc4.12211](https://doi.org/10.1111/soc4.12211).

太郎丸博., ed. 2022. [美的労働に関する調査報告書](#). 京都大学文学部社会学研究室.

Williams, Christine L., and Catherine Connell. 2010. “‘Looking Good and Sounding Right’: Aesthetic Labor and Social Inequality in the Retail Industry.” *Work and Occupations* 37(3):349–77. doi: [10.1177/0730888410373744](https://doi.org/10.1177/0730888410373744).

第2章

公的な場における女性的服装規範：ミニスカートとローリータファッションはどんな場合に不適切とされるか

太郎丸 博

1. 問題

服装や髪形、アクセサリの装着、等々は自己表現の一部であるが、社会規範によって厳しく統制される場合がある (Goffman 1959; Witz, Warhurst, and Nickson 2003)。近代社会においては、ビジネスシーンや公的な議論の場（例えば、国会や学会等）においては女性的な服装やセクシュアルな服装（例えば、肌の露出が多い、女性的な体形を強調する、フリルやレースを多用する服）は忌避される傾向があるようである¹。もちろん、必ずしもすべての公的な空間で女性的な服装が忌避されるわけではない。パーティーや儀式的類では、女性的な服装や露出の多い服装が受け入れられる場合もあろうし (ゼクシィ n.d.)、コミックマーケットの会場のように露出の多いコスプレイヤーがいるのが普通という場もあろう。このように考えると、状況によって、セクシュアルな女性性の表出は拒否されたり、ある程度許容されたりすると考えられる。そこで、どのような状況でどんな人によって、女性的な服装は不適切とされるのか、検討していく。

2. 仮説

仕事中仮説

服装規範は仕事中かどうかによって大きく異なると考えられる。何らかの仕事（有給か無給かは問わない）をしている場合は、その仕事にふさわしい服装が求められる場合がある (Mears 2014; Williams and Connell 2010)。仕事中の場合、制服等を着ることもあるし、ドレスコードの類が存在する場合もある。明文化されたドレスコードがなくても、仕事服について上司から指導されたり、同僚からや圧力をかけられる場合もあろう (Vonk 2020)。このような規範的な制約は顧客や取引先に失礼がないようにしたり、安全や衛生管理のため（例えばスカートのすそやフリルなどが機械に巻き込まれるよう

¹ 議会での女性の服装については Coghlan and Hackett (2023)、学会での女性の服装については Donaghue (2017) を参照されたい。ビジネスミーティングでの女性の服装については、ウェブ上にいろいろハウツーが載っているが、やはり露出の多い服装は避けるべきという記載が多い（例えば Global Conference (2024)）。

な事故を避けるため）という場合もあるだろうが、服装が企業や職業のアイデンティティを形作ったり、商品やサービスのイメージに影響すると考えられているからであろう(Witz et al. 2003)。

仕事中に比べれば、仕事でない場合は、どんな服を着るかは本人の選択の自由になる余地が大きいだろう。しかし、仕事でない場合でも、「わいせつ」な服装は警察による取り締まりの対象になる場合があるし、ある種の宗教施設では帽子をとることが求められたり、イスラム教徒の女性であれば、ヒジャブの着用が求められる場合があるだろう。スーパーマーケットに軍服を着て銃火器らしきものを身につけた男が現れれば、その銃火器がオモチャでただの買い物をしに来たとしても、混乱を引き起こし、警官がやってくるかもしれないし、フレンチレストランでのデートに、小汚いジーンズとネルシャツ姿で現れれば、恋人の怒りを買い、そもそも入店できないかもしれない。ファースト・ファッションの服を着て高級ブランド店を訪れれば、店員から白い目で見られるかもしれない。このように、仕事でなかったとしても服装に関して規範的な制約はあるだろう。しかし、仕事中に比べれば、ずっと選択の範囲は広く、自由度が高いと考えられる。

つまり、近代社会においては、仕事ではない場合、当人の自由が尊重されやすいが、仕事の場合はさまざまな規範的な制約が生じる場合がある。女性的な服装がすべての職種で忌避されるとは考えにくい、かつて男性が主に政治やビジネス、専門職を担ってきた名残なのか、権威の高い職種では特に男性的な服装が好まれるようである（詳しくは後述）。それゆえ、平均的に見れば仕事の場合には女性的な服装は不適切とされやすいと考えられる。

仮説 1: 仕事中のときのほうが仕事でないときよりも女性的な服装の不適切感が高まる

男性的職業仮説

上で述べたように、かつて男性に独占されていた職業や、今でも男性の多い職業に就いている場合、女性的な服装は不適切とされやすいという可能性が考えられる。露出の多い服装の女性は、管理職に向かないとみなされやすい (Howlett et al. 2015)、管理職としての能力を低く評価されやすい (Glick et al. 2005)、そして、大学生の自治会長には向かないとみなされやすい (Smith et al. 2018)、といった報告がなされている。こういった傾向は非管理職の場合は現れていないので、管理職のように男性が多い、あるいは多かった職種で、女性性を強く表出することが不適切とされる可能性は十分ある²。

² ちなみに、似たような現象は、服装だけでなく顔かたちについても報告されている。顔かたちの美しい男性は男性的、顔かたちの美しい女性も女性的とみなされやすいので、美しい＝女性的であると男性的な仕事に向かないとみなされるという説がある (Heilman and Saruwatari 1979)。Heilman and Saruwatari (1979) によると、女性は美しいと管理職には向かないとされるが、非管理職には向くとされやすい、なぜか男性は美しいと管理職にも非管理職にも向くとされやすい。これは 1970 年代に行われた研究なので、2025 年現在では違っている可能性も十分ある。例えば Sarpila, Koivula, and Kukkonen (2024) は外見の魅力とある職種の人の外見イメージ（職種に合った外見）との関連を検討し、女性の場合、魅力的顔かたちであるほど、男性が多く地位の高い職種に合っている、と観察者からみなされやすいと述べている。男性の場合、外見魅力は女性が多い職業、地位の高い職業にあった外見だとされやすい (Sarpila et al. 2024)。

仮説 2: 男性が多い職業ほど女性的な服装の不適切感が高まる。

余談だが、女性性が強い服装が不適切だからと言って、男性とまったく同じ服装が最適とされるとは限らない (Kimle and Damhorst 1997)。女性はプロフェッショナルに見える男性的な服装をしなければならないが、同時に女性らしさも求められ、矛盾する二つの要求に引き裂かれる場合もあることは付言しておきたい。

年齢仮説

また、このようなセクシュアルな女性性の表出は、青年期の女性に限られ、子供や中高年の女性がセクシュアルであることは、忌避されがちであるという指摘がある (Moradi and Huang 2008)。肌の露出が許されるのは、パートナーを見つけようとしている女性にのみ許され (Grimstad, Storm-Mathisen, and Storm-Mathisen 2005)、既婚女性や高齢者は露出が少なく色が地味で装飾の少ない服を着ることが求められるという事例の報告がある (Clarke 2009)。そうだとすれば、以下のような仮説が考えられる。

仮説 3: 青年期以降は、着装女性の年齢が上がるほど女性的な服装の不適切感が高まる

高齢の女性が、肌を覆い隠すような服や体型がわかりにくい服を自発的に選び、自分を若く見せようとすることがあることはよく知られている (Goffman 1963)。それは若さや女性の美しさといった価値規範からの逸脱を隠す行為、いわゆるパッシングであり、規範を再生産する行為ともいえるが、やりすぎると「若作り」とみなされ、逆に逸脱とされがちなものも周知のとおりである (Clarke 2009; Moradi and Huang 2008)。こういった矛盾する要求を満たすスタイルは優雅な成熟 *growing old gracefully* (Twigg 2007) と呼ばれることがあるが、こういった優雅な成熟という規範に異議申し立てするように、あえて派手な服や若者が来そうなカジュアルな服を着る中高年女性もいる (Clarke 2009)。

評価者のジェンダー秩序に対する態度

このような現象に対しては、さまざまな批判があると思うが、現行のジェンダー秩序に否定的な人ほど上のような規範にも否定的となることが予測される。ただし、女性が露出の多い服装や女性性の強い服装をすることを、性の商品化や客体化として批判する人もいれば (Fredrickson and Roberts 1997)、女性の性的な主体性、自己決定権として擁護する人もいる (Hakim 2010; Hillman 2013)。前者は、どんな場であれ、何歳であれ、女性的な服装には否定的になりやすかろう。後者は、当事者が自分で選んだのであれば、どんな場であれ、何歳であれ、女性的な服装をすることを尊重するだろう。ただ、性的主体性を擁護する人であっても、社会の側から、「こういう場でこんな服を着るのは、不適切」といったルールを押し付けられることには否定的であろうから、結局、現行のジェンダー秩序に否定的な人は、服装規範の押し付けには否定的になると予測できる。

仮説 4: 既存のジェンダー秩序に肯定的な評価者ほど女性的な服装を不適切とみなす

3. 方法・データ

美的労働調査 2024 を用いる。この調査の概要については、この報告書の 1 章を参照せよ。

実験計画

女性的な服装に対する不適切さの判断は、以下のように尋ねている。

以下の写真のように（写真は割愛）フリルやレースを多用した西洋のお姫様風の服装は、ロリータファッションと呼ばれますが、ロリータファッションやミニスカートの女性が以下のような行動をしたら、あなたはどの程度不適切だと思いますか。

5. X1 歳の女性が YYY で街を歩く
6. X1 歳の女性が YYY でロックコンサートに参加する
7. X1 歳の女性が YYY でスタジアムでサッカーを観戦する
8. X2 歳の女性教師が YYY で小学生に授業をする
9. X3 歳の女性市議員が YYY で市議会に参加する
10. X2 歳の女性事務員が YYY でオフィスで働く
11. X2 歳の女性営業社員が YYY で取引先と商談する

選択肢は、「不適切だと思う」、「どちらかという和不適切だと思う」、「どちらとも言えない」、「どちらかという和不適切ではないと思う」、「不適切ではないと思う」の 5 択である。

X1 には 18～50 の整数、X2 には 22～50 の整数、X3 には 25～50 のうちどれかが等確率で代入される。YYY には「ロリータファッション」と「ミニスカート」のいずれかがそれぞれ 1/2 の確率で代入される。ただし YYY には「ロリータファッション」と「ミニスカート」のいずれも 1 回以上は代入される。つまり、「ミニスカート」についてばかり尋ねられて、「ロリータファッション」については尋ねられないような回答者が出ないようにしてある。

ヴィネット中の活動の解釈

上の 7 つの項目のうち「街歩き」「コンサート」「サッカー観戦」を「仕事中ではない」、「教師」「議員」「事務員」「営業社員」を「仕事中」とみなす。後者のほうが女性的服装の不適切感の平均値が高くなるはずである（仮説 1）。

ヴィネットに現れる 4 つの職業に対応する職業小分類の就業者に占める男性の割合を示したのが表 2.1 である。男性比が最も高いのは管理的公務員（議員はここに含まれる）であり、次が営業、小学校教員、男性比が最も低いのは総合事務員である。この男性比が高いほど女性的な服装は不適切と判断されやすいと予測される（仮説 2）。

表 2.1 就業者に占める男性の割合 (%) 国勢調査 2020 より計算

小学校教員	管理的公務員	総合事務員	営業販売事務従事者
37.2	86.1	22.9	47.8

現行のジェンダー秩序への肯定の度合い

以下の項目で現行のジェンダー秩序への肯定の度合いを測定する。

1. 回答者の性別：一般に女性のほうが男性よりも性役割意識が弱く、現行のジェンダー秩序に否定的な傾向があるから
2. 回答者の年齢：若い人のほうが既存の古い規範から自由であり、服装や外見についても寛容な傾向が強いから
3. 高学歴者のほうがリベラルで、現行のジェンダー秩序からも距離をとる場合が多いから
4. 性役割意識：性役割意識の強い人ほど現行のジェンダー秩序に肯定的であろう（というか、両者はかなり近い概念である）。具体的には以下の項目で測定する。そう思う (4) ～ そう思わない (0) の 5 点尺度で、(rev) のついている項目は逆転させた。
 - － 母親が外で働いていても、働いていない母親と同じように、温かく、しっかりした母子の関係はつくれる (rev)
 - － 母親が外で働いていると、小学校入学前の子供は精神的に傷つくようだ
 - － 母親がフルタイムで働いていると、家庭生活は損なわれるものだ
 - － 仕事を持つのはいいことだが、女性の多くが本当に望んでいるのは家庭と子どもだ
 - － 主婦として家事をすることも、働いて収入を得ることも、同じように充実したものだ (rev)
 - － 男性も女性も家計のために収入を得るようにしなければならない (rev)
 - － 男性の仕事は収入を得ること、女性の仕事は家庭と家族の面倒をみることだ

表 2.2 性役割意識の相関係数

	母子関係	傷つく	フルタイム	本望	充実	収入	家族面倒
母子関係	1.00	0.42	0.45	0.20	0.37	0.19	0.26
傷つく	0.42	1.00	0.67	0.40	0.15	0.03	0.38
フルタイム	0.45	0.67	1.00	0.49	0.17	0.00	0.43
本望	0.20	0.40	0.49	1.00	0.07	-0.01	0.52
充実	0.37	0.15	0.17	0.07	1.00	0.14	0.10
収入	0.19	0.03	0.00	-0.01	0.14	1.00	-0.03
家族面倒	0.26	0.38	0.43	0.52	0.10	-0.03	1.00

表 2.2 のように、6 番目の項目は他の項目との相関が非常に弱いので、それ以外の 6 項目を足し合わせて、性役割意識の指標とした（クロンバックの $\alpha = 0.76$ ）。

統制変数

統制変数として、学歴と卒業ダミーを用いる。性別、年齢、も含めた回答者レベルの変数の記述統計は、表 2.3 のとおりである。また、ヴィネットレベルの変数の記述統計は表 2.4 のとおりである。

表 2.3 回答者レベルの独立変数の記述統計（ワイドデータ）

Variable	n	平均／比率	標準偏差	Min.	Max.
回答者の性別	1000				
... 男	508	51%			
... 女	492	49%			
学歴	1000				
... 中	49	5%			
... 高	386	39%			
... 短大	203	20%			
... 大	331	33%			
... 院	31	3%			
回答者の年齢	1000	42	11	20	59
性役割意識	1000	8.5	4.2	0	24

表 2.4 ヴィネット・レベルの独立変数の記述統計（ロングデータ）

Variable	n	平均／比率	標準偏差	Min.	Max.
TPO	7000				
... 街歩	1000	14%			
... ロック	1000	14%			
... サッカー	1000	14%			
... 授業	1000	14%			
... 議会	1000	14%			
... オフィス	1000	14%			
... 商談	1000	14%			
ファッション	7000				
... ロリータ	3482	50%			
... ミニスカ	3518	50%			
ヴィネット中の年齢	7000	35	9.2	16	50
不適切感	7000	1.9	1.5	0	4

4. 分析結果

TPO と年齢によって不適切さの判断がどう変わるか示したのが、図 2.1 である。これを見ると、仕事中のほうが 1.29 だけ、不適切判断の平均値が高い。年齢に関しても右肩上がりの傾向がみられる。16～21 歳が特に平均値が低い、16～21 歳は、仕事中でない場合についてしか判断してもらっていない（18 歳の小学校教師や議員はいない）ので、TPO の効果が反映しているだけかもしれない。仮説とは直接関係ないが、ミニスカートよりもロリータファッションのほうが全般に不適切と判断されやすいようである。

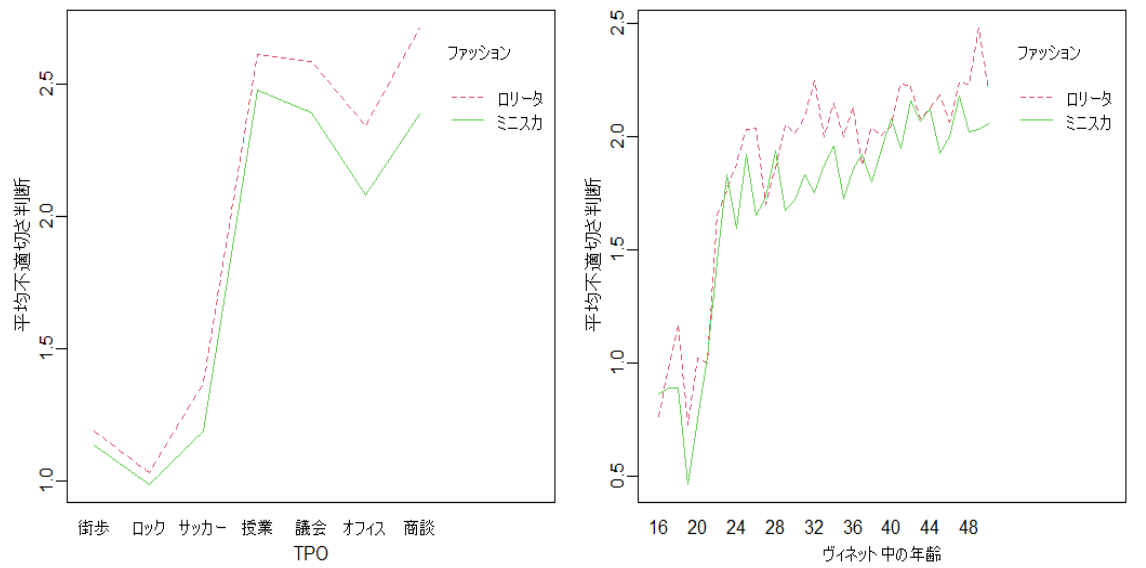


図 2.1 TPO・ヴィネット中の年齢別 平均不適切さ判断

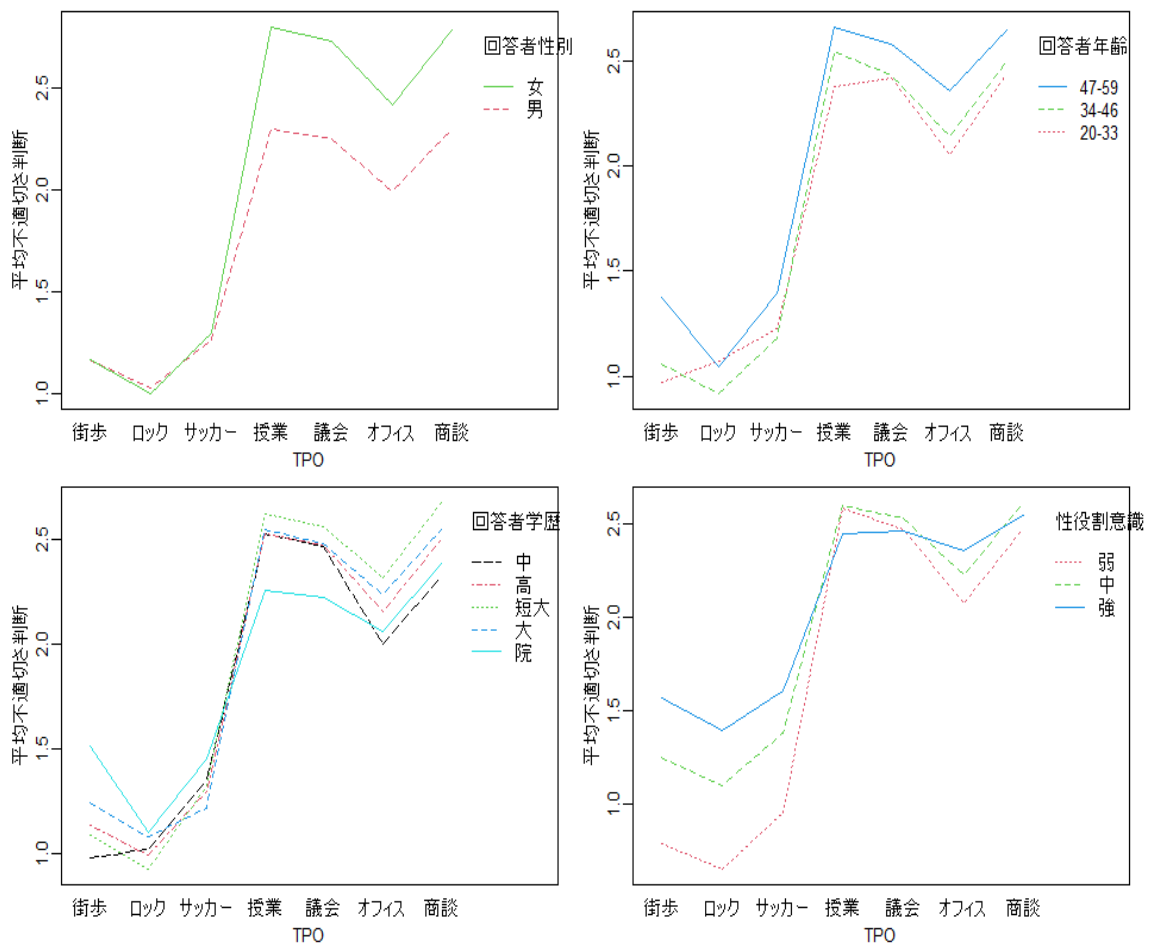


図 2.2 TPO・回答者属性別 平均不適切さ判断図

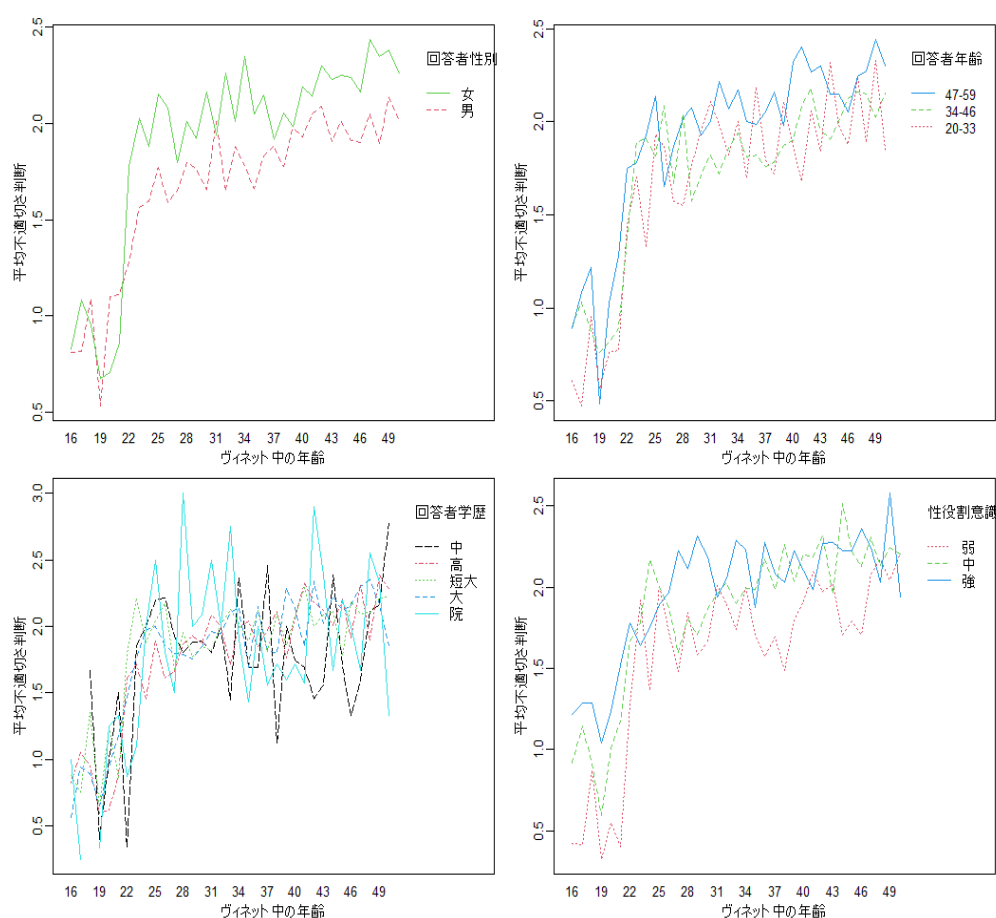


図 2.3 ヴィネット中の年齢・回答者属性別 平均不適切さ判断

図 2.1 と図 2.3 は、図 2.1 のファッションの代わりに、回答者の属性別に不適切判断の平均値を示したものである。予想に反して、女性のほうが平均値が高い傾向がある。年齢が高いほど、そして、性役割意識が強いほど、不適切判断の平均値が高くなる傾向が見られ、これらは仮説通りである。学歴による差は、はっきりしない。

回帰分析（マルチレベル・モデル）の結果を示したのが表 2.5 である。図 2.1～2.3 と同じ結果がここでも再確認できる。私的な場よりも公的な場、ミニスカートよりもロリータファッションのほうが不適切と判断されやすい。ヴィネット中の年齢も、回答者の年齢も、正の有意な値を示しているが、それらの二乗は有意ではないので、いずれも年齢が上がるほど概ね線形に不適切判断されやすくなっている。また、回答者が女性のほうが不適切と判断しやすいが、学歴は有意ではなかった。

仕事かどうかによる不適切判断の差を検定しておこう。帰無仮説は表 2.4 の model 3 の仕事上の係数の平均値 = 非仕事上の係数の平均値である。Wald 検定すると、 $X^2 = 2826.2$ (df = 1) で、0.1% 水準で有意な差がある。

結論から言えば、男性的職業仮説は支持できない。7つの TPO のうち、非仕事中をデータから除外し、工作中的のヴィネットに関して、ダミー変数ではなく、各職種の男性比をモデルに投入したのが Model 4 である。確かに男性比の係数は 0.29 であり、0.1% 水準で有意である。一見男性的職業仮説は有意であるように思えるが、このような結果が出るのは、オフィスで事務を執る場合の不適切感が低いからである。一般事務の男性比が相対的に低いので、上記のような有意な結果が出るのだが、Model 3 の TPO のうちで最も係数が大きいのは営業社員が商談する場合であって、市議会に議員が参加する場合ではない。さらに小学校の先生のほうが市会議員よりも不適切感が高く、ほとんど男性比に比例して平均不適切感が高くなるとは言えない。

むしろ、オフィス内で働く場合、顧客や生徒などと接することがなく、同僚とだけ接するので、あまり不適切感が高くないが、顧客や生徒と接する場合は「ちゃんとした恰好」をしなければならない、といった規範意識を反映していると考えたほうがいいだろう。「市会議員の係数 = 小学校の先生の係数 = 営業事務員の係数」という帰無仮説を Wald 検定すると、 $X^2 = 4.6$ (df = 2) で、帰無仮説は棄却できない。つまりこれらの TPO でミニスカートをはいたり、ロリータ・ファッションをすることの平均不適切感に大差はないと考えられる。

表 2.5 不適切さ判断の回帰分析（マルチレベル・モデル）

	Model 1	Model 2	Model 3	Model 4
(Intercept	1.89 ***	1.05 ***	1.00 ***	2.06 ***
	(0.03)	(0.08)	(0.07)	(0.09)
tpo ロック		-0.15 ***	-0.15 ***	
		(0.04)	(0.04)	
tpo サッカー		0.12 **	0.12 **	
		(0.04)	(0.04)	
tpo 授業		1.33 ***	1.33 ***	
		(0.04)	(0.04)	
tpo 議会		1.25 ***	1.25 ***	
		(0.04)	(0.04)	
tpo オフィス		0.99 ***	0.99 ***	
		(0.04)	(0.04)	
tpo 商談		1.33 ***	1.33 ***	
		(0.04)	(0.04)	
q30fashion ミニスカ		-0.16 ***	-0.16 ***	-0.24 ***
		(0.02)	(0.02)	(0.03)
ヴィネット中の年齢		0.02 ***	0.02 ***	0.00 *
		(0.00)	(0.00)	(0.00)
ヴィネット中の年齢^2)		-0.00	-0.00	0.00 *

	Model 1	Model 2	Model 3	Model 4
		(0.00)	(0.00)	(0.00)
回答者性別：女		0.29 ***	0.34 ***	0.51 ***
		(0.06)	(0.06)	(0.08)
回答者年齢		0.01 **	0.01 ***	0.01 **
		(0.00)	(0.00)	(0.00)
回答者年齢^2)		0.00	0.00	0.00
		(0.00)	(0.00)	(0.00)
回答者学歴：中		-0.02	0.00	-0.01
		(0.14)	(0.14)	(0.18)
回答者学歴：短大		-0.00	0.02	0.04
		(0.08)	(0.08)	(0.10)
回答者学歴：大		0.09	0.11	0.11
		(0.07)	(0.07)	(0.09)
回答者学歴：院		0.14	0.23	0.09
		(0.18)	(0.18)	(0.22)
性役割意識			0.05 ***	0.03 **
			(0.01)	(0.01)
就業者男性比				0.29 ***
				(0.05)
BIC	23688.66	21003.52	20975.34	11674.16
Log Likelihood	-11831.05	-10417.65	-10399.13	-5774.88
Num. obs.	7000	7000	7000	4000
Num. groups: No	1000	1000	1000	1000
Var: No (Intercept)	0.73	0.78	0.74	1.20
Var: Residual	1.38	0.85	0.85	0.60

5. まとめと議論

仕事中仮説と、年齢仮説は支持され、男性職仮説は支持できなかった。評価者の側のジェンダー秩序への否定については、若い人ほど、そして、性役割意識が弱いほど不適切感が低い、という点では仮説通りであったが、学歴は効果がなく、女性の評価者のほうがミニスカやロリータファッションを不適切とみなしている点は仮説に反する結果であった。

男性的職業仮説については、ヴィネットに登場する職種は 4 つしかないのもっと職種や状況をいろいろ準備して、男性比と顧客等との対面が直交するような実験計画（ヴィネット）を準備する必要があるだろう。ただ、制服ではなく私服を着る仕事でないと女性性の強弱を操作できないので、か

なり工夫が必要だろう。一般に高学歴者のほうが再分配政策を支持したり、差別に反対したりする点ではリベラルであるが、外見に関しては意外と保守的、というのは他の分析結果と共通している（張 and 太郎丸 2024）。

女性の評価者のほうが厳しいのは、女性のほうが男性よりも女性の服装を熱心にモニタリングしている（Montemurro and Gillen 2013）ということの表れかもしれない。なぜ女性のほうが熱心なのかはよくわからないが、上記のように女性の服装には矛盾する要求がなされる場合があり、どんな服が「正解」なのか、はっきりしないことが男性よりもずっと多いからこそ、お互いの服装をモニターして、「正解」を探るのであり、TPO にあわない不適切な服装をはっきりと判断できるということなのかもしれない。

文献

- Clarke, Meridith And Maliha, Laura Hurd And Griffin. 2009. "Bat Wings, Bunions, and Turkey Wattles: Body Transgressions and Older Women's Strategic Clothing Choices." *Ageing and Society* 29(5):709–26. doi: [10.1017/S0144686X08008283](https://doi.org/10.1017/S0144686X08008283).
- Coghlan, Jo, and Lisa J. Hackett. 2023. "Parliamentary Dress: Gendered Contestation of the Political Uniform." *M/C Journal* 26(1). doi: [10.5204/mcj.2963](https://doi.org/10.5204/mcj.2963).
- Donaghue, Ngaire. 2017. "Seriously Stylish: Academic Femininities and the Politics of Feminism and Fashion in Academia." Pp. 231–46 in *Aesthetic labour: Rethinking beauty politics in neoliberalism*, edited by A. S. Elias, R. Gill, and C. Scharff. London: Palgrave Macmillan UK.
- Fredrickson, Barbara L., and Tomi-Ann Roberts. 1997. "Objectification Theory: Toward Understanding Women's Lived Experiences and Mental Health Risks." *Psychology of Women Quarterly* 21(2):173–206. doi: [10.1111/j.1471-6402.1997.tb00108.x](https://doi.org/10.1111/j.1471-6402.1997.tb00108.x).
- Glick, Peter, Sadie Larsen, Cathryn Johnson, and Heather Branstiter. 2005. "Evaluations of Sexy Women in Low- and High-Status Jobs." *Psychology of Women Quarterly* 29(4):389–95. doi: [10.1111/j.1471-6402.2005.00238.x](https://doi.org/10.1111/j.1471-6402.2005.00238.x).
- Global Conference. 2024. "What Not to Wear to a Business Conference?" Retrieved (<https://globalconference.ca/what-not-to-wear-to-a-business-conference/>).
- Goffman, Erving. 1959. *The Presentation of Self in Everyday Life*. Garden City, N.Y.: Doubleday.
- Goffman, Erving. 1963. *Stigma: Notes on the Management of Spoiled Identity*. Prentice-Hall.
- Grimstad, Ingun, Klepp Storm-Mathisen, and Ardis Storm-Mathisen. 2005. "Reading Fashion as Age: Teenage Girls' and Grown Women's Accounts of Clothing as Body and Social Status." *Fashion Theory: The Journal of Dress, Body & Culture* 9(3):323–42. doi: [10.2752/136270405778051329](https://doi.org/10.2752/136270405778051329).
- Hakim, Catherine. 2010. "Erotic Capital." *European Sociological Review* 26(5):499–518. doi: [10.1093/esr/jcq014](https://doi.org/10.1093/esr/jcq014).

- Heilman, Madeline E., and Lois R. Saruwatari. 1979. "When Beauty Is Beastly: The Effects of Appearance and Sex on Evaluations of Job Applicants for Managerial and Nonmanagerial Jobs." *Organizational Behavior and Human Performance* 23(3):360–72. doi: [10.1016/0030-5073\(79\)90003-5](https://doi.org/10.1016/0030-5073(79)90003-5).
- Hillman, Betty Luther. 2013. "'The Clothes i Wear Help Me to Know My Own Power': The Politics of Gender Presentation in the Era of Women's Liberation." *Frontiers: A Journal of Women Studies* 34(2):155–85.
- Howlett, Neil, Karen J. Pine, Natassia Cahill, İsmail Orakçioğlu, and Ben (C) Fletcher. 2015. "Unbuttoned: The Interaction Between Provocativeness of Female Work Attire and Occupational Status." *Sex Roles* 72(3):105–16. doi: [10.1007/s11199-015-0450-8](https://doi.org/10.1007/s11199-015-0450-8).
- Kimle, Patricia Anne, and Mary Lynn Damhorst. 1997. "A Grounded Theory Model of the Ideal Business Image for Women." *Symbolic Interaction* 20:45–68.
- Mears, Ashley. 2014. "Aesthetic Labor for the Sociologies of Work, Gender, and Beauty." *Sociology Compass* 8(12):1330–43. doi: [10.1111/soc4.12211](https://doi.org/10.1111/soc4.12211).
- Montemurro, Beth, and Meghan M. Gillen. 2013. "How Clothes Make the Woman Immoral: Impressions Given Off by Sexualized Clothing." *Clothing and Textiles Research Journal* 31(3):167–81. doi: [10.1177/0887302X13493128](https://doi.org/10.1177/0887302X13493128).
- Moradi, Bonnie, and Yu-Ping Huang. 2008. "Objectification Theory and Psychology of Women: A Decade of Advances and Future Directions." *Psychology of Women Quarterly* 32(4):377–98. doi: [10.1111/j.1471-6402.2008.00452.x](https://doi.org/10.1111/j.1471-6402.2008.00452.x).
- Sarpila, Outi, Aki Koivula, and Iida Kukkonen. 2024. "Appearance and Social Inequalities: Physical Attractiveness as a Part of Occupation-Congruent Appearance." *Sociology* 58(6):1378–98. doi: [10.1177/00380385241249038](https://doi.org/10.1177/00380385241249038).
- Smith, Julia K., Miriam Liss, Mindy J. Erchull, Celeste M. Kelly, Kathleen Adragna, and Katlyn Baines. 2018. "The Relationship Between Sexualized Appearance and Perceptions of Women's Competence and Electability." *Sex Roles* 79(11):671–82. doi: [10.1007/s11199-018-0898-4](https://doi.org/10.1007/s11199-018-0898-4).
- Twigg, Julia. 2007. "Clothing, Age and the Body: A Critical Review." *Ageing and Society* 27(2):285–305. doi: [10.1017/S0144686X06005794](https://doi.org/10.1017/S0144686X06005794).
- Vonk, Laura. 2020. "Peer Feedback in Aesthetic Labour: Forms, Logics and Responses." *Cultural Sociology* 15(2):213–32. doi: [10.1177/1749975520962368](https://doi.org/10.1177/1749975520962368).
- Williams, Christine L., and Catherine Connell. 2010. "'Looking Good and Sounding Right': Aesthetic Labor and Social Inequality in the Retail Industry." *Work and Occupations* 37(3):349–77. doi: [10.1177/0730888410373744](https://doi.org/10.1177/0730888410373744).
- Witz, Anne, Chris Warhurst, and Dennis Nickson. 2003. "The Labour of Aesthetics and the Aesthetics of Organization." *Organization* 10(1):33–54. doi: [10.1177/1350508403010001375](https://doi.org/10.1177/1350508403010001375).
- ゼクシィ. n.d. "1.5 次会の服装で失敗しない！ゲストための男女・シーン別服装マナー."
- 張亮, and 太郎丸博. 2024. "外貌調整行為に対する寛容度の影響要因." 第77回数理社会学会大会.

第3章

会話頻度と服装への関心

法政大学 池田裕

1. 目的

本稿は、服装への関心に影響する要因を調べることによって、個人が服装に関心を持つための条件の理解を深める。特に、本稿は会話頻度と服装への関心の関係に注目する。社会構造における個人の立場と行動の関係を理解するために、社会学は社会的属性による行動の違いを調べることが多い。しかし、社会構造が「社会関係や社会的属性の集合システム」（吉川 2014: 69）と定義されることを考慮すると、社会構造の構成要素としての社会関係による行動の違いを調べることも、行動を社会構造の観点から説明するのに役立つ。社会関係は社会的相互作用の機会を提供し、服装への関心を刺激する可能性がある。他人との接触回数が多い人ほど、他人の服装を見る機会も自分の服装を見られる機会も多い。そのような社会的相互作用の機会は、他人の服装に関する知識を増やし、自分の服装への注意を促進すると考えられる。本稿は、会話頻度を他人との接触回数の指標とみなし、会話頻度が高い人ほど服装への関心が高いという仮説を立てる。

2. 方法

分析には、2024年3月に行われた「仕事と身だしなみに関する調査」のデータを使う。この調査は、マイボイスコム株式会社の登録モニターから抽出された20歳から59歳までの人を対象としたインターネット調査である。一連の質問には欠損値がないので、分析の対象は1,000人の回答者のすべてである。

従属変数は、服装への関心である。回答者は、「あなたご自身に、以下のことがどの程度あてはまりますか」と尋ねられる。項目は、「ファッションに興味がある」（項目1）、「ファッション誌やネット上のファッション情報をときどきチェックしている」（項目2）、「服のウィンドウショッピングをしたり、服のオンラインショップをチェックするのが好きだ」（項目3）、「外出するときは服のコーディネートをよく考える」（項目4）、「外出する前には全身を鏡で見てチェックする」（項目5）、「服を買うときは試着したり、サイズやシルエット、色などを慎重にチェックする」（項目6）、「服装には自分なりのこだわりがある」（項目7）、「服は暑さ寒さをしのげれば何でもいい」（項目8）である。回答カテゴリは、「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」、「どちらかといえばあてはまらない」、「あてはまらない」である。服装への関心が高い人は「服は暑さ寒さをしのげれば何でもいい」という意見に賛成しないと考えられるので、項目8は逆転項目とみなされる。本稿は、服装への関心が高い人ほど高い値を取るように、回答者に0から3までの点数を割り当てる。

独立変数は、年齢、教育年数、会話頻度、BMIである。年齢は20から59までの値を取る。教育年

数は9から18までの値を取る。会話頻度に関して、回答者は「あなたはふだんどの程度、家族以外の人と会話をしますか（電話等での話やあいさつ、ちょっとした世間話も「会話」に含みます）」と尋ねられる。回答カテゴリは、「毎日」、「2～3日に1回」、「4～7日（1週間）に1回」、「2週間に1回」、「1か月に1回」、「ほとんど話をしない」である。本稿は、会話頻度が高い人ほど高い値を取るように、回答者に0から5までの点数を割り当てる。BMIは、男性では15.055から40.649までの値を取り、女性では14.692から41.623までの値を取る。

会話頻度の効果が性別に対して頑健であるかどうかを調べるために、本稿は男女別の線形回帰を行う。ソフトウェアはR version 4.4.2である（R Core Team 2024）。

3. 結果

表 3.1 男女別の記述統計量

男性	観察数	平均値	標準偏差	中央値	最小値	最大値
項目 1	508	1.047	1.006	1	0	3
項目 2	508	0.628	0.869	0	0	3
項目 3	508	0.744	0.898	0	0	3
項目 4	508	0.902	0.939	1	0	3
項目 5	508	0.949	1.027	1	0	3
項目 6	508	1.079	1.025	1	0	3
項目 7	508	1.173	1.002	1	0	3
項目 8	508	1.671	1.023	2	0	3
年齢	508	41.850	10.934	43	20	59
教育年数	508	13.886	2.330	14	9	18
会話頻度	508	3.555	1.968	5	0	5
BMI	508	22.613	4.041	21.962	15.055	40.649

女性	観察数	平均値	標準偏差	中央値	最小値	最大値
項目 1	492	1.626	0.994	2	0	3
項目 2	492	1.047	1.007	1	0	3
項目 3	492	1.378	1.021	2	0	3
項目 4	492	1.561	0.998	2	0	3
項目 5	492	1.715	1.051	2	0	3
項目 6	492	1.762	0.969	2	0	3
項目 7	492	1.630	0.964	2	0	3
項目 8	492	1.953	0.927	2	0	3
年齢	492	42.091	10.776	43	20	59
教育年数	492	13.648	1.899	14	9	18
会話頻度	492	3.677	1.751	4	0	5
BMI	492	21.155	4.006	20.202	14.692	41.623

表 3.2 男女別の相関行列

男性	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)
(1) 項目 1	1.000											
(2) 項目 2	0.700	1.000										
(3) 項目 3	0.706	0.758	1.000									
(4) 項目 4	0.719	0.656	0.681	1.000								
(5) 項目 5	0.659	0.587	0.600	0.737	1.000							
(6) 項目 6	0.614	0.569	0.620	0.699	0.646	1.000						
(7) 項目 7	0.638	0.527	0.552	0.645	0.565	0.619	1.000					
(8) 項目 8	0.295	0.166	0.185	0.295	0.249	0.234	0.294	1.000				
(9) 年齢	-0.043	-0.109	-0.119	-0.092	-0.091	-0.033	0.063	0.111	1.000			
(10) 教育年数	0.048	0.139	0.125	0.080	0.035	0.078	0.050	0.017	-0.113	1.000		
(11) 会話頻度	0.217	0.201	0.202	0.213	0.233	0.277	0.264	0.080	0.132	0.158	1.000	
(12) BMI	-0.093	-0.063	-0.085	-0.134	-0.092	-0.018	0.016	-0.031	0.229	-0.075	0.026	1.000

女性	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)
(1) 項目 1	1.000											
(2) 項目 2	0.662	1.000										
(3) 項目 3	0.696	0.696	1.000									
(4) 項目 4	0.700	0.578	0.633	1.000								
(5) 項目 5	0.584	0.498	0.522	0.653	1.000							
(6) 項目 6	0.525	0.387	0.488	0.551	0.547	1.000						
(7) 項目 7	0.658	0.511	0.542	0.665	0.595	0.627	1.000					
(8) 項目 8	0.332	0.157	0.208	0.354	0.312	0.260	0.318	1.000				
(9) 年齢	-0.108	-0.084	-0.123	0.001	0.102	0.107	0.020	0.154	1.000			
(10) 教育年数	0.119	0.197	0.181	0.187	0.095	0.097	0.077	0.045	-0.221	1.000		
(11) 会話頻度	0.136	0.133	0.177	0.137	0.161	0.061	0.077	0.008	-0.013	0.200	1.000	
(12) BMI	-0.146	-0.148	-0.148	-0.163	-0.175	-0.174	-0.123	-0.092	0.105	-0.183	-0.129	1.000

表 3.1 は、男女別の記述統計量を示している。性別にかかわらず、服装への関心を測定する項目の平均値は項目 2 で最も低く、項目 8 で最も高い。平均的回答者は、「ファッション誌やネット上のファッション情報」にあまり関心がない一方で、「服は暑さ寒さをしのげれば何でもいい」という意見にやや懐疑的である。8 項目のすべてで、平均値は男性よりも女性で高い。ウェルチの検定によれば、平均値の差は項目 1 ($p = 0.000$, $d = 0.579$)、項目 2 ($p = 0.000$, $d = 0.446$)、項目 3 ($p = 0.000$, $d = 0.660$)、項目 4 ($p = 0.000$, $d = 0.681$)、項目 5 ($p = 0.000$, $d = 0.738$)、項目 6 ($p = 0.000$, $d = 0.685$)、項目 7 ($p = 0.000$, $d = 0.464$)、項目 8 ($p = 0.000$, $d = 0.289$) のすべてで統計的に有意である。平均値の差は項目 4、項目 5、項目 6 で特に大きく、相対的に、男性は「服のコーディネート」、「全身を鏡で見てチェックすること」、「試着」に関心がない。

表 3.2 は、男女別の相関行列を示している。男性では、会話頻度が項目 1 ($p = 0.000$)、項目 2 ($p = 0.000$)、項目 3 ($p = 0.000$)、項目 4 ($p = 0.000$)、項目 5 ($p = 0.000$)、項目 6 ($p = 0.000$)、項目 7 ($p =$

0.000) と正に相関する一方で、項目 8 ($p=0.071$) と有意に相関しない。女性では、会話頻度が項目 1 ($p=0.002$)、項目 2 ($p=0.003$)、項目 3 ($p=0.000$)、項目 4 ($p=0.002$)、項目 5 ($p=0.000$) と正に相関する一方で、項目 6 ($p=0.174$)、項目 7 ($p=0.086$)、項目 8 ($p=0.855$) と有意に相関しない。項目 1 から項目 5 までを見る限り、性別にかかわらず、会話頻度が高い人ほど服装への関心が高い。次の課題は、年齢、教育年数、BMI を統制しても、会話頻度の効果が統計的に有意であるかどうかを調べることである。

表 3.3 男女別の線形回帰モデルの標準化推定値

男性	項目 1	項目 2	項目 3	項目 4	項目 5	項目 6	項目 7	項目 8
切片	0.000 (0.043)	0.000 (0.043)	0.000 (0.043)	0.000 (0.043)	0.000 (0.043)	0.000 (0.043)	0.000 (0.043)	0.000 (0.044)
年齢	-0.053 (0.045)	-0.117** (0.045)	-0.126** (0.045)	-0.093* (0.045)	-0.110* (0.045)	-0.065 (0.045)	0.029 (0.045)	0.118* (0.046)
教育年数	0.000 (0.044)	0.091* (0.044)	0.073 (0.044)	0.025 (0.044)	-0.022 (0.044)	0.026 (0.044)	0.013 (0.044)	0.015 (0.045)
会話頻度	0.226*** (0.044)	0.203*** (0.044)	0.209*** (0.044)	0.225*** (0.044)	0.253*** (0.044)	0.282*** (0.044)	0.258*** (0.044)	0.064 (0.045)
BMI	-0.087 (0.044)	-0.035 (0.044)	-0.056 (0.044)	-0.116** (0.044)	-0.075 (0.044)	-0.008 (0.044)	0.004 (0.044)	-0.059 (0.045)
決定係数	0.059	0.068	0.071	0.074	0.075	0.083	0.071	0.020
調整済み決定係数	0.052	0.061	0.064	0.067	0.067	0.075	0.063	0.013
観察数	508	508	508	508	508	508	508	508

*** $p < 0.001$; ** $p < 0.01$; * $p < 0.05$ (括弧内は標準誤差)

女性	項目 1	項目 2	項目 3	項目 4	項目 5	項目 6	項目 7	項目 8
切片	0.000 (0.044)	0.000 (0.044)	0.000 (0.044)	0.000 (0.044)	0.000 (0.044)	0.000 (0.044)	0.000 (0.045)	0.000 (0.044)
年齢	-0.082 (0.046)	-0.038 (0.045)	-0.085 (0.045)	0.050 (0.045)	0.136** (0.045)	0.146** (0.045)	0.045 (0.046)	0.180*** (0.046)
教育年数	0.058 (0.047)	0.152** (0.046)	0.116* (0.046)	0.157*** (0.046)	0.070 (0.046)	0.094* (0.047)	0.056 (0.047)	0.070 (0.047)
会話頻度	0.109* (0.045)	0.089* (0.045)	0.139** (0.045)	0.089* (0.045)	0.129** (0.045)	0.023 (0.045)	0.053 (0.046)	-0.016 (0.046)
BMI	-0.113* (0.045)	-0.105* (0.045)	-0.100* (0.045)	-0.129** (0.045)	-0.159*** (0.045)	-0.170*** (0.045)	-0.110* (0.046)	-0.101* (0.045)
決定係数	0.047	0.061	0.071	0.063	0.069	0.056	0.023	0.040
調整済み決定係数	0.039	0.053	0.063	0.055	0.061	0.048	0.015	0.032
観察数	492	492	492	492	492	492	492	492

*** $p < 0.001$; ** $p < 0.01$; * $p < 0.05$ (括弧内は標準誤差)

表 3.3 は、男女別の線形回帰モデルの標準化推定値を示している。年齢は、男性では項目 2、項目 3、項目 4、項目 5 と負に関連する一方で、項目 8 と正に関連し、女性では項目 5、項目 6、項目 8 と正に関連する。全体として、男性では年齢が高い人ほど服装への関心が低く、女性では年齢が高い人ほど服装への関心が高い。例外的に、男性でも、年齢が高い人ほど「服は暑さ寒さをしのげれば何でもいい」という意見に懐疑的である。高齢者は身だしなみを整えることを重視する傾向が強く、これは「彼らの伝統的価値観を反映しているかもしれない」（池田 2022: 74）。教育年数は、男性では項目 2 と正に関連し、女性では項目 2、項目 3、項目 4、項目 6 と正に関連する。教育年数が長い人ほど服装への関心が高く、教育年数の効果は男性よりも女性で頑健である。会話頻度は、男性では項目 8 以外のすべての項目と正に関連し、女性では項目 1、項目 2、項目 3、項目 4、項目 5 と正に関連する。会話頻度が高い人ほど服装への関心が高く、相対的に、会話頻度の効果は性別に対して頑健である。BMI は、男性では項目 4 と負に関連し、女性では 8 項目のすべてと負に関連する。BMI が高い人ほど服装への関心が低く、BMI の効果は男性よりも女性で頑健である。標準化係数を見る限り、服装への関心に影響する要因として重要なのは、男性では会話頻度で、女性では BMI である。

4. 結論

全体として、男女別の線形回帰の結果は本稿の仮説を支持する。会話頻度が高い人ほど服装への関心が高く、相対的に、会話頻度の効果は性別に対して頑健である。多くの項目に関して、年齢、教育年数、BMI を統制しても、会話頻度の効果は統計的に有意である。標準化係数を見る限り、会話頻度は男性で特に大きな効果を持つ。男性は女性よりも服装への関心が低い、男性が服装に関心を持つには、家族以外の人との会話を含む社会的相互作用の機会が必要であるかもしれない。このように、服装への関心に影響する要因としては、社会的属性だけでなく社会関係も重要である。服装への関心を社会構造の観点から説明するために、今後の研究は所得や従業上の地位などの社会的属性と社会関係の両方を考慮する必要がある。

文献

- 池田裕、2022、「外見管理に対する態度」太郎丸博編『美的労働に関する調査報告書』京都大学文学部社会学研究室、68–75。
- 吉川徹、2014、『現代日本の「社会の心」——計量社会意識論』有斐閣。
- R Core Team, 2024, *R: A Language and Environment for Statistical Computing*, Vienna: R Foundation for Statistical Computing.

第4章

オンライン調査モニターの写真調査：誰の協力が得られやすいのか？

山本耕平（公益社団法人国際経済労働研究所）

1. はじめに

近年、スマートフォンや携帯電話に搭載されるカメラの高性能化や、データ通信の高速化などの恩恵を受けて、質問文にたいする選択ないし文章の記述という従来の回収手法に加え、写真や動画のアップロードによって回答を回収する手法の調査が可能になっている（以下、アップロードするものが写真であるか動画であるかは区別せず、「写真調査」と総称することにする）。写真調査には、従来の手法では回収率が低かったグループから回答を得られる可能性があることと、しばしば不正確な人間の記憶に頼った自記式の回答よりも場合によっては正確なデータが得られること、という二つのメリットが期待される（Bosch et al. 2019; Ilic et al. 2022; Jäckle et al. 2019）。一方で、どの程度の比率で協力が得られるのか、調査者が求める質のデータが提供されるのか、といった調査手法としての有効性に関わる基本的な事柄についてもまだ分かっていないことが多く、基礎的な研究の積み重ねが今なお必要とされている（Bosch et al. 2022; Iglesias and Revilla 2024; Ilic et al. 2022; Wentz et al. 2019）。

そこで本稿では、今回の美的労働に関する調査で採用された写真調査に関して、どのような回答者から協力が得られやすいのかという点にフォーカスして基礎的な分析結果をまとめることにする³。上に挙げた先行研究からもさまざまな知見が得られるものの、それぞれ対象となっているサンプルの性質（確率標本かどうかなど）やデモグラフィック属性が異なるので、先行研究の結果から直接的に協力率を予測したりすることは難しいし、質問の内容によっても協力率や提出されるデータの質が異なる（Ilic et al. 2022）。本調査は本調査として結果を記録しておくことが、基礎的な研究の蓄積への貢献として意義があるだろう。

2. 総調査誤差パラダイムから見る、写真調査に期待されるメリットと課題

本題に入る前に、写真調査にどのようなメリットが期待され、一方でどのような課題を想定する必要があるのかを、総調査誤差（Total Survey Error）パラダイム（Biemer 2010）にそくして整理しておきたい。この作業によって、今回の調査も含めて今後の写真調査の試みにおいて、設計・データ収集・分析の各段階でどのような点に注意すればよいかを見通しやすくなるからである。

³ データの質については別稿で検証したい。また、本稿では社会調査としての有効性という側面にのみ着目しているが、調査倫理に関わる問題やデータ分析の方法に関わる問題も重要である（Ilic et al. 2021）。

Ilic et al. (2022: S441-442) の整理によれば、観察誤差⁴ (measurement error) に関して写真調査が従来の質問紙調査とはっきり異なるのは、写真調査のほうでデータ処理時に発生する誤差 (data-processing error) が大きくなる可能性がある、という点のみである。測定したい対象を調査者が質問文や教示文でうまく説明できない可能性 (specification error) や、回答者の誤認や努力最小化 (satisficing) によって回答が不正確・不十分になる可能性 (狭義の measurement error) は、従来の質問紙調査と基本的には変わらず⁵、場合によっては写真調査のほうで狭義の観察誤差を縮小できる可能性もある。写真調査であれば、回答者が意識したり言語化したりできなかった情報を事後的に引き出せる可能性があるからである。非観察誤差に関しては、カバレッジ誤差 (coverage error) や標本抽出誤差 (sampling error) は (サンプリングフレームを設定する段階で特定のデバイスの所有者・使用者という条件をつけないかぎり) は従来の質問紙調査と変わらないが、一部の回答者がデバイスを持っていなかったり使い方に不慣れであったりすれば、あるいは写真の撮影やアップロードを負担に感じたりするならば、無回答誤差 (non-response error) は大きくなるリスクがある。結局のところ、無回答誤差が大きくなるリスクが、狭義の観察誤差を縮小できる見込みに照らして許容できる程度に留まるか、また画像認識の技術などによってデータ処理誤差を縮小することができるか、といったことが写真調査の有効性を判断する上での鍵となるわけである⁶。すでに述べた本稿の目的をこの枠組みにそって述べ直せば、観察誤差に関わる問題は措いて無回答誤差について検討するということになる。

3. 本調査におけるセレクションのプロセスと、分析の方針

今回の調査では、一般的な質問紙調査形式の調査が完了したところで、最後の質問として「3月15日（金）ごろより、あなたご自身の手の写真を撮影いただき、その画像をアップロードいただくアンケートを実施する予定です。画像をアップロードいただいた方には、200円相当のポイントを後日付与させていただきます。あなたはそのようなアンケートにご協力いただけますか」という文章を提示し、応諾した回答者にのみ後日、回答者の手の写真をアップロードするよう依頼を送付した。依頼に応じて撮影・アップロードされ、指示にしたがって撮影されていることが確認された写真が有効回答となる。

以上を整理すると、今回の調査における写真調査のプロセスは、(1) 協力に応諾するかどうかと、(2) 依頼に応じて有効なデータをアップロードするかどうか、という2段階のセレクション

⁴ 日本学術会議社会学委員会（2020）の訳にしたがう。

⁵ たとえば、写真調査では調査者が意図した対象が撮影されていなかったり、手ぶれや光量不足による不鮮明な写真が提出されたりする可能性があるが、これらは従来の質問紙調査において回答者が質問の意図を理解できなかったり、不十分な内容の回答を提出したりするケースに相当するので、写真調査固有の問題ではない。

⁶ Ilic et al. (2022) では、オランダでの家計パネル調査において、回答者が住居に設置されている暖房システムに関する自由記述を求められる群と、暖房システムの写真を撮影・アップロードするよう求められる群へとランダムに割り当てられた。後者の群では、自由記述群に比べて回答拒否が多かったが、自由記述群に比べて情報が不十分で無効になってしまう回答は少なかったため、最終的な有効回答率で見ると自由記述群と有意な差がなかったと報告されている。

がかかる過程として整理できる（図 4.1）．この過程は、一部のパネル調査と同型のものとして理解できる．たとえば全国家族調査パネルスタディ（NFRJ-08Panel）は、第 3 回全国家族調査（NFRJ08）の回答者のうち継続調査に応諾した者を対象としているので、NFRJ08 の回答段階で応諾のセレクションがかかり、応諾者が実際に継続調査に回答するかどうかでさらにセレクションがかかる過程になっている．ところで、NFRJ-08Panel のデータを分析した三輪（2014）によれば、応諾の段階と継続調査への回答の段階では、回答者の残存・脱落を予測する変数が一部ことになっている．このことから類推すると、今回の写真調査においても、セレクションの各段階で関連する変数が異なっている可能性を考えたほうがよいと思われる．

以上の検討より、本稿では、図 4.1 に示すセレクション 1 とセレクション 2 の各段階に分けて、どれくらいの回答者が残存するのか、また残存のしやすさが何らかの変数と関連しているのかを確認していくことにする．具体的には、さまざまな変数と残存率とのクロス集計表を探索的に確認した上で、残存率を予測する多変量モデルの検討を通じて、残存のしやすさと関連すると考えられる変数を絞り込んでいく．

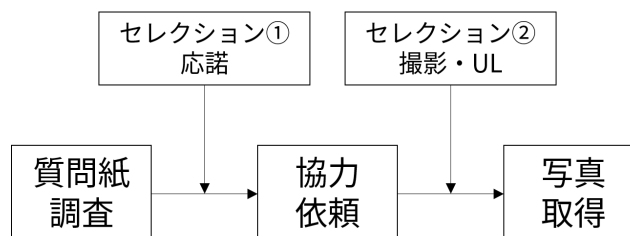


図 4.1 写真調査における 2 段階のセレクション

4. 使用する変数

写真調査への協力との関連を検討した変数は次のとおりである．まず基本的なデモグラフィック変数として、性別（女性ダミー）、年齢、最終学歴（中学・高校、専門学校・短大、大学・大学院の 3 カテゴリー）を使用した．社会経済的変数として、職の有無とタイプ（無職、顧客に対面でほとんど接しない職、顧客と対面でたまに接する職、顧客と対面でよく接する職の 4 カテゴリー）、個人年収、世帯年収を使用した．年収はいずれも、DK（わからない、答えたくない）を 1 つのカテゴリーとして分離した上で、有効回答を 4 分位数で 4 群に分けた計 5 カテゴリーの変数とした．また、容姿や外見管理に関連する変数として、BMI、美容店もしくは理容店に 1 年間でかけた費用（年収と同様に、DK と 4 分位数で分けた 4 群の計 5 カテゴリー）、グルーミングにかかる時間、服装こだ

わり因子⁷、ファッション情報因子⁸、自身の容姿の自己評価⁹を使用した。また、権威主義的態度¹⁰と再生産役割規範¹¹との関連も探索的に確認することにした。「グルーミングにかかる時間」以降に挙げた変数はすべて DK がないため、クロス集計表を作成する際は 4 分位数で分けた 4 カテゴリに変換し、多変量解析に投入する際は平均値で中心化した連続量として投入する。

5. 分析結果

5-1. 協力率の基礎集計

質問紙調査に回答した 1,000 人のうち、写真調査への協力に応諾したのは 485 人（48.5%）で、そのうち有効回答が得られたのは 357 人（73.6%）であった。質問紙調査の回答者のうち、最終的に写真調査への協力が得られたのは 35.7%ということになる。本調査と同様にオンライン調査モニターを対象とした調査事例である Iglesias and Revilla（2024）では、2021 年の調査で写真調査への参加意向を尋ねたところ 48.7%がいわゆる自撮り（selfie）を提出する調査に参加意向を表明した、という結果が報告されている。Iglesias and Revilla（2024）ではスマートフォンでアクセスしている回答者にしか参加意向を尋ねていないため、本調査と直接的な比較はできないが、本人を撮

⁷ 「ファッションに興味がある」、「外出するときは服のコーディネートをよく考える」、「外出する前には全身を鏡で見てチェックする」、「服を買うときは試着したり、サイズやシルエット、色などを慎重にチェックする」、「服装には自分なりのこだわりがある」、「服は暑さ寒さをしのげれば何でもいい」（逆転項目）の 6 項目（ $\omega=0.91$ ）への回答に、それぞれ「あてはまらない」1 点～「あてはまる」4 点として得点を与え、回答者ごとに平均値を求めたもの。

⁸ 「ファッション誌やネット上のファッション情報をときどきチェックしている」と「服のウィンドウショッピングをしたり、服のオンラインショップをチェックするのが好きだ」の 2 項目（ $r=0.74$ ）への回答に、それぞれ「あてはまらない」1 点～「あてはまる」4 点として得点を与え、回答者ごとに平均値を求めたもの。探索的因子分析の結果では、服装こだわり因子と区別したほうがモデルの適合度が高かったものの因子間相関は 0.79 と高いため、服装こだわり因子と統合してもよいかもしれないが、探索的な分析を中心的な目的とする本稿の性格に鑑みて分離して扱ってみることにした。

⁹ 「私は顔が良いほうだ」、「私はスタイルが良いほうだ」、「私は清潔感があるほうだ」、「私はオシャレなほうだ」、「私は肌が美しいほうだ」の 5 項目（ $\omega=0.90$ ）への回答に、それぞれ「そう思わない」1 点～「そう思う」5 点として得点を与え、回答者ごとに平均値を求めたもの。

¹⁰ 「権威のある人々にはつねに敬意をはらわなければならない」、「以前からなされてきたやり方を守ることが、最上の結果を生む」、「伝統や慣習にしたがったやり方に疑問をもつ人は、結局は問題をひきおこすことになる」、「この複雑な世の中で何をなすべきか知るいちばんよい方法は、指導者や専門家にたよることである」の 4 項目（ $\omega=0.83$ ）への回答に、それぞれ「そう思わない」1 点～「そう思う」5 点として得点を与え、回答者ごとに平均値を求めたもの。

¹¹ 「母親が外で働いていると、小学校入学前の子供は精神的に傷つくようだ」、「母親がフルタイムで働いていると、家庭生活は損なわれるものだ」、「仕事を持つのはいいことだが、女性の多くが本当に望んでいるのは家庭と子どもだ」、「男性の仕事は収入を得ること、女性の仕事は家庭と家族の面倒をみることだ」の 4 項目（ $\omega=0.84$ ）への回答に、それぞれ「そう思わない」1 点～「そう思う」5 点として得点を与え、回答者ごとに平均値を求めたもの。大和（1995）が指摘する性別役割分業意識の二次元にそくして解釈すると、4 項目中 3 項目は「愛による再生産役割」を女性に期待する意識を捕捉するものと考えられるので、「再生産役割規範」と命名した。

影するような写真調査の場合は、ある程度の調査慣れが期待されるオンライン調査モニターでも半数程度の回答拒否は見込まなければならない、という大雑把な見積りはできるかもしれない。

表 4.1 各段階の回答者数

質問紙調査 回答者	1,000	拒否	515		
		応諾	485	無回答・無効	128
				有効回答	357

5-2. 他の変数との関連

セレクションの各段階に関して、第 4 節に挙げた変数と残存・脱落との関係をクロス集計表で確認した結果が表 4.2・付表 1 である。詳細な数値は付表 1 に譲り、表 4.2 にはカイ 2 乗検定の結果（p 値）のみを示した。

表 4.2 各変数と各セレクションにおける残存・脱落との関連

	セレクション 1	セレクション 2
性別	0.016	0.725
年齢	< 0.001	0.759
最終学歴	0.024	0.776
世帯年収	< 0.001	0.228
個人年収	< 0.001	0.243
職業	0.002	0.225
美容店・理容店支出額	0.041	0.269
グルーミング時間	0.138	0.431
BMI	0.876	0.964
服装こだわり因子	< 0.001	0.053
ファッション情報因子	0.007	0.318
容姿の自己評価	0.102	0.647
権威主義的態度	0.165	0.679
再生産役割規範	0.015	0.886

各セルの値は該当するクロス集計表のカイ 2 乗検定の p 値
網かけのセルは 5%水準で有意

セレクション 1（写真調査への協力を応諾するかどうか）は、さまざまな変数と関連している。付表 1 を簡単に確認すると、女性よりも男性のほうが、年齢が若い回答者のほうが、最終学歴が高い回答者のほうが、個人年収が高い回答者のほうが、ファッションに関する情報をチェックするのが好きと認識している回答者のほうが、それぞれ応諾率が高い。世帯年収、美容店・理容店支出額に関しては応諾率と線形的な関係にはなく、検定の結果が有意になるのは DK の回答者において顕著に応諾率が低いことによると考えられる。服装こだわり因子との関連も線形的ではなく、

服装へのこだわりをもっとも強く認識している 1/4 の回答者において協力率が顕著に高い。職業については、無職とそれ以外の回答者とのあいだの差が顕著であり、顧客との対面的な接触の多寡によって差がある傾向は読み取れない。再生産役割規範との関連も有意ではあるが、1Q と 4Q で協力率が高くなるという U 字型の関連で、解釈は難しい。

他方、セレクション 2（応諾したという条件下で、実際に有効な写真を提出するかどうか）に関しては、有意な連関がまったく見られない。ただし、服装こだわり因子との関連は $1Q < 2Q = 3Q < 4Q$ というようにおおむね線形的ではあり、この段階で残存しているサンプルが少なかったために有意にならなかっただけかもしれない。

5-3. 多変量解析

前節で協力率との関連が見られた変数は互いに交絡している可能性も大いにあるので、とくにどの変数が重要であるのかを絞り込むために、おもにセレクション 1 に注目して多変量解析のモデルを検討した。具体的には、セレクション 1 での応諾に 1、拒否に 0 を割り当てたダミー変数を従属変数とし、独立変数として性別と年齢のみを投入したプロビットモデルをまず推定し、前節で関連が見られたデモグラフィック変数および社会経済的変数を追加し、BIC によりモデルを比較した。比較の結果、適合度が改善されたのは個人年収を加えたモデルのみであったが、個人年収を投入すると性別の係数が有意でなくなり、性別を除いたモデルのほうが高い適合度を示したため、年齢と個人年収のみのモデルをモデル 1 として採用した。そのモデルに意識変数を加えたところ、服装こだわり因子のみを加えたモデルの適合度がもっとも高いので、これをモデル 2 とした。

以上のモデルの推定結果は表 4.3 に示すとおりである。今いちど、各変数と応諾率との関連を確認しておくと、年齢が若い回答者ほど応諾率が高く、個人年収がもっとも高い 1/4 の回答者は、もっとも低い 1/4 の回答者に比べて応諾率が高い（有意ではないものの、係数の値は 2Q、3Q、4Q の順に大きくなっており、DK では負である）。モデル 2 より、これらの関連が服装こだわり因子を統制してもほぼ同じマグニチュードで確認されることと、服装へのこだわりがあると認識している回答者ほど応諾率が高い傾向にあること、が分かる。

表 4.3 写真調査への応諾を予測するプロビットモデル

	Coef.	SE	Coef.	SE
切片	-0.193 *	0.081	-0.200 *	0.081
年齢	-0.019 ***	0.004	-0.019 ***	0.004
個人年収 2Q (vs. 1Q)	0.073	0.114	0.067	0.114
個人年収 3Q	0.190	0.122	0.205	0.123
個人年収 4Q	0.539 ***	0.118	0.554 ***	0.119
個人年収 DK	-0.262	0.162	-0.238	0.163
服装こだわり因子			0.188 ***	0.050
Log-lik.		-664.663		-657.401
BIC		1370.773		1363.156
N		1000		1000

前節では、セレクション 2 では統計的に有意な連関を示す変数が見られず、応諾者のなかからの脱落はランダムに生じているように見えたが、サンプルセレクションモデル (Breen 1996=2022) を推定したところ、服装こだわり因子の係数が 5%水準で有意であった (表 4.4)¹²。前節でも言及したとおり、セレクション 2 における残存と服装こだわり因子とのあいだには線形に近い関係がありそうではあるので、この段階でも系統的なセレクションが多少はかかっていると見たほうがよいかもしれない。

表 4.4 サンプルセレクションモデル

	Coef.	SE
セレクションレベル：プロビットモデル（応諾=1）		
切片	-0.193 *	0.081
年齢	-0.019 ***	0.004
個人年収 2Q (vs. 1Q)	0.053	0.115
個人年収 3Q	0.207	0.122
個人年収 4Q	0.546 ***	0.119
個人年収 DK	-0.258	0.164
服装こだわり因子	0.188 ***	0.050
観察レベル：線形確率モデル（有効データの提出=1）		
切片	0.680 ***	0.063
服装こだわり因子	0.062 *	0.025
Sigma	0.441 ***	0.016
Rho	0.147	0.169
Log-lik.		-945.282
N（サンプル全体）		1000
N（観察数）		485

6. 議論

前節の分析から、少なくともセレクション 1（写真調査への協力を応諾するかどうか）の段階では系統的なセレクションが発生しており、無回答バイアスをもたらす可能性があることが示された。具体的には、年齢が高い回答者や、収入が少ない回答者が脱落しやすい。服装こだわり因子を統制してもこれらの関連が見られたことから、質問紙調査の段階で身だしなみや服装に関する質問を多く含み、写真調査でも身体の一部を撮影することを求めているという本調査固有の事情を割り引いても、写真調査一般において年齢が高い回答者や収入が少ない回答者が脱落しやすい可能性が示唆される。

¹² モデル推定上の制約により、観察レベルのモデルは線形確率モデルになっていることに注意されたい。服装こだわり因子の係数 0.062 は、同因子の値が 1 ポイント高くなると有効データの提出率が 6.2 ポイント高くなることを表す。なお、誤差項の相関 (Rho) が小さいので、観測レベルのみで独立したモデルを推定しても大きな問題はないかもしれない。その場合、服装こだわり因子の係数は 0.055 である。

本章ではこのようなセレクションが生じるメカニズムまで検証することはできないが、今後の議論のためにいくつか考えられる点を挙げておきたい。まず年齢が高い回答者ほど脱落しやすい（そもそも応諾しない）という点については、回答時に使用されるデバイスの影響が考えられる。本調査のデータには回答時のデバイスの情報が含まれないので、筆者が利用可能なオンラインモニター調査のデータで使用デバイスの情報を含み、なるべく最新のものとして「第1回データ駆動社会に関する意識調査」（2020年）のデータを参照すると、回答者の年齢と使用デバイスの関係は表4.5のとおりである。年齢が高くなるにしたがってパソコンでの回答が増え、スマートフォンでの回答が少なくなる傾向が明瞭に見て取れる。今回の調査とは調査時期も調査会社も異なるため断定まではできないものの、スマートフォンの使用を暗黙の前提とした調査設計によって、スマートフォンで回答する習慣のない回答者が脱落しやすくなり、それが結果として中高齢者の低い応諾率をもたらした可能性は十分に考えられる。

表 4.5 モニターの年齢と回答時の使用デバイス

	PC	スマホ	タブレット	その他
20代	31.1%	66.1%	2.6%	0.2%
30代	41.6%	55.0%	3.1%	0.3%
40代	55.2%	41.0%	3.1%	0.6%
50代	63.1%	33.3%	3.5%	0.2%
60代	79.2%	17.3%	3.2%	0.4%

出所：「第1回データ駆動社会に関する意識調査」より筆者作成

一方で、個人年収と応諾率との関連については解釈が難しい¹³。イギリスの家計パネル調査で、スマートフォンにダウンロードした専用のアプリケーションを使ってレシートを撮影する写真調査を取り入れた事例（Jäckle et al. 2019）では、低所得者ほどスマートフォンを所有していないために調査に参加できない傾向があったと述べられているが、対象者がオンライン調査モニターに限られている本調査にはこの傾向は当てはまりにくいだろう。モデル比較の過程で、年齢に加えて性別を投入するよりも個人年収を投入したほうが適合度が高かったという理由で年齢＋個人年収のモデルを選択したが、実際には性別の効果（女性よりも男性のほうが応諾しやすい）のほうが基底にあって、それが個人年収の効果として表れているだけかもしれない¹⁴。他に検討の余地がある仮説としては、開放性（openness）や誠実性（conscientiousness）といった収入と相関するパーソナリティ特性が（Alderotti et al. 2023）、調査への協力的な態度とも相関していることなども考えられる。

以上のように、写真調査において特定のグループに偏った無回答が生じうることは明らかになったが、それを防ぐための手がかりとなる無回答発生メカニズムについてはさらなる検討が必要である。また、第2節で論じたように、写真調査の有効性を判断するためには、無回答誤差の

¹³ 個人年収と使用デバイスについても「第1回データ駆動社会に関する意識調査」のデータを使ってクロス集計表を確認してみたが、有意な関連は確認されなかった。

¹⁴ 写真調査への協力を抑制すると予想される（Jäckle et al. 2019）プライバシー不安（privacy concern）は、学歴や関連する知識のレベルを統制しても女性のほうが強い（山本・赤堀 2023）。

存在だけを見て悲観するのではなく、写真調査によって実現できる観察誤差の縮小とのトレードオフを考えなければならない。この側面に関する検討も今後の課題としたい。

文献

- Alderotti, G., C. Rapallini and S. Traverso, 2023, “The Big Five Personality Traits and Earnings: A Meta-Analysis,” *Journal of Economic Psychology*, 94: 102570.
- Biemer, P. P., 2010, “Total Survey Error: Design, Implementation, and Evaluation,” *Public Opinion Quarterly*, 74(5): 817-848.
- Bosch, O. J., M. Revilla and E. Paura, 2019, “Answering Mobile Surveys with Images: An Exploration Using a Computer Vision API,” *Social Science Computer Review*, 37(5): 669-683.
- Bosch, O. J., M. Revilla, D. D. Qureshi and J. K. Höhne, 2022, “A New Experiment on the Use of Images to Answer Web Survey Questions,” *Journal of the Royal Statistical Society Series A: Statistics in Society*, 185: 955-980.
- Breen, R., 1996, *Regression Models: Censored, Sample Selected, or Truncated Data*, Sage. (=2022, 水落正明 訳『打ち切り・標本選択・切断データの回帰モデル』共立出版.)
- Iglesias, P. A and M. Revilla, 2024, “Skills, Availability, Willingness, Expected Participation and Burden of Sharing Visual Data within the Frame of Web Surveys,” *Quality and Quantity*, 58: 1071-1092.
- Ilic, G., P. Lugtig, B. Schouten, M. Streefkerk, J. Mulder, P. Kumar and S. Höcük, 2022, “Pictures Instead of Survey Questions: An Experimental Investigation of the Feasibility of Using Pictures in a Housing Survey,” *Journal of the Royal Statistical Society Series A: Statistics in Society*, 185(Supplement 2): S437-S460.
- Jäckle, A., J. Burton, M. P. Couper and C. Lessof, 2019, “Participation in a Mobile App Survey to Collect Expenditure Data as Part of a Large-Scale Probability Household Panel: Coverage and Participation Rates and Biases,” *Survey Research Methods*, 13(1): 23-44.
- 三輪哲, 2014, 「NFRJ-08Panel におけるウェイトによる脱落への対処」『家族社会学研究』26(2): 169-178.
- 日本学術会議社会学委員会, 2020, 「Web 調査の有効な学術的活用を目指して」.
- Wentz, A., A. Jäckle, and M. P. Couper, 2019, “Willingness to Use Mobile Technologies for Data Collection in a Probability Household Panel,” *Survey Research Methods*, 13(1): 1-22.
- 山本耕平・赤堀三郎, 2023, 「高度情報化社会におけるプライバシー不安——ジェンダー差に注目して」『東京女子大学社会学年報』(11): 1-14.
- 大和礼子, 1995, 「性別役割分業意識の二つの次元——『性による役割振り分け』と『愛による再生産役割』」『ソシオロジ』40(1): 109-126.

付表 1 各セレクションにおける残存率

	セレクション 1	セレクション 2		セレクション 1	セレクション 2
性別			グルーミング		
女性	44.5%	72.6%	1Q	46.7%	72.8%
男性	52.4%	74.4%	2Q	43.3%	69.2%
年齢			3Q	54.0%	73.2%
1Q	57.1%	72.9%	4Q	51.1%	81.2%
2Q	49.8%	71.9%	BMI		
3Q	48.8%	73.0%	1Q	47.0%	75.4%
4Q	37.8%	78.0%	2Q	50.6%	73.0%
最終学歴			3Q	48.0%	73.3%
中学・高校	43.9%	73.8%	4Q	48.4%	72.7%
専門・短大	49.3%	76.0%	服装こだわり因子		
大学・大学院	53.6%	72.2%	1Q	42.4%	66.1%
世帯年収			2Q	49.8%	73.9%
1Q	44.0%	70.9%	3Q	41.8%	70.8%
2Q	56.7%	68.7%	4Q	60.1%	81.3%
3Q	54.5%	77.6%	ファッション情報因子		
4Q	52.1%	72.3%	1Q	42.9%	70.2%
DK	32.1%	84.0%	2Q	47.1%	77.7%
個人年収			3Q	53.4%	68.3%
1Q	42.5%	70.5%	4Q	56.7%	76.3%
2Q	45.7%	78.8%	容姿の自己評価		
3Q	51.8%	68.7%	1Q	43.6%	75.0%
4Q	61.7%	72.9%	2Q	51.1%	74.6%
DK	31.8%	85.7%	3Q	47.4%	69.2%
職業			4Q	53.8%	75.6%
無職	38.3%	77.9%	権威主義的態度		
対面：ほとんど	50.3%	68.3%	1Q	49.0%	76.1%
対面：やや	55.2%	76.9%	2Q	50.0%	69.5%
対面：よく	52.0%	75.9%	3Q	43.8%	74.1%
美容店・理容店支出額			4Q	54.2%	74.4%
1Q	51.8%	68.9%	再生産役割規範		
2Q	52.5%	68.4%	1Q	52.6%	72.0%
3Q	47.3%	75.9%	2Q	44.9%	72.8%
4Q	53.3%	74.2%	3Q	42.7%	74.2%
DK	41.0%	80.2%	4Q	55.2%	76.2%

第 5 章

誰が美容サロンに行くのか：理容・美容店，エステサロン，ネイルサロン利用者の属性と意識

松尾 寛子

1. はじめに

容姿や身だしなみ，立居振る舞いが特定の階層や集団を表し，美しさや上品さ，振る舞いの適切さが他者に卓越していることの表現として用いられることはブルデューをはじめ多くの研究がある．これらの研究では女性の化粧習慣や美容院へ通う頻度，容姿・容貌への願望が階層や職業と関係することが知られている．国内研究では谷本（2012）は美容整形・美容医療を希望し実践する人々について，施術希望には性別が，実践には年収が効果をもつという．太郎丸（2023）は身体変容寛容度と年齢の関係について，年齢が低いほど身体変容に寛容であると指摘する．これらの先行研究をふまえ，本研究では美容整形や身体変容よりも日常的な美容行動について属性や意識との関係を明らかにする．

2. 調査と分析

美容行動と属性，意識の関係を『仕事と身だしなみに関する調査 2024』（以下，調査 2024 と記す）をもちいて分析する．調査 2024 は 2024 年 2 月から 3 月にかけて行われたウェブ調査で，日本在住の 20 歳から 59 歳の男女が対象である．性別，年齢の同時分布を総務省の 2024 年 1 月 1 日の推計値に近似させ，性別，年齢で条件付けたときの学歴の分布を 2020 年の国勢調査の分布に近似するように割り当てたサンプルから，有効回答 1000 を得た（太郎丸 2025）¹．質問は本人の属性（性別，年齢，学歴，年収，労働状況，体型，文化資本，手の自撮り写真など），美容行動（理容・美容店，エステサロン，ネイルサロンの頻度と支出，日々の髪や肌の手入れ時間など），意識（権威主義傾向，性役割意識，容姿の自己評価，ファッション感度，生活満足度など）についての項目と，服装や身体装飾に関するピネット調査をあわせた合計 38 問で構成される．

本研究は調査 2024 のうち，美容行動と属性，意識をあらわす変数をもちいて分析する．美容行動をあらわす変数は理容・美容店（以下，ヘアサロンと記す），エステサロン，ネイルサロンの各サロンの過去 1 年間の利用頻度（以下，頻度と記す）と過去 1 年間の支出額（以下，支出と記す）の 6 変数である．属性と意識をあらわす変数は性別，年齢，世帯年収，本人年収，生活満足度，権威主義傾向，性役割意識，容姿の自己評価の 8 項目である．

各サロンの頻度は付録表 1 で示す区分のカテゴリ変数である．支出は 0 円を 1 とし，1000 円ご

とにカテゴリが 1 増える順序カテゴリで、上限を「210000 円以上」の 68 とする．性別は男女のカテゴリ変数，年齢は回答された年齢を連続変数として扱う．世帯年収と本人年収は付録表 2 で示す区分のカテゴリ変数，生活満足度は「不満」から「満足」までの 5 段階の回答を 1 から 5 のカテゴリに変換する．権威主義傾向，性役割意識，容姿の自己評価をあらわす変数は付録の表 3，4，5 に示す複数の質問の回答から生成する²．

分析は谷本（2012）と太郎丸（2023，2024）の結果をふまえて行う．谷本（2012）は美容整形・美容医療の施術希望は女性に多く，年齢，世帯年収，学歴，婚姻とは関係しないこと，美容実践は世帯年収に規定されると述べる．また，施術希望も美容実践も自己満足がその理由の中心であると指摘する．太郎丸（2023）では年齢が身体変容寛容度に効果をもつこと，太郎丸（2024）では外見の自己評価が高い人，ヘアサロンの利用が多い人，日々の髪の手入れの時間が長い人は権威主義的な傾向にあるという．これらの先行研究をうけ，本研究では各サロンの頻度と支出が性別，年齢，年収，意識とどのような関係にあるかを分析する．調査 2024 ではエステサロンとネイルサロン利用の男性がきわめて少なかったこと（エステサロン 12 人，ネイルサロン 4 人），ブルデュー（1979）は女性を対象に容姿・容貌にかんする価値観を調査していることから，谷本（2012）では施術希望の意識について全体サンプルと女性サンプルとに分けて分析していることから，本研究ではヘアサロン利用の男女差の分析以外は女性サンプル（N:492）を対象とする．全体サンプルと男性サンプルの記述統計は付録の表 6，7 に示す．

分析は R（バージョン 4.4.2）および RStudio（バージョン 2024.12.0+467）で行う．

3. 結果

記述統計を表 5.1 に，過去 1 年間のヘアサロン利用別の他サロン利用の度数分布を表 5.2 に，3 つのサロンの頻度と支出の関係を表 5.3 に示す．美容行動に年齢を回帰させた結果を表 5.4，年収を回帰させた結果を表 5.5，5.6 に示す．美容行動と意識との相関を表 5.7 に示す．

表 5.1 記述統計

	年齢	世帯年収	本人年収	ヘア 頻度	エステ 頻度	ネイル 頻度	ヘア 支出	エステ 支出	ネイル 支出	権威主義 傾向	性役割 意識	容姿の 自己評価	生活 満足度
Min.	20.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	4.0	2.0	5.0	1.0
1st Qu.	32.0	7.0	2.0	2.0	1.0	1.0	9.0	7.0	7.0	9.0	4.0	9.0	2.0
Median	43.0	9.0	4.0	4.0	1.0	1.0	17.0	16.0	14.5	11.0	5.0	12.0	4.0
Mean	42.09	9.32	4.35	3.45	1.39	1.33	28.00	40.07	28.77	10.86	4.92	12.51	3.29
3rd Qu.	51.0	12.0	7.0	5.0	1.0	1.0	38.0	53.5	34.5	13.0	6.0	16.0	4.0
Max.	59.0	19.0	15.0	8.0	8.0	7.0	211.0	211.0	151.0	20.0	10.0	15.0	5.0
SD	10.78	5.18	5.29	1.63	1.23	1.18	29.14	48.57	34.17	2.96	1.97	4.59	1.13
NA's	0	88	40	0	0	0	100	436	448	0	0	0	0

表 5.2 ヘア利用別のサロン利用の度数分布

ヘア利用あり				ヘア利用なし					
エステ				エステ					
		あり	なし	合計			あり	なし	合計
ネイル	あり	22	21	43 (11%)	ネイル	あり	0	1	1 (1%)
	なし	33	316	349 (89%)	ネイル	なし	1	99	99 (99%)
合計		55 (14%)	337 (86%)	392	合計		1 (1%)	99 (99%)	100

表 5.6 美容行動を本人年収に回帰させた結果

	ヘア頻度	エステ頻度	ネイル頻度	ヘア支出	エステ支出	ネイル支出
切片	2.91*** (0.14)	0.97*** (0.10)	1.00*** (0.10)	24.36*** (2.84)	17.60 (17.27)	42.37** (12.49)
本人年収	0.12*** (0.03)	0.10*** (0.02)	0.08*** (0.02)	0.83 (0.52)	3.46 (2.51)	-2.18 (1.82)
R ²	0.05	0.05	0.04	0.01	0.04	0.03
サンプル数	452	452	452	361	53	44

*** p<0.001; ** p<0.01; * p<0.05

ヘアサロンを過去 1 年間に 1 回以上利用した人は 392 人（80%）だが、エステサロンは 56 人（11%）、ネイルサロンは 44 人（9%）と、ヘアサロンに比べて大幅に少ない（表 5.2）。また、3 つのサロンすべてに過去 1 年間で 1 回以上行ったのは 22 人（4%）である。

各サロンの頻度と支出の関係では、どのサロンも頻度と支出は正の相関がある。サロンの頻度どうしは強い正の相関があるが、支出間の相関はエステサロンとネイルサロンのみである（表 5.3）。

年齢と美容行動の関係では年齢があがるとエステサロンとネイルサロンの頻度がさがる（表 5.4）。谷本（2012）は美容整形・美容医療の施術希望について、渡辺（2022）は化粧習慣行について、年齢の効果はないと指摘するが、サロン利用では年齢との関係が認められた。

年収と美容行動の関係では、世帯年収との関連があるのはヘアサロンだけである（表 5.5）。世帯収入は階層を決める重要な指標であり、収入が多い世帯の女性は所属階層にふさわしい容姿・容貌のために各サロンの利用が増えると予想していたが、そのような結果にはならなかった。一方で、本人の年収が増えるとすべてのサロンの頻度があがる（表 5.6）。ヘアサロンの頻度は世帯年収と本人年収のどちらとも正の相関があるのに対して、ネイルサロンとエステサロンは本人年収とだけ正の相関がある。髪の手入れを必要消費、エステやネイルを贅沢消費と考えたと³、贅沢消費は自らの収入から支出するという意識があるのかもしれない。

意識と美容行動では、太郎丸（2024）が指摘したヘアサロン利用と権威主義傾向との関係は把握できなかった（表 5.7）。権威主義傾向はネイルサロンの頻度とのみ正の相関がある。統計的な有意差は検出されなかったが、3 つのサロンの支出と権威主義傾向、性役割意識の相関係数がすべて負の値となっている。権威主義傾向や性役割意識のような保守的な規範意識が美容支出を抑制する可能性について今後詳しく分析したい。容姿の自己評価はすべてのサロンの頻度と強い正の相関がある。容姿の自己評価が高いから頻繁にサロンに通うことも、その逆もありうるが、容姿の自己評価は支出よりも頻度と関係することがわかった。生活満足度はヘアサロンの頻度と支出の両方と正の相関があり、ネイルサロンの支出と負の相関がある。髪の手入れという必要消費が生活満足度と関係することが示唆されるが、生活満足度は年齢、年収、家族、健康状態など多くの要因があるため、他の変数を含んだモデルでの分析が必要である。

4. 美容行動と属性、意識

分析結果をふまえ、サロンごとの利用者の属性と意識をまとめる。

4-1. ヘアサロン

ヘアサロンの利用については男女差もみておく。男女別のヘアサロンの過去1年間の利用有無の度数分布が表5.8である。男性の34%、女性の20%が過去1年間、一度もヘアサロンに行っていない。

頻度では男女の平均の差はないが、支出は女性の方が多（図5.1，図5.2）⁴。女性の方が髪の手入れに多くの金額を費やすといえるが、理容店と美容店でサービス料金が異なることも影響していると考えられる⁵。

属性や意識との関係では、世帯年収が多いほど、本人年収が多いほど、容姿の自己評価が高いほど、ヘアサロンの頻度があがる。また、世帯年収が多いほど、性役割意識が低いほど、容姿の自己評価が高いほど、生活満足度が高いほど、ヘアサロンへの支出が増える。一般的に世帯年収が増えると各種支出が増えていくが、世帯年収と関連があるのはヘアサロンだけである。必要消費は世帯年収と、贅沢消費は本人年収と連動する可能性が示唆される。

表 5.8 ヘアサロン利用の度数分布

	1年間で0回	1年間で1回以上	計
男 行%	171 34%	337 66%	508
女 行%	100 20%	392 80%	492
計 行%	271 27%	729 73%	1000

4-2. エステサロン

エステサロンについては、年齢が低いほど、本人年収が高いほど、容姿の自己評価が高いほど頻度があがるが、支出と関連する属性や意識はなかった。谷本（2012）、渡辺（2022）で規定要因とならなかった年齢であるが、エステサロンの頻度とは関連があることがわかった。

4-3. ネイルサロン

ネイルサロンについては、年齢が低いほど、本人年収が高いほど、権威主義傾向が強いほど、容姿の自己評価が高いほど頻度があがる。また、生活満足度が高いほど支出が減る。全体的にエステサロンとネイルサロンは同じような傾向を示すが、権威主義傾向と生活満足度との関係はネイルサロンに特有であり、ネイルサロンの利用が他の美容行動とは異なる特徴をもつ可能性がある。疑似関係や媒介関係などを検討しつつさらに分析を進めたい。

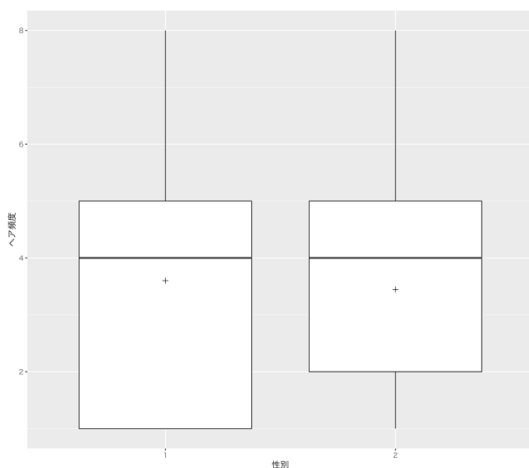


図 5.1 ヘア頻度の平均の男女差（1：男，2：女）

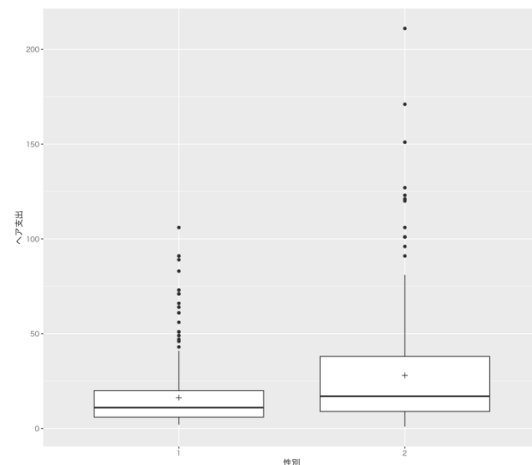


図 5.2 ヘア支出の平均の男女差（1：男，2：女）

5. まとめと議論

本研究では日常的な美容行動と関係する属性，意識がどのようなものかを分析した．先行研究のとおり，美容行動は女性の方が多くことや年収が関係することが確認できた一方，先行研究では関係が指摘されなかった年齢について，エステサロン，ネイルサロンの利用頻度と関連することが明らかになった．また，美容サロンの利用頻度は容姿の自己評価と強い関連があることもわかった．権威主義傾向や性役割意識，生活満足度は美容サロンの頻度や支出と部分的な関連が認められたが，それらの因果の説明には至らなかった．今後，関連する変数を含むより広範なモデルで分析する必要がある．特に権威主義傾向と性役割意識が各サロンでの支出を抑制する可能性や美容行動が生活満足度に与える効果を明らかにすることが今後の課題である．

[注]

1. 有効回収率はスクリーニング調査の依頼数を分母とすると 1000/5505(18%)，スクリーニング調査の回答数者を分母とすると 1000/1988(50%)である(太郎丸 2025)．調査は調査会社のマイボイスコム株式会社に委託した．
2. 複数の質問項目の内部一貫性を評価する値であるクロンバックの α が 0.8 近くになるよう加算する項目を調整した．権威主義傾向は 4 項目すべての加算（クロンバックの α は 0.80），性役割意識は 7 項目のうちから 2 項目の加算（クロンバックの α は 0.79），容姿の自己評価は 5 項目すべての加算（クロンバックの α は 0.87）である．
3. 総務省統計局による家計調査の収支項目分類において理髪料，パーマメント代，カット代は基礎的支出（必需品的なもの），他の理美容代は選択的支出（贅沢品的なもの）となっている（総務省統計局 2025）．

4. ヘアサロン支出の男女の平均の差の検定： $t = -2.74$ （0.1%水準で有意）。
5. 総務省統計局による家計調査（総務省統計局 2024）では勤労世帯（平均 2.7 人）での理容美容サービスへの支出は 42238 円である。そのうち理髪代は 4779 円、カット代は 6018 円であり、理容師による調髪と美容師によるカットの費用の差がみてとれる。

〔文献〕

- Bourdieu, Pierre, 1979, *La Distinction*, Paris: Minuit. (石井洋二郎, 2020, 『[普及版] ディスタンクシオン社会的判断力批判 I』藤原書店.)
- 総務省, 2024, 「住民基本台帳に基づく人口, 人口動態及び世帯数」(2025 年 2 月 28 日取得: https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/daityo/jinkou_jinkoudoutai-setaisu u.html).
- 総務省統計局, 2022, 「令和 2 年国勢調査 就業状態等基本集計」(2025 年 2 月 28 日取得: <https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00200521&tstat=000001136464>).
- 総務省統計局, 2024, 「家計調査報告——月・四半期・年——」(2025 年 2 月 28 日取得: <https://www.stat.go.jp/data/kakei/sokuhou/tsuki/index.html#nen>).
- 総務省統計局, 2025, 「家計調査 支出弾力性の計算方法及び基礎的・選択的支出の格付方法について (2025 年 (令和 7 年) 1 月から) (2025 年 2 月 28 日取得: <https://www.stat.go.jp/data/kakei/kou2025/dan2025.html>).
- R Core Team, 2024, *R: A Language and Environment for Statistical Computing*. R Foundation for Statistical Computing, Vienna, Austria, (Retrieved February 28, <https://www.R-project.org/>).
- RStudio Team, 2020, *RStudio: Integrated Development for R*. RStudio, PBC, Boston, MA, (Retrieved February 28, 2025, <http://www.rstudio.com/>).
- 谷本奈穂, 2012, 「美容整形・美容医療を望む人々——自分・他者・社会との関連から——」『情報研究』37: 37-59.
- 太郎丸博, 2023, 「年齢と身体変容寛容度」, 太郎丸博のページ, (2025 年 2 月 28 日取得, http://tarohmaru.web.fc2.com/R/R_Introduction/SampleMiniReportCompareMeans.html).
- , 2024, 「制服は労働者を権威主義的にするか? 美的労働と社会意識」, 太郎丸博のページ, (2025 年 2 月 28 日取得, <https://rpubs.com/taroh/Slides2024KSA>).
- , 2025, 「公的な場における女性的服装規範」(2025 年 2 月 28 日取得, <https://rpubs.com/taroh/MiniReportLolita>).
- 渡辺裕子, 2022, 「化粧品の購買行動のメカニズムと情報源の機能——20 代～50 代女性の調査から——」『駿河台経済論集』32(1):35-59.

〔謝辞〕

本研究は JSPS 科研費 19K21721 の助成を受けたものである。

[付録]

表 1 サロン頻度の区分

カテゴリ	頻度
1	行かなかった
2	1年間で1回ぐらい
3	5～6ヶ月に1回ぐらい
4	3～4ヶ月に1回ぐらい
5	2ヶ月に1回ぐらい
6	月に1回ぐらい
7	月に2～3回ぐらい
8	週に1回以上

表 2 世帯年収，本人年収の区分

1	なし
2	70万円未満
3	70～100万円未満
4	100～130万円未満
5	130～150万円未満
6	150～250万円未満
7	250～350万円未満
8	350～450万円未満
9	450～550万円未満
10	550～650万円未満
11	650～750万円未満
12	750～850万円未満
13	850～1000万円未満
14	1000～1200万円未満
15	1200～1400万円未満
16	1400～1600万円未満
17	1600～1850万円未満
18	1850～2300万円未満
19	2300万円以上
20	わからない
21	答えたくない

表 3 権威主義傾向を構成する質問項

権威のある人々にはつねに敬意をはらわなければならない
以前からなされてきたやり方を守ることが、最上の結果を生む
伝統や慣習にしたがったやり方に疑問をもつ人は、結局は問題をひきおこすことになる
この複雑な世の中で何をなすべきか知るいちばんよい方法は、指導者や専門家にたよることである

表 4 性役割意識を構成する質問項目

母親が外で働いていると、小学校入学前の子供は精神的に傷つくようだ
母親がフルタイムで働いていると、家庭生活は損なわれるものだ

表 5 容姿の自己評価を構成する質問項目

私は顔が良いほうだ
私はスタイルが良いほうだ
私は清潔感があるほうだ
私はオシャレなほうだ
私は肌が美しいほうだ

表 6 全体サンプルの記述統計（N:1000, 男:508, 女:492）

	年齢	世帯年収	本人年収	ヘア 頻度	エステ 頻度	ネイル 頻度	ヘア 支出	エステ 支出	ネイル 支出	権威主義 傾向	性役割 意識	容姿の 自己評価	生活 満足度
Min.	20.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	4.0	2.0	5.0	1.0
1st Qu.	32.0	7.0	2.0	1.0	1.0	1.0	7.0	7.0	7.0	9.0	4.0	9.0	2.0
Median	43.0	9.0	6.0	4.0	1.0	1.0	13.0	13.5	13.0	11.0	5.0	12.0	3.0
Mean	41.97	9.49	5.97	3.52	1.23	1.18	22.57	35.99	27.15	10.89	4.99	12.13	3.17
3rd Qu.	51.0	12.0	8.0	5.0	1.0	1.0	20.0	49.5	33.3	13.0	6.0	15.0	4.0
Max.	59.0	19.0	19.0	8.0	8.0	8.0	211.0	211.0	151.0	20.0	10.0	25.0	5.0
SD	10.85	3.51	3.75	1.83	0.97	0.88	24.80	45.53	33.16	3.05	1.92	4.64	1.19
NA's	0	156	88	0	0	0	271	932	952	0	0	0	0

表 7 男性サンプルの記述統計（N:508）

	年齢	世帯年収	本人年収	ヘア 頻度	エステ 頻度	ネイル 頻度	ヘア 支出	エステ 支出	ネイル 支出	権威主義 傾向	性役割 意識	容姿の 自己評価	生活 満足度
Min.	20.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	2.0	3.0	5.0	4.0	2.0	5.0	1.0
1st Qu.	32.0	7.0	6.0	1.0	1.0	1.0	5.0	6.8	6.5	9.0	4.0	8.0	2.0
Median	43.0	9.0	8.0	4.0	1.0	1.0	11.0	9.0	8.5	12.0	6.0	12.0	3.0
Mean	41.85	9.64	7.56	3.60	1.08	1.03	16.26	16.92	9.25	10.92	5.07	11.78	3.05
3rd Qu.	51.0	13.0	10.0	5.0	1.0	1.0	20.0	14.8	11.3	13.0	6.0	15.0	4.0
Max.	59.0	19.0	19.0	8.0	7.0	6.0	106.0	61.0	15.0	20.0	10.0	25.0	5.0
SD	10.93	3.74	3.83	2.01	0.60	0.36	16.43	18.80	4.35	3.13	1.88	4.67	1.24
NA's	0	68	48	0	0	0	171	496	504	0	0	0	0

第 6 章

男性の外見管理の構造方程式モデルによる分析

永瀬 圭（大谷大学）

1. 目的

日本では、明治時代に富国強兵や殖産興業といった近代化が進められて以降、「男性は外見より中身である」といった社会規範が生じ(石田 2000)、男性が外見を気にするのは男らしくないとする価値観が強くなり(村澤 2001b)、ある程度外見に無頓着でも許されていた(栗田 2021)。しかし、1980年代に入ると、男性ミュージシャンのメイクアップが流行し(村澤 2001a)、1980年代後半頃には男性エステサロンや男性用のメイクアップ・スキンケア用品が登場し始める(村澤 2001a, 村澤 2007)。こうしたことを背景に、それまでは外見で評価されるのは女性であったが(石井・石田 2005)、男性も見ただけの立場から見られる立場にもならざるを得なくなった(村澤 2007)。その後、1990年代に入り、一気に男性の客体化が進んだという(北村 2021)。たとえば、1999年に日本石鹸洗剤協会が20代男性におこなった調査によると、入浴時に10%前後が保湿クリームや乳液を、入浴後に20%が化粧水を使用しており、若年層の男性のスキンケア意識に一般化の兆しが見える(菅沼 2001)。また、同年に資生堂が10代男性におこなった調査でも、28%が男性が化粧をしてもかまわないとしており、男性の化粧意識の高まりが見受けられる(菅沼 2001)。ただ、女性の美容に関する研究に比べて男性の研究は少ない。そのひとつに、美容にける時間や支出に関する小林(2020)の研究がある。小林は、合理的選択理論をもとに、2019年の「暮らしについての西東京市民調査」を用いて、社会経済的地位と美容への投資(美容や身だしなみにける時間や支出)との関連を検証している。そして、男性の場合、美容や身だしなみにける支出に対しては収入がプラスに影響することを明らかにしている(小林 2020)。

筆者も男性のおしゃれについて、2022年の「仕事と身だしなみに関する調査」を用いて検証している(永瀬 2022)。ここではおしゃれを、他者に悪い印象を与えないように、もしくは良い印象を持ってもらえるように外見を整えることとし、具体的には整髪料やワックスをつける、香水や消臭剤をつける、眉を整える、日焼け止めを塗る、アクセサリをつける、アイメイクをする、ファンデーションや口紅・リップグロスを塗る、マニキュアやジェルネイルなどをするという行為を取り上げて分析している。そして、仕事と休日の違いはあるものの、全体として男性のおしゃれの頻度が高いとは言えず、また、社会経済的地位とおしゃれとの関連については、学歴と休日のおしゃれにマイナスの関連があるという結果が出た。

そこで、これらの研究をもとに、本稿では2024年におこなわれた調査データを用いて、男性の

社会経済的地位(学歴と収入)が外見管理¹⁵にどのような影響を及ぼしているのかを再度検証する。また、マスクの着用が任意となった現在では(厚生労働省 2024)、2022 年の調査時点とは異なった様相を呈している可能性があるので、この点についても確認する。

2. 方法

2-1. 調査の概要と分析対象および分析方法

分析には、「美的労働調査 2024」を用いる。この調査は、日本に在住する 20～59 歳の者を対象にして、2024 年に web 上でおこなわれたものである。そのうち、20～59 歳の男性 460 名を対象に、R4.2.0(R Core Team 2022)を用い、共分散構造分析(構造方程式モデルによる分析)をおこなった¹⁶。

共分散構造分析とは、調査データをもとに構成概念(ある現象を理解・説明するために構成した概念)や観測変数(調査で測定されるデータ)の間の関連性を検討するための統計手法である(豊田編 2014: 24)。本稿では、外見を整える諸行為に共通する因子はどのようなものか、学歴と収入がそうした因子にどのような影響を及ぼしているのかを検証する。

2-2. 分析に用いる変数

分析には、外見管理を被説明変数、学歴と収入を説明変数、年齢と性役割意識を統制変数として用いる。

外見管理については、「他人と会うとき、次にあげる事柄をどのくらいおこないますか。」という質問の「アクセサリをつける」、「整髪料やワックスをつける」、「香水やデオドラントをつける」、「眉を整える」、「日焼け止めを塗る」、「化粧水や乳液、美容液をつける」、「ファンデーションやチークなどを塗る」、「アイメイクをする(アイプチを含む)」、「口紅やリップグロスなどを塗る」、「マニキュアやジェルネイルなどをする」、「ネイルケアをする(爪を磨くなど)」の 11 項目に対し、「ほぼ毎日する」に 3、「することのほうが多い」に 2、「しないことのほうが多い」に 1、「しない」に 0 の値を割り当てている。11 項目の相関係数を求めると、ある程度の相関がみられたので(表 6.1 を

¹⁵ 後述するように、本稿では外見管理を他者と会うときの行為で測定する。仕事とプライベートを区別していないため、本稿の外見管理には、自身の見られ方の管理に加え、自己表現という意味も含むものとする。なお、一般に外見管理というと、服装を含めた全身に気を配ることをいうのであろうが、本稿では主に、対人関係等に影響を与えるとされる顔(山本 2000)を整える行為に焦点を当てる。

¹⁶ 探索的因子分析は psych(Revelle 2022)、共分散構造分析は lavaan(Rosseel 2012)というパッケージを用いた。

参照)¹⁷、本稿では、まず探索的因子分析をおこない、11項目に影響を及ぼす因子を抽出した¹⁸。表6.2は、その結果を示したものである。1つ目の因子は「ファンデーションやチークなどを塗る」、「アイメイクをする(アイプチを含む)」、「口紅やリップグロスなどを塗る」、「マニキュアやジェルネイルなどをする」、「ネイルケアをする(爪を磨くなど)」の5項目に対する因子負荷量が高く、2つ目の因子は「アクセサリをつける」、「整髪料やワックスをつける」、「香水やデオドラントをつける」、「眉を整える」、「日焼け止めを塗る」、「化粧水や乳液、美容液をつける」の6項目に対する因子負荷量が高い¹⁹。化粧の理由や動機については、他者が自身に対して持つ印象に積極的に働きかける自己呈示のほかに、他者からの否定的評価の回避もあるとされているので(飛田 2001)、1つ目の因子はどちらかといえば自己呈示の意識、2つ目の因子はどちらかといえば他者からの否定的な評価を避ける意識と考えられる。したがって、1つ目の因子を「おしゃれ意識」、2つ目の因子を「身だしなみ意識」ととらえた。

表 6.1 外見管理 11 項目の相関行列²⁰

	アクセサリ	整髪料	香水	眉	日焼け止め	化粧水	ファンデーション	アイメイク	口紅	マニキュア	ネイルケア
アクセサリ		0.27	0.46	0.34	0.23	0.26	0.30	0.36	0.31	0.28	0.26
整髪料	0.27		0.36	0.33	0.25	0.28	0.16	0.12	0.18	0.12	0.16
香水	0.46	0.36		0.36	0.29	0.31	0.26	0.26	0.23	0.23	0.24
眉	0.34	0.33	0.36		0.36	0.39	0.17	0.18	0.11	0.15	0.24
日焼け止め	0.23	0.25	0.29	0.36		0.40	0.35	0.26	0.35	0.29	0.31
化粧水	0.26	0.28	0.31	0.39	0.40		0.18	0.14	0.15	0.10	0.21
ファンデーション	0.30	0.16	0.26	0.17	0.35	0.18		0.75	0.50	0.72	0.60
アイメイク	0.36	0.12	0.26	0.18	0.26	0.14	0.75		0.58	0.68	0.53
口紅	0.31	0.18	0.23	0.11	0.35	0.15	0.50	0.58		0.48	0.38
マニキュア	0.28	0.12	0.23	0.15	0.29	0.10	0.72	0.68	0.48		0.66
ネイルケア	0.26	0.16	0.24	0.24	0.31	0.21	0.60	0.53	0.38	0.66	

¹⁷ アイメイクとファンデーションが 0.75、アイメイクとマニキュアが 0.68、アイメイクと口紅が 0.58、マニキュアとファンデーションが 0.72、マニキュアとネイルケアが 0.66、ファンデーションとネイルケアが 0.60 と、比較的強い相関を示した。

¹⁸ 因子抽出法は最尤法、回転はオブリミン回転をおこなった。なお、因子数はガットマン基準、MAP と BIC から 2 つとした。

¹⁹ 伊波(2004)によると、フレグランスを除くと、化粧は手入れを意味するケアと美しさを演出するメーキャップに大別される。整髪料、化粧水や乳液、日焼け止め、眉を整えるなどはどちらかといえばケア、ファンデーションやチーク、アイメイク、口紅やリップグロスなどはどちらかといえばメーキャップに当たると考えられる。

²⁰ 絶対値が 0.2 以上の値に網掛けをしている。なお、表 6.1 ではファンデーションをファンデと略記している。

表 6.2 探索的因子分析の結果²¹

	因子負荷量		共通性
	おしゃれ意識	身だしなみ意識	
アクセサリ	0.183	0.469	0.324
整髪料やワックス	-0.046	0.541	0.275
香水やデオドラント	0.058	0.591	0.381
眉を整える	-0.064	0.662	0.407
日焼け止め	0.183	0.466	0.320
化粧水や乳液	-0.059	0.599	0.334
ファンデーションやチーク	0.870	0.004	0.759
アイメイク	0.847	-0.011	0.710
口紅やリップグロス	0.565	0.103	0.377
マニキュア	0.859	-0.057	0.702
ネイルケア	0.654	0.101	0.492
因子寄与	3.110	1.972	
因子寄与率	0.283	0.179	
累積寄与率	0.283	0.462	
説明率	0.612	0.388	
因子間相関=0.41			
RMSEA=0.081, RMSR=0.04, TLI=0.912			

学歴は最後に通った学校の教育年数とし、収入は「なし」に 0 円、「70 万円未満」に 35 万円、「70～100 万円未満」に 85 万円というように各カテゴリーの中間値を割り当て、2300 万円以上は 2300 万円としている²²。性役割意識については、「次のような考え方について、あなたはどのように思いますか。」という質問の「母親が外で働いていても、働いていない母親と同じように、温かく、しっかりした母子の関係はつくれる」、「母親が外で働いていると、小学校入学前の子供は精神的に傷つくようだ」、「母親がフルタイムで働いていると、家庭生活は損なわれるものだ」、「仕事を持つのはいいことだが、女性の多くが本当に望んでいるのは家庭と子どもだ」、「主婦として家事をすることも、働いて収入を得ることも、同じように充実したものだ」、「男性も女性も家計のために収入を得るようにしなければならない」、「男性の仕事は収入を得ること、女性の仕事は家庭と家族の面倒をみることだ」の 7 項目の 5 つの回答選択肢(そう思う、どちらかといえばそう思う、どちらともいえない、どちらかといえばそう思わない、そう思わない)に対し、伝統的な性役割に否定的であるほど値が大きくなるように 0～4 の値を割り当て、その合計を求めている(クロンバックの $\alpha = 0.73$)²³。

²¹ 因子負荷量が 0.4 以上を太字にしている。

²² 「わからない」と「答えたくない」は、欠損値として分析から除いている。

²³ 「母親が外で働いていると、小学校入学前の子供は精神的に傷つくようだ」、「母親がフルタイム

分析に用いる変数の記述統計は、表 6.3 のとおりである。

表 6.3 変数の記述統計

	平均値	最小値	最大値
アクセサリをつける	0.23 (0.58)	0	3
整髪料やワックスをつける	0.69 (1.02)	0	3
香水やデオドラントをつける	0.44 (0.82)	0	3
眉を整える	0.60 (0.81)	0	3
日焼け止めを塗る	0.31 (0.69)	0	3
化粧水や乳液、美容液をつける	0.90 (1.25)	0	3
ファンデーションやチークなどを塗る	0.08 (0.39)	0	3
アイメイクをする	0.04 (0.26)	0	3
口紅やリップグロスなどを塗る	0.10 (0.45)	0	3
マニキュアやジェルネイルなどをする	0.04 (0.23)	0	2
ネイルケアをする	0.10 (0.40)	0	3
教育年数	14.0 (2.3)	9	18
収入 (単位：万円)	424.8 (349.2)	0	2300
年齢	41.7 (10.8)	20	59
性役割意識	17.1 (4.3)	3	28
N	460		

カッコ内は標準偏差

3. 分析結果

3-1. 基礎的な分析の結果

共分散構造分析をおこなう前に、まずは男性が人と会うときにどの程度外見を整えているかを確認する。

図 6.1 は、人と会うときに男性がどの程度外見を整えるのかを示したものである。「ほぼ毎日する」もしくは「することのほうが多い」と回答した割合を見ると、化粧水や乳液、美容液をつける

で働いていると、家庭生活は損なわれるものだ」、「仕事を持つのはいいことだが、女性の多くが本当に望んでいるのは家庭と子どもだ」、「男性の仕事は収入を得ること、女性の仕事は家庭と家族の面倒をみることだ」は逆転項目なので、「そう思う」に 0、……「そう思わない」に 4 を割り当てている。

人が約 30.6%と最も多いことがわかる。また、整髪料やワックスをつける人も約 20.9%いることが読み取れる。その一方で、アイメイクをする、マニキュアやジェルネイルなどをする、ファンデーションやチークなどを塗る、爪を磨くなどのネイルケアをする、口紅やリップグロスなどを塗る人は、約 0.9~3%とほぼいないことがわかる。

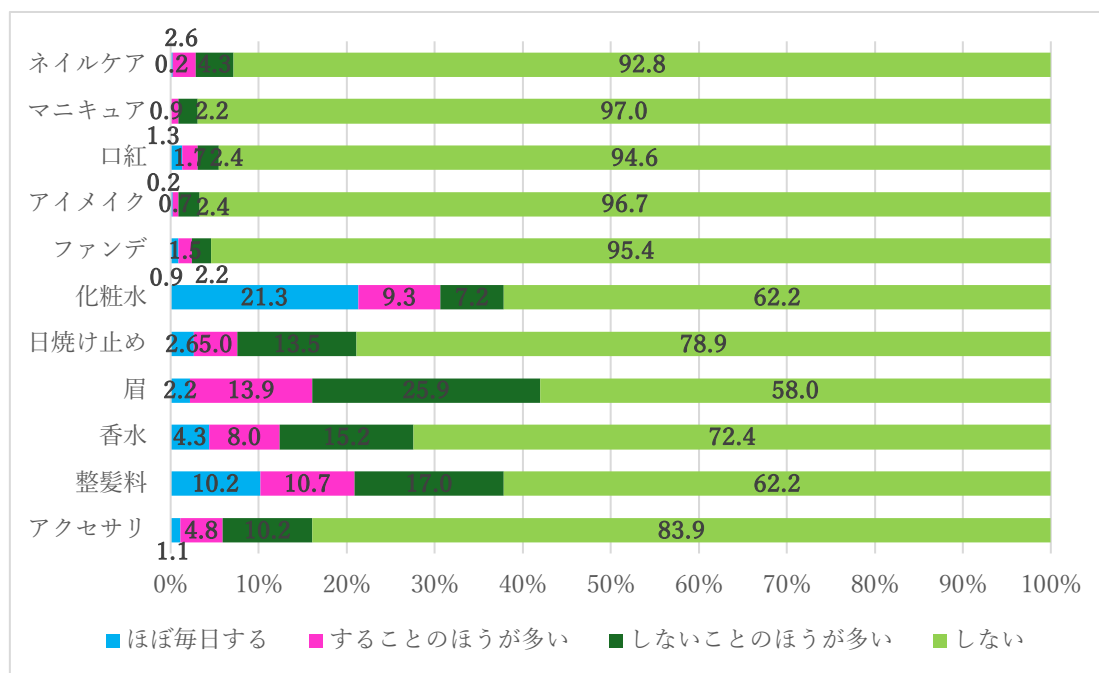


図 6.1 人に会うときの外見管理の程度の分布

続いて、学歴と収入によって身だしなみ意識およびおしゃれ意識の程度にどのような違いが見られるのかを示したものが図 6.2 である²⁴。まず、身だしなみ意識は、学歴が高いほうが強いことがわかる。一方、収入については、850 万円までは収入に応じて強まるが、850 万円以上の高収入層では弱くなることが確認できる。次に、おしゃれ意識は、短大等で一度弱まり、大学等で再び強まることがわかる。収入については、850 万円までは収入に応じて強まるが、850 万円以上の高収入層ではやや弱くなることが確認できる。

²⁴ 縦軸の数値は、外見管理に関する 11 項目について因子分析をおこなって求めた因子得点の平均値を示している。また、学歴は中学校と高校をまとめて高校以下(中・高と表記)、専修学校・専門学校と 5 年制の高等専門学校と短期大学をまとめて短大等、大学と大学院をまとめて大学等の 3 カテゴリーにしている。収入は 450 万円未満(収入がない場合も含む)、450 万円以上 850 万円未満、850 万円以上の 3 カテゴリーにしている。

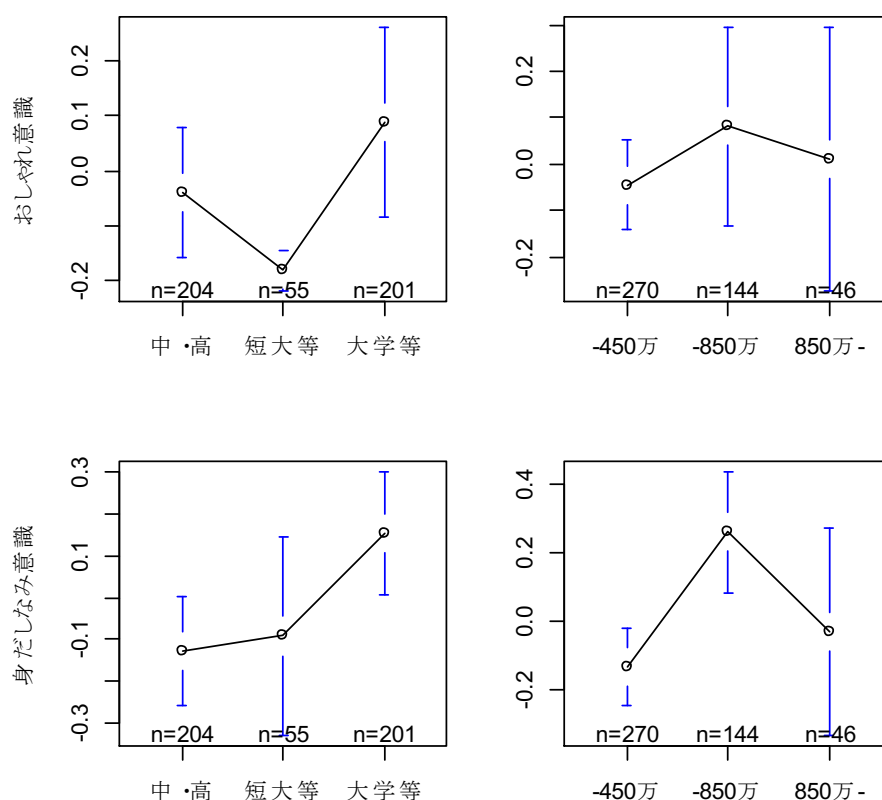


図 6.2 社会経済的地位別に見る身だしなみ意識およびおしやれ意識

3-2. 共分散構造分析の結果

図 6.2 で見られた傾向は、年齢などを統制しても確認されるのだろうか。表 6.4 は、外見管理に関する共分散構造分析(推定方法は DWLS)の結果を示したものである²⁵。測定モデルでは、おしやれ意識と身だしなみ意識がそれぞれの行為にどのような影響を及ぼしているのか、因果モデルでは、学歴と収入、さらには年齢と性役割意識がおしやれ意識と身だしなみ意識にどのような影響を及ぼしているのかを示している²⁶。

まず、モデルのフィッティングを示す指標を見ると、モデル 1 とモデル 2 とともに、SRMR の値がやや高くなってはいるものの、おおむねあてはまりが良い。

²⁵ 共分散構造分析は、マニキュア・ジェルネイルおよび口紅・リップグロスと相関の強かったアイメイクの項目を除いた 10 項目でおこなった。アイメイクを除いて探索的因子分析をおこなった結果は、表 6.2 の結果とそれほど変わらなかった(分析結果は、付録の表 5 を参照)。なお、共分散構造分析では、外見管理の項目をカテゴリカル変数として扱っている。

²⁶ 測定モデルでは、探索的因子分析をおこなった際に因子負荷量が最も大きかった項目の係数を 1 に固定している。

表 6.4 外見管理の共分散構造分析の結果

測定モデル					
(係数はモデル 2 の値)	身だしなみ意識		おしゃれ意識		R ²
眉を整える	0.669 f				0.447
アクセサリ	0.768 ***				0.589
整髪料やワックス	0.645 ***				0.415
香水やデオドラント	0.774 ***				0.599
日焼け止め	0.757 ***				0.572
化粧水や乳液	0.675 ***				0.456
マニキュア			0.995 f		0.991
ファンデーションやチーク			0.941 ***		0.885
口紅やリップグロス			0.892 ***		0.795
ネイルケア			0.831 ***		0.690
共分散					
(モデル 2 の値)					
身だしなみ意識＊おしゃれ意識	0.485 *** (0.052)				
因果モデル					
	モデル 1	モデル 2	モデル 1	モデル 2	
教育年数	0.025 (0.018)	0.025 (0.018)	0.012 (0.039)	0.017 (0.044)	
収入 (単位：百万円)	0.041 ** (0.013)	0.041 ** (0.013)	0.028 (0.030)	0.028 (0.033)	
年齢	－0.014 *** (0.004)	－0.014 *** (0.004)	－0.018 * (0.009)	－0.017 † (0.010)	
性役割意識		－0.004 (0.009)		－0.043 * (0.018)	
CFI	0.998	0.995			
TLI	0.998	0.996			
RMSEA	0.020	0.026			
SRMR	0.073	0.078			
N	460	460			

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$, † $p < .1$

注：カッコ内は標準誤差。

f は分析の際に非標準化係数を 1 に固定していることを示す。

測定モデルの数値は標準化係数，因果モデルの数値は非標準化係数である。

因果モデルの係数は，値が大きいほど身だしなみ意識やおしゃれ意識を強める方向に作

用していることを示す。

次に、モデル1を見ると、教育年数の係数はいずれも有意な値ではないので、学歴とおしゃれ意識および身だしなみ意識に関連は見られないことがわかる。一方、収入の係数を見ると、身だしなみ意識の場合にプラスの有意な値であるので、収入が高いほうが身だしなみ意識が強いことが示されている。モデル2は性役割意識の影響も考慮に入れて分析した結果であるが、収入の係数に変化は見られないので、身だしなみ意識への収入の影響は性役割意識では説明できないことが明らかになった。

最後に、その他の変数については、年齢の係数がいずれもマイナスの有意な値であることから、年齢が高いほうが身だしなみ意識およびおしゃれ意識が弱い傾向があると言える。また、性役割意識²⁷の係数がおしゃれ意識の場合にマイナスの有意な値であることから、性役割意識が弱いほうがおしゃれ意識が弱いことがわかる。

4. まとめ

本稿では、男性の社会経済的地位(学歴と収入)が外見管理にどのような影響を及ぼしているのかについて、共分散構造分析をおこなって検証した。

まず、基礎的な分析の結果、化粧水や乳液、美容液をつける人が最も多く、整髪料やワックスをつけたり、眉を整える人も一定数いることがわかった。その一方で、アイメイクをする、マニキュアやジェルネイルなどをする、ファンデーションやチークなどを塗る、爪を磨くなどのネイルケアをする、口紅やリップグロスなどを塗る人は、ほとんどいなかった。今回の調査(2024年)では仕事と休日を区別して質問していないので、2022年の調査とは質問の仕方が異なる。また、調査対象者の属性(年齢層や就業)も異なる。したがって、単純に比較することはできないが、外見管理の傾向はそれほど変わらない結果となった。メディアで男性の美容意識の高まりが話題となったり(毎日新聞 2024年4月28日朝刊)、コロナ禍において仕事などをオンラインでおこなう機会が増えたことで男性も自身の顔の映りに気を遣うようになったと指摘されてはいるものの(米澤・馬場 2021)、一部の男性に見られる傾向に過ぎないのかもしれない。

次に、共分散構造分析の結果、学歴については、おしゃれ意識および身だしなみ意識と関連は見られないことが明らかになった。図6.2からは学歴とこれらの意識は関連しているように見受けられるが、これは年齢や収入などその他の変数の影響を反映していたためと考えられる。一方、収入については、収入が高いほうが身だしなみ意識が強いことが示された。これは学歴、年齢と性役割意識を統制した結果であるため、これらとは別の理由からこうした傾向が見られたことになる。本稿ではデータの制約により、男性の収入と身だしなみ意識にプラスの関連が見られた理由について

²⁷ 2.2で説明したように、伝統的な性役割に否定的であるほど値が大きくなるように数値を割り当てて作成している。

詳細な検討はできなかったが、ひとつの解釈を提示しておきたい。化粧・美容・服飾について広範に考察した栗田(2021)によると、現在の日本では、ジェンダー、年齢、職業、所属集団などによって、期待もしくは要請される外見の規準が異なる。収入の高い男性は、社会的地位が高い可能性があり、期待される外見の規準も相対的に高いため、身だしなみ意識が強いことが考えられる。ただし、これはあくまでもひとつの解釈にすぎず、この点については別途検証が必要である。

本稿の分析は、男性の社会経済的地位と外見管理が部分的に関連することを示してはいる。しかしながら、外見管理の具体的な行為として取り上げた 11 項目については、しない人が過半数を占めており、とりわけファンデーションやチーク、アイメイク、口紅やリップグロスなどのメーキャップに当たる項目については約 95%以上がしていない。したがって、男性の外見管理について把握するためには、項目を吟味して再調査する必要があると思われる。この点については、今後の課題としたい。

文献

- 飛田操, 2001, 「化粧のもたらす対人魅力」大坊郁夫編『化粧行動の社会心理学』北大路書房, 114-22.
- 伊波和恵, 2004, 「顔と化粧」竹原卓真・野村理朗編『「顔」研究の最前線』北大路書房, 172-185.
- 石田かおり, 2000, 『化粧せずには生きられない人間の歴史』筑摩書房.
- 石井政之・石田かおり, 2005, 『「見た目」依存の時代——「美」という抑圧が階層化社会に拍車を掛ける』原書房.
- 小林盾, 2020, 『美容資本——なぜ人は見た目に投資するのか』勁草書房.
- 厚生労働省, 2024, 「マスクの着用について」(2025 年 2 月 6 日取得, https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kansentaisaku_00001.html).
- 北村匡平, 2021, 「男性身体とルッキズム」『現代思想』49(13): 117-26.
- 栗田宣義, 2021, 『メイクとファッション——美容化粧服飾の戦略と呪縛』晃洋書房.
- 村澤博人, 2001a, 「化粧の文化誌」大坊郁夫編『化粧行動の社会心理学』北大路書房, 48-63.
- , 2001b, 「装いと変身の化粧」大坊郁夫編『化粧行動の社会心理学』北大路書房, 64-75.
- , 2007, 『顔の文化誌』講談社.
- 永瀬圭, 2022, 「男性のおしゃれの様相：社会経済的地位との関連に注目して」太郎丸博編『美的労働に関する調査報告書』京都大学文学部社会学研究室, 43-52(2023 年 3 月 7 日取得, <http://hdl.handle.net/2433/275440>).
- R Core Team (2022). R: A language and environment for statistical computing. R Foundation for Statistical Computing, Vienna, Austria.
- Revelle, W. , 2022, psych: Procedures for Personality and Psychological Research, Northwestern University, Evanston, Illinois, USA.

Rosseel, Yves, 2012, “lavaan: An R Package for Structural Equation Modeling,” *Journal of Statistical Software*, 48(2): 1-36.

菅沼薫，2001，「化粧意識と化粧品選好」大坊郁夫編『化粧行動の社会心理学』北大路書房，76-88.

豊田秀樹編，2014，『共分散構造分析 [R 編]』東京図書.

山本真理子，2000，「顔の印象と対人的影響」『日本化粧品技術者会誌』34(4): 351-8.

米澤泉・馬場伸彦，2021，『奥行きをなくした顔の時代——イメージ化する身体，コスメ・自撮り・SNS』晃洋書房.

「#『普通』をほどく 活況メンズコスメ市場」毎日新聞 2024 年 4 月 28 日朝刊.

付録

表 6.5 アイメイクを除いた 10 項目の探索的因子分析の結果(推定方法は最尤法)

	因子負荷量		共通性
	おしゃれ意識	身だしなみ意識	
アクセサリ	0.152	0.485	0.318
整髪料やワックス	-0.040	0.537	0.273
香水やデオドラント	0.051	0.595	0.381
眉を整える	-0.057	0.652	0.398
日焼け止め	0.192	0.467	0.327
化粧水や乳液	-0.062	0.602	0.336
ファンデーションやチーク	0.806	0.043	0.680
口紅やリップグロス	0.511	0.135	0.335
マニキュア	0.917	-0.081	0.788
ネイルケア	0.700	0.088	0.548
因子寄与	2.390	1.994	
因子寄与率	0.239	0.199	
累積寄与率	0.239	0.438	
説明率	0.545	0.455	
因子間相関=0.406			
RMSEA=0.063, RMSR=0.038, TLI=0.94			

第7章

文化資本は文系と理系に分かれる：「美的労働調査2024」における文化活動項目の分析

渡辺健太郎（立教大学）・太郎丸博（京都大学）

1. 目的と背景

本稿では、文化資本の測定に人文社会系の項目と自然科学系の項目を用いた場合、文化資本は文系と理系に分かれるかについて検討する。教育社会学や社会階層論の分野では、美術館などへ通う頻度で測定される「芸術文化資本」や読書頻度等で測定される「読書文化資本」が教育達成と関連することが指摘されてきた（例えば、De Graaf et al. 2000; Sullivan 2001; 片岡 2019; 片瀬 2005 など）。そして今日では、自然科学分野における教育達成を文化資本論の観点から説明する概念として、「科学資本（Science Capital）」（Archer et al. 2015）や「理系特化文化資本（STEM Specific Cultural Capital）」（Tilbrook & Shifrer 2022）といった、「理系文化資本」と呼びうる文化資本概念が提案されている。

概念としての理系文化資本は、教育社会学や社会階層論における従来の文化資本が人文社会科学に親和的であったという想定のもと、それら「文系文化資本」とは異なるものとして構想されている。一方で、理系文化資本の測定には、自然科学に親和的な文化活動項目のみが用いられている（Archer et al. 2015; Tilbrook & Shifrer 2022）。そのため、概念としては文系文化資本と異なる理系文化資本が、測定の文脈においても文系文化資本から識別されるうるのかは明らかではない。

こうした問題意識のもと、渡辺健太郎・太郎丸博（2023）では、2019年に行われたWeb調査データをもとに、人文社会系と自然科学系の文化活動項目を用いた探索的因子分析を行った⁽²⁸⁾。分析に使用したのは、(1) クラシック音楽のコンサートへ行く（クラシック）、(2) 美術館や絵画展に行く（美術館）、(3) 歴史や民俗に関する資料館・博物館に行く（歴史資料館）、(4) プラネタリウムや天文台、自然史博物館、科学館に行く（プラネタリウム）、(5) 工場見学やモノづくりに関する産業館、博物館に行く（工場見学）、(6) 小説や歴史などの本を読む（小説）、(7) 生物や宇宙、地質など自然や科学に関する本や雑誌記事を読む（自然科学の本）、(8) 生物や宇宙、地質など、自然や科学に関するテレビ番組をみる（自然科学の番組）の計8項目である。これらの項目について探索的因子分析を行った結果、2因子解は得られたものの、それらは外出を伴う文化活動項目への負荷が高い因子と

⁽²⁸⁾ 分析には、「政治と科学に関する意識調査2019」データを使用した。同調査は、調査会社に登録しているモニターパネルのうち、日本在住の20～69歳の男女680名に対して、2019年11月に実施されたウェブ調査である（太郎丸 2020）。

外出を伴わない文化活動項目への負荷が高い因子であることが確認された。そのため、上記の 8 項目を用いた場合では、文系文化資本と理系文化資本に対応する 2 因子は得られないものと考えられた。

そこで本稿では、文化活動項目を外出が必要なものと不要なものにあらかじめ区別し、それぞれの項目における探索的因子分析を行った場合に、文系文化資本と理系文化資本に対応する 2 因子が得られるのかについて検討した結果を報告する。

2. データと変数, 方法

表 7.1 文化活動項目の質問文と分類

		分野	
		人文社会科学系	自然科学系
外出	必要	クラシック クラシック音楽のコンサートへ行く 美術館 美術館や絵画展に行く 歴史資料館 歴史やα 俗に関する資料館・博物館に行く	プラネタリウム プラネタリウムや天文台、自然史博物館、科学館に行く 工場見学 工場見学やモノづくりに関する産業館、博物館に行く 自然公園 国立公園や国定公園、世界自然遺産などを訪れる
	不要	小説 小説や歴史の本を読む（SFや歴史フィクションを除く） 芸術番組 文学や思想、芸術に関する動画やテレビ番組をみる 歴史フィクション 歴史上の人物や物事が登場するフィクション作品を観る、読む	自然科学の本 生物や宇宙、地質など自然や科学に関する本や雑誌記事を読む 自然科学の番組 生物や宇宙、地質など、自然や科学に関するテレビ番組をみる SF作品 空想上の科学やテクノロジーが登場するフィクション作品を観る、読む

分析には、「美的労働調査 2024」のデータを用いる（ $n=1000$ ）。文化活動の測定には、表 7.1 に示した 12 項目を用いる。各項目の回答選択肢は、「週に 1 回以上、月に 1 回ぐらい、年に 1 回から数回、数年に 1 回ぐらい、ここ数年したことがない」の 5 段階であり、活動が活発であるほど大きい値になるように反転して分析に使用する。分析では、クラシックと美術館、歴史資料館、プラネタリウム、工場見学、自然公園の外出型文化活動 6 項目、小説と芸術番組、歴史フィクション、自然科学の本、自然科学の番組、SF 作品の在宅型文化活動 6 項目について、それぞれ探索的因子分析を行う。また、それらの結果にもとづいて共分散構造分析を行い、性別と年齢、専攻分野を考慮した学歴との関連に

ついて分析することで、それぞれの因子の特徴についてもあわせて検討する。

3. 結果

3-1. 基礎分析

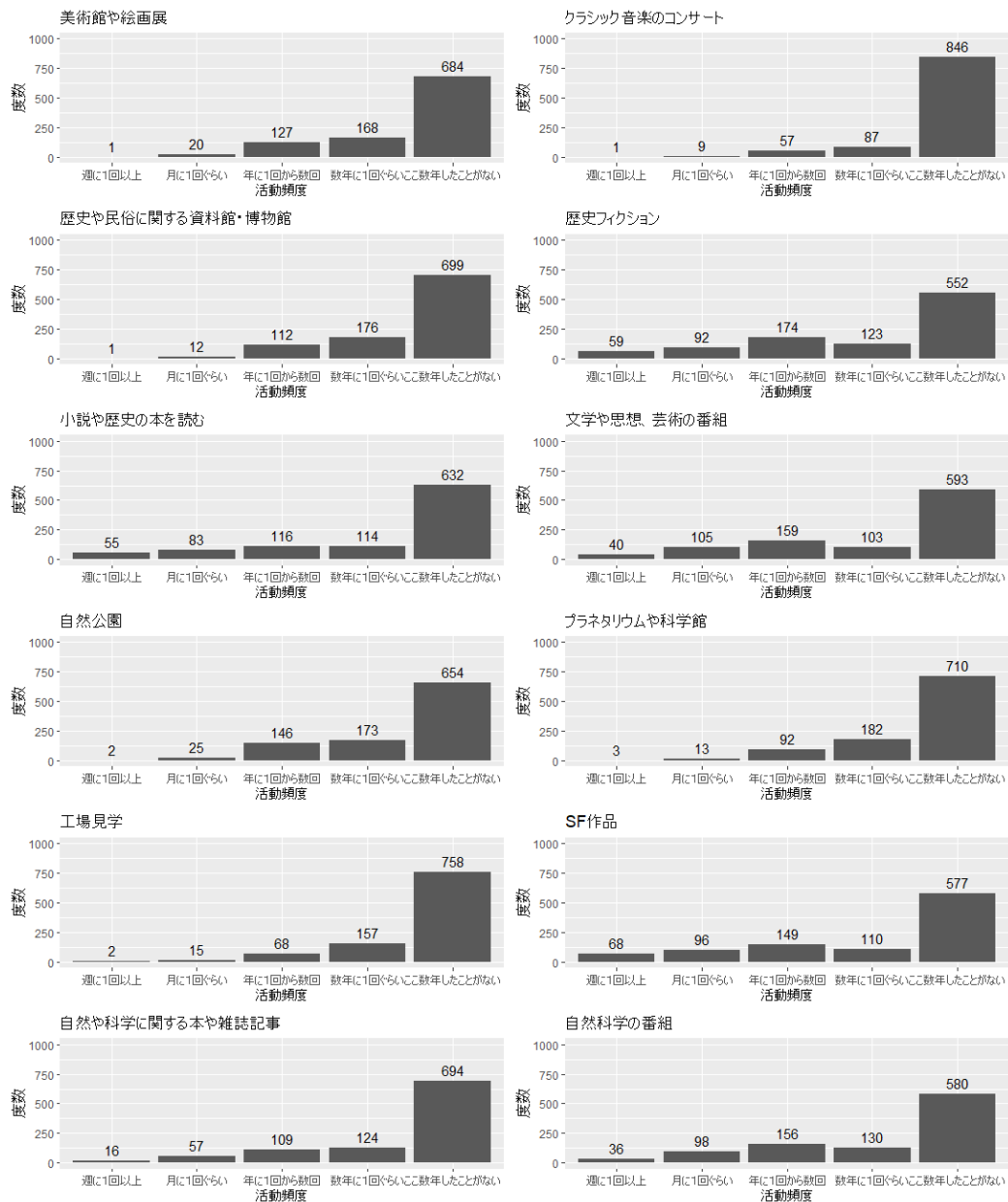


図 7.1 文化活動項目の度数分布

文化活動項目の分布を確認すると（図 7.1）、いずれの項目についても最も多いのは「ここ数年したことがない」であり、最も少ないのは「週に1回以上」であることがわかる。今回の調査では、

比較的頻度は低いと考えられる外出を伴う文化活動についても、外出を伴わない文化活動と共通のスケールを用いて測定したが、分布を確認する限りでは、それぞれでスケールを使い分けるという方向性も今後考えられよう。

表 7.2 相関行列

	美術館	クラシック	歴史資料館	歴史フィクション	小説	芸術番組	自然公園	プラネタリウム	工場見学	SF作品	自然科学の本	自然科学の番組
美術館	1.000	0.721	0.788	0.455	0.466	0.595	0.639	0.678	0.690	0.421	0.553	0.461
クラシック	0.721	1.000	0.733	0.432	0.490	0.558	0.604	0.663	0.692	0.413	0.512	0.449
歴史資料館	0.788	0.733	1.000	0.567	0.560	0.657	0.779	0.794	0.794	0.514	0.625	0.530
歴史フィクション	0.455	0.432	0.567	1.000	0.635	0.682	0.504	0.501	0.489	0.745	0.597	0.666
小説	0.466	0.490	0.560	0.635	1.000	0.673	0.513	0.504	0.498	0.541	0.590	0.491
芸術番組	0.595	0.558	0.657	0.682	0.673	1.000	0.601	0.575	0.578	0.653	0.654	0.727
自然公園	0.639	0.604	0.779	0.504	0.513	0.601	1.000	0.767	0.732	0.492	0.607	0.519
プラネタリウム	0.678	0.663	0.794	0.501	0.504	0.575	0.767	1.000	0.865	0.559	0.681	0.557
工場見学	0.690	0.692	0.794	0.489	0.498	0.578	0.732	0.865	1.000	0.542	0.659	0.545
SF作品	0.421	0.413	0.514	0.745	0.541	0.653	0.492	0.559	0.542	1.000	0.718	0.745
自然科学の本	0.553	0.512	0.625	0.597	0.590	0.654	0.607	0.681	0.659	0.718	1.000	0.800
自然科学の番組	0.461	0.449	0.530	0.666	0.491	0.727	0.519	0.557	0.545	0.745	0.800	1.000

次に、各変数間の相関関係について検討した。スケールや分布を考慮し、ポリコリック相関係数を求めた（表 7.2）。各変数間のポリコリック相関係数からは、文化活動の分野が人文社会系であるか自然科学系であるかに関わらず、正の相関関係にあることがわかる。

3-2. 探索的因子分析

3-2-1. 外出型文化活動項目

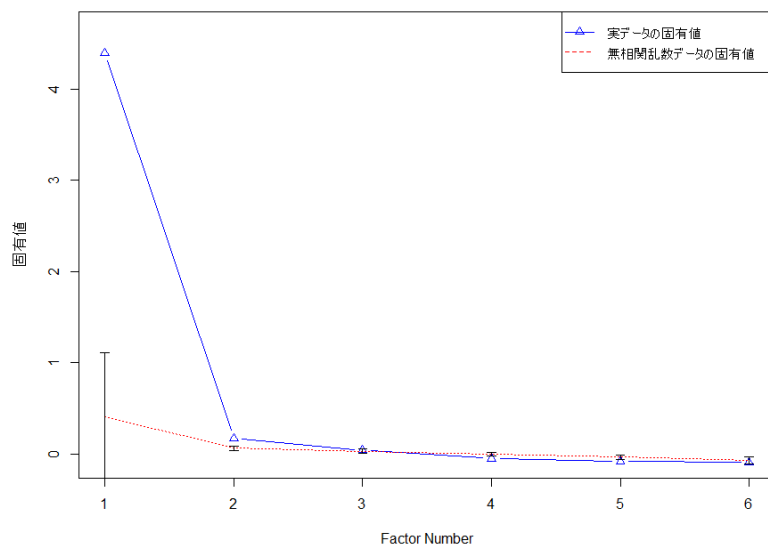


図 7.2 平行分析（外出型文化活動）

表 7.3 情報量基準にもとづく因子数の検討（外出型文化活動）

因子数	RMSEA	BIC	SRMR
1	0.189	267.007	0.041
2	0.121	35.408	0.015

外出型文化活動 6 項目について、探索的因子分析を行った。平行分析の結果、推奨されたのは、3 因子解であった（図 7.2）。一方で、3 因子解の場合は自由度が低下し、情報量基準の比較に必要な情報量を求めることができなかった。そこで、1 因子解と 2 因子解について比較を行った（表 7.3）。まず、いずれの場合でも、RMSEA が 0.05 以下という基準では当てはまりが悪い一方で、SRMR が 0.05 以下という基準では当てはまりは良好であることが確認された。しかし、BIC では、1 因子解よりも 2 因子解の値が小さかった。そのため、2 因子解を採用した。

表 7.4 因子分析の結果（外出型文化活動）

因子負荷量	外出型理系文化資本	外出型文系文化資本	共通性
美術館	-0.001	0.875	0.764
クラシック	0.112	0.720	0.662
歴史資料館	0.351	0.614	0.853
自然公園	0.612	0.242	0.675
プラネタリウム	0.987	-0.038	0.915
工場見学	0.754	0.180	0.823
因子寄与	2.054	1.753	3.81
寄与率 (%)	0.342	0.292	0.63
相関係数			
外出型理系文化資本	1.000		
外出型文系文化資本	0.817	1.000	

1) 一般化最小二乗法、プロマックス回転を使用

2) 0.4以上の因子負荷量を太字で記載

外出型文化活動 6 項目について、2 因子解による因子分析を行った（表 7.4）。まず、第 1 因子の負荷量が高い項目は、0.4 を基準として、負荷量の高い順に、プラネタリウムと工場見学、自然公園であった。これらは、外出型文化活動項目のうち、自然科学分野のものによって測定される文化資本に相当すると考えられることから、第 1 因子は外出型理系文化資本と命名した。次に、第 2 因子の負荷量が高い項目は、美術館とクラシック、歴史資料館であった。これらは、外出型文化活動項目のうち、人文社会系分野のものによって測定される文化資本に相当すると考えられることから、第 2 因子は外出型文系文化資本と命名した。

3-2-2. 在宅型文化活動項目

在宅型文化活動 6 項目について、探索的因子分析を行った。平行分析の結果、推奨されたのは、外出型文化活動の場合と同様、3 因子解であった（図 7.2）。ただし、3 因子解の場合は自由度が低下して情報量を求めることができなかった。そこで、1 因子解と 2 因子解について比較を行った

（表 7.5）. RMSEA が 0.05 以下という基準では、1 因子解も 2 因子解も当てはまりが悪い一方で、SRMR が 0.05 以下という基準では、2 因子解において当てはまりが良好であることが確認された。BIC による比較を行った場合でも、2 因子解の方が BIC の値が小さかったことから、2 因子解を採用した。

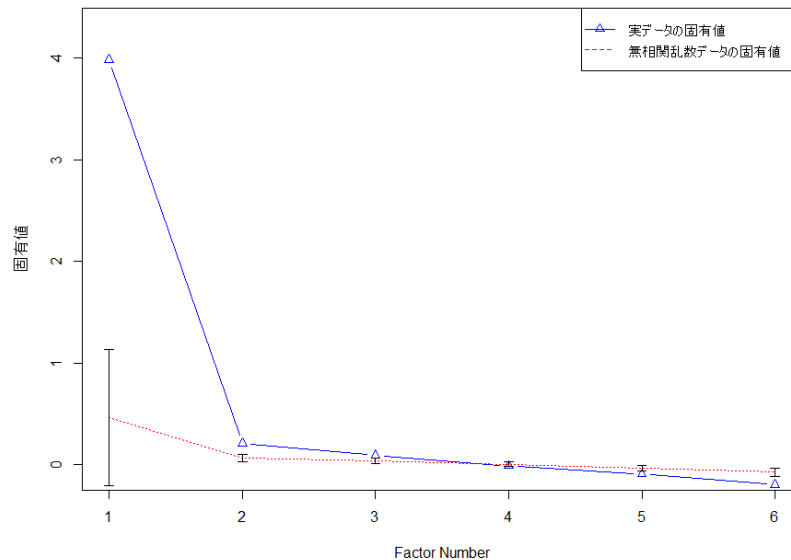


図 7.3 平行分析（在宅型文化活動）

表 7.5 情報量基準にもとづく因子数の検討（在宅型文化活動）

因子数	RMSEA	BIC	SRMR
1	0.231	428.748	0.059
2	0.236	198.472	0.033

表 7.6 因子分析の結果（在宅型文化活動）

因子負荷量	在宅型理系文化資本	在宅型文系文化資本	共通性
歴史フィクション	0.356	0.514	0.673
小説	-0.132	0.946	0.719
芸術番組	0.365	0.527	0.709
SF作品	0.687	0.192	0.712
自然科学の本	0.759	0.111	0.717
自然科学の番組	1.063	-0.158	0.895
因子寄与	2.455	1.511	3.966
寄与率	0.409	0.252	0.661
相関係数			
在宅型理系文化資本	1.000		
在宅型文系文化資本	0.771	1.000	

1) 一般化最小二乗法、プロマックス回転を使用

2) 0.4以上の因子負荷量を太字で記載

在宅型文化活動 6 項目について、2 因子解による因子分析を行った（表 7.6）．まず、第 1 因子の負荷量が高い項目は、自然科学の番組と自然科学の本、SF 作品であった．これらは、在宅型文化活動項目のうち、自然科学分野のものによって測定される文化資本に相当すると考えられることから、第 1 因子は在宅型理系文化資本と命名した．次に、第 2 因子の負荷量が高い項目は、小説と芸術番組、歴史フィクションであった．これらは、在宅型文化活動項目のうち、人文社会系分野のものによって測定される文化資本に相当すると考えられることから、第 2 因子は在宅型文系文化資本と命名した．

3-3. 共分散構造分析

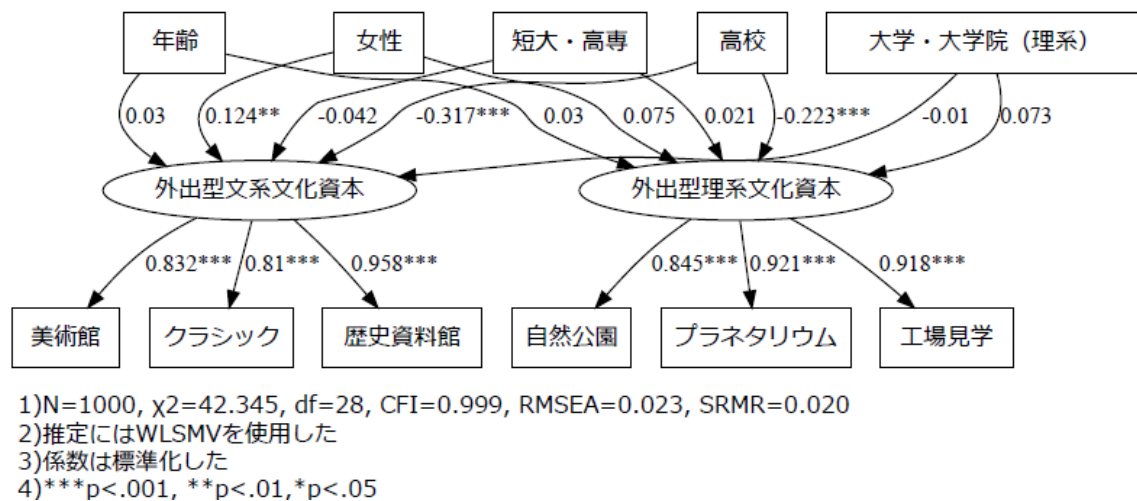


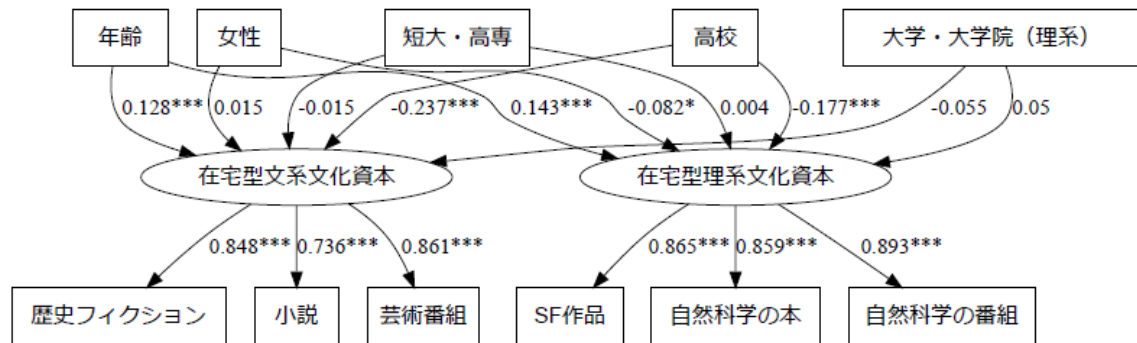
図 7.4 外出型文系／理系文化資本の共分散構造分析

まず、外出型文系／理系文化資本が性別や年齢、学歴とどのような関連にあるのかについて、共分散構造分析を用いて検討した（図 7.4）．なお、学歴は「高校」と「短大・高専」、「大学・大学院（文系）」、「大学・大学院（理系）」の 4 カテゴリーによって測定されており、分析では、大学・大学院（文系）を基準カテゴリとして使用した⁽²⁹⁾．分析の結果、外出型文系文化資本については、女性の正の効果（ $\beta=0.124$ ）、高校の負の効果（ $\beta=-0.317$ ）が統計的に有意であった．また、外出型理系文化資本については、高校の負の効果（ $\beta=-0.223$ ）のみが統計的に有意であった．

次に、在宅型文系／理系文化資本が基本的な属性変数とどのような関連にあるのかについて検討した（図 7.5）．分析の結果、在宅型文系文化資本については、年齢の正の効果（ $\beta=0.128$ ）、高校の負の効果（ $\beta=-0.237$ ）が統計的に有意であった．在宅型理系文化資本については、年齢の正の効果（ $\beta=0.143$ ）、女性の負の効果（ $\beta=-0.082$ ）、高校の負の効果（ $\beta=-0.177$ ）が統計的に有意であっ

⁽²⁹⁾ 大学・大学院卒層の専攻分野は、その他の回答をアフターコーディングしたうえで、人文学と社会科学、家政学、教育学、芸術学を文系、理学と工学、農学、保健を理系とした．

た．



1) $N=1000$, $\chi^2=78.792$, $df=28$, $CFI=0.997$, $RMSEA=0.043$, $SRMR=0.035$

2) 推定にはWLSMVを使用

3) 係数は標準化した

4) *** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$

図 7.5 在宅型文系／理系文化資本の共分散構造分析

4. まとめ

本稿では、外出型と在宅型の文化活動項目それぞれにおける探索的因子分析を行った場合に、文系文化資本と理系文化資本に対応する 2 因子が得られるのかについて検討した。そして、外出型の文化活動 6 項目と在宅型の文化活動 6 項目を用いた探索的因子分析のそれぞれにおいて、文系文化資本と理系文化資本に対応する 2 因子が得られた。

渡辺・太郎丸（2023）では、文化活動が外出を伴うか否かを区別せずに探索的因子分析を行った結果として、文系と理系ではなく、外出と在宅の区別に対応すると考えられる因子が抽出されていた。しかし、本稿では、これらをあらかじめ項目レベルで区別したうえで探索的因子分析を行ったことで、文系文化資本と理系文化資本に対応する 2 因子を抽出することができたものと考えられる。つまり、特段の工夫なしに、人文社会系分野に親和的な文化活動項目と自然科学系分野に親和的な文化活動項目を合わせて分析に用いた場合では、理系文化資本と文系文化資本の識別はできないものと考えられよう⁽³⁰⁾。翻っていえば、理系文化資本を従来の文系文化資本とは異なるものとして測定するためには、文化資本を測定するための文化活動が外出を伴うものであるか否かを区別しておく必要があるといえよう。

共分散構造分析の結果に関して、先行研究（中井 2011）では、クラシックや美術館などの項目を含むハイブラウ文化や図書館に行く頻度や小説を読む頻度から構成される中間文化は、男性よりも女性において活発であることが報告されてきた。一方で、本稿の分析における在宅型理系文化資本に関しては、女性の負の効果がみられた。そのため、ジェンダーとの関連パターンという点において、在宅型理系文化資本は、従来の人文社会系分野に親和的な項目から構成される文化資本とは異なる

⁽³⁰⁾ 「美的労働調査 2024」データにおける 12 の文化活動項目について、2 因子構造を仮定した因子分析においても、渡辺・太郎丸（2023）に類似する結果が得られている（付表）。

性質を持つものと推察される。

ただし、大学・大学院卒（文系）と大学・大学院卒（理系）の間に、在宅型理系文化資本の保有量の統計的に有意な差は確認されなかったことから、本稿の分析に用いたデータにもとづく限りでは、在宅型理系文化資本の多寡は専攻分野としての文理の区別と一対一で対応しているわけではないと考えられる。この点に関して、在宅型理系文化資本の分野別平均値（付図）を確認すると、例えば、理学や農学では在宅型理系文化資本の因子得点の平均値が高いのに対して、工学では著しく低くなっている。以上の結果は、本稿で測定した在宅型理系文化資本が、STEM 全体と親和的な文化資本であるというよりも、工学以外の自然科学の分野と親和的な文化資本である可能性を示唆している。そのため、従来の教育社会学や社会階層論における文化資本による教育達成モデルを理系進学にトレースしたような分析を行う場合には、在宅型理系文化資本の測定に工学分野との親和性が高い文化活動項目を追加するなどの方向性が考えられよう。

ここまでの議論をまとめると、文化資本の測定に用いる文化活動項目を外出と在宅に分けることで、理系文化資本を文系文化資本から識別することは可能になると考えられるが、それを理系進学などの説明変数として用いるような場合には、本稿の在宅型理系文化資本の項目だけでは力不足である可能性がある結論付けられよう。なお、本稿の分析に用いたのは、Web 調査データであることから、上記の知見がどれだけの外的妥当性を有するのかについては、代表性のある全国調査データなどによって検証する必要があるだろう。

謝辞

本研究は JSPS 科研費(課題番号 24K16513)の助成を受けたものである。

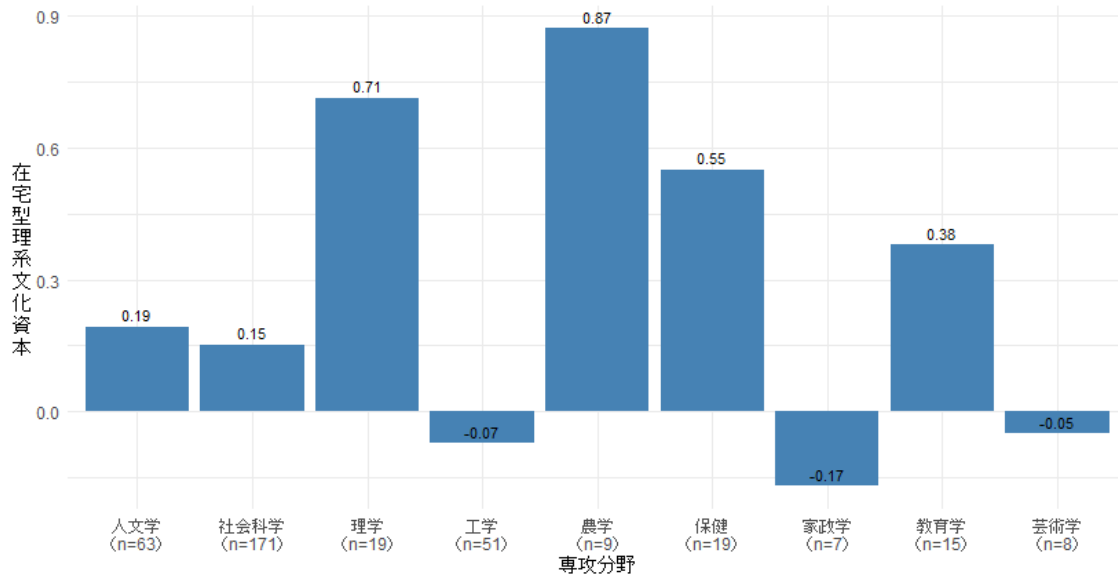
付表

付表 因子分析の結果（全ての文化活動）

因子負荷量	外出文化資本	在宅文化資本	共通性
美術館	0.883	-0.066	0.700
クラシック	0.820	-0.040	0.628
歴史資料館	0.894	0.031	0.838
歴史フィクション	-0.045	0.859	0.686
小説	0.217	0.526	0.486
芸術番組	0.213	0.678	0.709
自然公園	0.755	0.094	0.679
プラネタリウム	0.837	0.066	0.784
工場見学	0.867	0.029	0.788
SF作品	-0.125	0.962	0.771
自然科学の本	0.213	0.690	0.729
自然科学の番組	-0.051	0.900	0.748
因子寄与	4.430	3.707	8.137
寄与率	0.369	0.309	0.678
相関係数			
外出文化資本	1.000		
在宅文化資本	0.708	1.000	

1) 一般化最小二乗法、プロマックス回転を使用

2) 0.4以上の因子負荷量を太字で記載



付図 在宅型理系文化資本の分野別平均値（大学・大学院卒層 n=362）

文献

- Archer, L., E. Dawson, J., DeWitt, A., Seakins, & B. Wong, 2015, “ ‘Science capital’: A conceptual, methodological, and empirical argument for extending bourdieusian notions of capital beyond the arts,” *Journal of Research in Science Teaching*, 52(7): 922-48.
- De Graaf, N. D., De Graaf, P. M., and Kraaykamp, G., 2000, “Parental Cultural Capital and Educational Attainment in the Netherlands: A Refinement of the Cultural Capital Perspective”, *Sociology of education*, 73(2): 92-111.
- 片岡栄美, 2019, 『趣味の社会学 文化・階層・ジェンダー』青弓社.
- 片瀬一男, 2005, 『夢の行方 高校生の教育・職業アスピレーションの変容』東北大学出版会.
- 中井美樹, 2011, 「消費からみるライフスタイル格差の諸相」佐藤嘉倫・尾嶋史章編『現代の階層社会 1 格差と多様性』東京大学出版会: 221-236.
- Sullivan, A., 2001, "Cultural Capital and Educational Attainment." *Sociology*, 35(4): 893-912.
- 太郎丸博, 2020, 「調査の概要といくつかの尺度の信頼性の検討」『政治と科学に関する意識調査 2019 報告書』京都大学文学部社会学研究室: 1-19.
- Tilbrook, N., & Shifrer, D., 2022, “Field-specific cultural capital and persistence in college majors,” *Social science research*, 103: 102654.
- 渡辺健太郎・太郎丸博, 2023, 「文化資本は文系と理系に分かれるか—自然科学に関する文化資本項目を含んだ探索的因子分析—」第 96 回日本社会学会発表資料.

付録 A

「仕事と身だしなみに関する調査 2024」の調査票

BG28A1	BG28A2	BG28A3	BG28B1	BG28B2	BG28B3	BG28C1	BG28C2	BG28C3	BG28D1						
BG28D2	BG28D3	BG28E1	BG28E2	BG28E3	BG28F1	BG28F2	BG28F3	BG29A	BG29B						
BG29C	BG29D	BG29E	BG29F	BG29G	BG30A1	BG30A2	BG30B1	BG30B2	BG30C1						
BG30C2	BG30D1	BG30D2	BG30E1	BG30E2	BG30F1	BG30F2	BG30G1	BG30G2	BG31A1						
BG31A2	BG31B1	BG31B2	BG31C1	BG31C2	BG31D1	BG31D2	BG31E1	BG31E2	BG31F1						
BG31F2	BG31G1	BG31G2	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	WARI1	WARI2	E1	Q6	Q7	Q8	Q9	
IF1	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14	Q15	Q16	Q17	Q18	Q19	IF2	Q20	IF3	Q21	IF4
Q22	Q23	Q24	Q25	Q26	Q27	Q28	Q29	Q30	Q31	Q32	Q33	A1	Q34	Q35	
Q36	Q37	Q38													

プレビュー一覧

設定一覧

バックグラウンド

BG28A1 Q28サブ設問1職業

☐ 医師

☐ 小学校の先生

☐ 市議会議員

☐ 会計事務員

☐ トラック運転手



☐ 清掃員

☐ 大学生

改ページ

BG28A2 Q28サブ設問1性別

☐ 男

☐ 女

改ページ

BG28A3 Q28サブ設問1年齢

☐ 25

☐ 26

☐ 27

☐ 28



☐ 29

☐ 30

☐ 31

☐ 32

☐ 33

☐ 34

☐ 35

☐ 36

☐ 37

☐ 38

☐ 39

☐ 40

☐ 41

☐ 42

☐ 43

☐ 44

☐ 45

☐ 46



☐ 47

☐ 48

☐ 49

☐ 50

改ページ

BG28B1 Q28サブ設問2職業

☐ 医師

☐ 小学校の先生

☐ 市議会議員

☐ 会計事務員

☐ トラック運転手

☐ 清掃員

☐ 大学生

改ページ



BG28B2 Q28サブ設問2性別

☐ 男

☐ 女

[改ページ](#)

BG28B3 Q28サブ設問2年齢

☐ 25

☐ 26

☐ 27

☐ 28

☐ 29

☐ 30

☐ 31

☐ 32



☐ 33

☐ 34

☐ 35

☐ 36

☐ 37

☐ 38

☐ 39

☐ 40

☐ 41

☐ 42

☐ 43

☐ 44

☐ 45

☐ 46

☐ 47

☐ 48

☐ 49

☐ 50



改ページ

BG28C1 Q28サブ設問3職業

☐ 医師

☐ 小学校の先生

☐ 市議会議員

☐ 会計事務員

☐ トラック運転手

☐ 清掃員

☐ 大学生

改ページ

BG28C2 Q28サブ設問3性別

☐ 男



☐ 女

改ページ

BG28C3 Q28サブ設問3年齢

☐ 25

☐ 26

☐ 27

☐ 28

☐ 29

☐ 30

☐ 31

☐ 32

☐ 33

☐ 34

☐ 35

☐ 36



☐ 37

☐ 38

☐ 39

☐ 40

☐ 41

☐ 42

☐ 43

☐ 44

☐ 45

☐ 46

☐ 47

☐ 48

☐ 49

☐ 50

[改ページ](#)

BG28D1 Q28サブ設問4職業



☐ 医師

☐ 小学校の先生

☐ 市議会議員

☐ 会計事務員

☐ トラック運転手

☐ 清掃員

☐ 大学生

[改ページ](#)

BG28D2 Q28サブ設問4性別

☐ 男

☐ 女

[改ページ](#)



BG28D3 Q28サブ設問4年齢

☐ 25

☐ 26

☐ 27

☐ 28

☐ 29

☐ 30

☐ 31

☐ 32

☐ 33

☐ 34

☐ 35

☐ 36

☐ 37

☐ 38

☐ 39



☐ 40

☐ 41

☐ 42

☐ 43

☐ 44

☐ 45

☐ 46

☐ 47

☐ 48

☐ 49

☐ 50

[改ページ](#)

BG28E1 Q28サブ設問5職業

☐ 医師

☐ 小学校の先生



☐ 市議会議員

☐ 会計事務員

☐ トラック運転手

☐ 清掃員

☐ 大学生

改ページ

BG28E2 Q28サブ設問5性別

☐ 男

☐ 女

改ページ

BG28E3 Q28サブ設問5年齢

☐ 25



☐ 26

☐ 27

☐ 28

☐ 29

☐ 30

☐ 31

☐ 32

☐ 33

☐ 34

☐ 35

☐ 36

☐ 37

☐ 38

☐ 39

☐ 40

☐ 41

☐ 42

☐ 43



☐ 44

☐ 45

☐ 46

☐ 47

☐ 48

☐ 49

☐ 50

[改ページ](#)

BG28F1 Q28サブ設問6職業

☐ 医師

☐ 小学校の先生

☐ 市議会議員

☐ 会計事務員

☐ トラック運転手

☐ 清掃員



☐ 大学生

改ページ

BG28F2 Q28サブ設問6性別

☐ 男

☐ 女

改ページ

BG28F3 Q28サブ設問6年齢

☐ 25

☐ 26

☐ 27

☐ 28

☐ 29



☐ 30

☐ 31

☐ 32

☐ 33

☐ 34

☐ 35

☐ 36

☐ 37

☐ 38

☐ 39

☐ 40

☐ 41

☐ 42

☐ 43

☐ 44

☐ 45

☐ 46

☐ 47



☐ 48

☐ 49

☐ 50

[改ページ](#)

BG29A Q29サブ設問1年齢

☐ 16

☐ 17

☐ 18

☐ 19

☐ 20

☐ 21

☐ 22

☐ 23

☐ 24

☐ 25



☐ 26

☐ 27

☐ 28

☐ 29

☐ 30

☐ 31

☐ 32

☐ 33

☐ 34

☐ 35

☐ 36

☐ 37

☐ 38

☐ 39

☐ 40

☐ 41

☐ 42

☐ 43



☐ 44

☐ 45

☐ 46

☐ 47

☐ 48

☐ 49

☐ 50

[改ページ](#)

BG29B Q29サブ設問2年齢

☐ 16

☐ 17

☐ 18

☐ 19

☐ 20

☐ 21



☐ 22

☐ 23

☐ 24

☐ 25

☐ 26

☐ 27

☐ 28

☐ 29

☐ 30

☐ 31

☐ 32

☐ 33

☐ 34

☐ 35

☐ 36

☐ 37

☐ 38

☐ 39



☐ 40

☐ 41

☐ 42

☐ 43

☐ 44

☐ 45

☐ 46

☐ 47

☐ 48

☐ 49

☐ 50

[改ページ](#)

BG29C Q29サブ設問3年齢

☐ 22

☐ 23



☐ 24

☐ 25

☐ 26

☐ 27

☐ 28

☐ 29

☐ 30

☐ 31

☐ 32

☐ 33

☐ 34

☐ 35

☐ 36

☐ 37

☐ 38

☐ 39

☐ 40

☐ 41



☐ 42

☐ 43

☐ 44

☐ 45

☐ 46

☐ 47

☐ 48

☐ 49

☐ 50

[改ページ](#)

BG29D Q29サブ設問4年齢

☐ 22

☐ 23

☐ 24

☐ 25



☐ 26

☐ 27

☐ 28

☐ 29

☐ 30

☐ 31

☐ 32

☐ 33

☐ 34

☐ 35

☐ 36

☐ 37

☐ 38

☐ 39

☐ 40

☐ 41

☐ 42

☐ 43



☐ 44

☐ 45

☐ 46

☐ 47

☐ 48

☐ 49

☐ 50

[改ページ](#)

BG29E Q29サブ設問5年齢

☐ 25

☐ 26

☐ 27

☐ 28

☐ 29

☐ 30



☐ 31

☐ 32

☐ 33

☐ 34

☐ 35

☐ 36

☐ 37

☐ 38

☐ 39

☐ 40

☐ 41

☐ 42

☐ 43

☐ 44

☐ 45

☐ 46

☐ 47

☐ 48



☐ 49

☐ 50

改ページ

BG29F Q29サブ設問6年齢

☐ 22

☐ 23

☐ 24

☐ 25

☐ 26

☐ 27

☐ 28

☐ 29

☐ 30

☐ 31

☐ 32



☐ 33

☐ 34

☐ 35

☐ 36

☐ 37

☐ 38

☐ 39

☐ 40

☐ 41

☐ 42

☐ 43

☐ 44

☐ 45

☐ 46

☐ 47

☐ 48

☐ 49

☐ 50



改ページ

BG29G Q29サブ設問7年齢

☐ 22

☐ 23

☐ 24

☐ 25

☐ 26

☐ 27

☐ 28

☐ 29

☐ 30

☐ 31

☐ 32

☐ 33

☐ 34



☐ 35

☐ 36

☐ 37

☐ 38

☐ 39

☐ 40

☐ 41

☐ 42

☐ 43

☐ 44

☐ 45

☐ 46

☐ 47

☐ 48

☐ 49

☐ 50

BG30A1 Q30サブ設問1年齢

☐ 16

☐ 17

☐ 18

☐ 19

☐ 20

☐ 21

☐ 22

☐ 23

☐ 24

☐ 25

☐ 26

☐ 27

☐ 28

☐ 29

☐ 30



☐ 31

☐ 32

☐ 33

☐ 34

☐ 35

☐ 36

☐ 37

☐ 38

☐ 39

☐ 40

☐ 41

☐ 42

☐ 43

☐ 44

☐ 45

☐ 46

☐ 47

☐ 48



☐ 49

☐ 50

改ページ

BG30A2 Q30サブ設問1服装

☐ ロリータファッション

☐ ミニスカート

改ページ

BG30B1 Q30サブ設問2年齢

☐ 16

☐ 17

☐ 18

☐ 19



☐ 20

☐ 21

☐ 22

☐ 23

☐ 24

☐ 25

☐ 26

☐ 27

☐ 28

☐ 29

☐ 30

☐ 31

☐ 32

☐ 33

☐ 34

☐ 35

☐ 36

☐ 37



☐ 38

☐ 39

☐ 40

☐ 41

☐ 42

☐ 43

☐ 44

☐ 45

☐ 46

☐ 47

☐ 48

☐ 49

☐ 50

[改ページ](#)

BG30B2 Q30サブ設問2服装



☐ ロリータファッション

☐ ミニスカート

改ページ

BG30C1 Q30サブ設問3年齢

☐ 16

☐ 17

☐ 18

☐ 19

☐ 20

☐ 21

☐ 22

☐ 23

☐ 24

☐ 25

☐ 26



☐ 27

☐ 28

☐ 29

☐ 30

☐ 31

☐ 32

☐ 33

☐ 34

☐ 35

☐ 36

☐ 37

☐ 38

☐ 39

☐ 40

☐ 41

☐ 42

☐ 43

☐ 44



☐ 45

☐ 46

☐ 47

☐ 48

☐ 49

☐ 50

[改ページ](#)

BG30C2 Q30サブ設問3服装

☐ ロリータファッション

☐ ミニスカート

[改ページ](#)

BG30D1 Q30サブ設問4年齢



☐ 22

☐ 23

☐ 24

☐ 25

☐ 26

☐ 27

☐ 28

☐ 29

☐ 30

☐ 31

☐ 32

☐ 33

☐ 34

☐ 35

☐ 36

☐ 37

☐ 38

☐ 39



☐ 40

☐ 41

☐ 42

☐ 43

☐ 44

☐ 45

☐ 46

☐ 47

☐ 48

☐ 49

☐ 50

[改ページ](#)

BG30D2 Q30サブ設問4服装



☐ ロリータファッション

☐ ミニスカート

[改ページ](#)

BG30E1 Q30サブ設問5年齢

☐ 25

☐ 26

☐ 27

☐ 28

☐ 29

☐ 30

☐ 31

☐ 32

☐ 33

☐ 34



☐ 35

☐ 36

☐ 37

☐ 38

☐ 39

☐ 40

☐ 41

☐ 42

☐ 43

☐ 44

☐ 45

☐ 46

☐ 47

☐ 48

☐ 49

☐ 50

BG30E2 Q30サブ設問5服装

☐ ロリータファッション

☐ ミニスカート

[改ページ](#)

BG30F1 Q30サブ設問6年齢

☐ 22

☐ 23

☐ 24

☐ 25

☐ 26

☐ 27

☐ 28

☐ 29



☐ 30

☐ 31

☐ 32

☐ 33

☐ 34

☐ 35

☐ 36

☐ 37

☐ 38

☐ 39

☐ 40

☐ 41

☐ 42

☐ 43

☐ 44

☐ 45

☐ 46

☐ 47



☐ 48

☐ 49

☐ 50

改ページ

BG30F2 Q30サブ設問6服装

☐ ロリータファッション

☐ ミニスカート

改ページ

BG30G1 Q30サブ設問7年齢

☐ 22

☐ 23

☐ 24



☐ 25

☐ 26

☐ 27

☐ 28

☐ 29

☐ 30

☐ 31

☐ 32

☐ 33

☐ 34

☐ 35

☐ 36

☐ 37

☐ 38

☐ 39

☐ 40

☐ 41

☐ 42



☐ 43
☐ 44
☐ 45
☐ 46
☐ 47
☐ 48
☐ 49
☐ 50

[改ページ](#)

BG30G2 Q30サブ設問7服装

☐ ロリータファッション
☐ ミニスカート

[改ページ](#)



BG31A1 Q31サブ設問1年齢

☐ 16

☐ 17

☐ 18

☐ 19

☐ 20

☐ 21

☐ 22

☐ 23

☐ 24

☐ 25

☐ 26

☐ 27

☐ 28

☐ 29

☐ 30



☐ 31

☐ 32

☐ 33

☐ 34

☐ 35

☐ 36

☐ 37

☐ 38

☐ 39

☐ 40

☐ 41

☐ 42

☐ 43

☐ 44

☐ 45

☐ 46

☐ 47

☐ 48



☐ 49

☐ 50

改ページ

BG31A2 Q31サブ設問1容姿

☐ スカートをはいて

☐ 真珠のネックレスをして

☐ 耳にピアスをして

☐ 口紅を塗って

☐ アイシャドウをして

☐ 半ズボンをはいて

改ページ

BG31B1 Q31サブ設問2年齢



☐ 16

☐ 17

☐ 18

☐ 19

☐ 20

☐ 21

☐ 22

☐ 23

☐ 24

☐ 25

☐ 26

☐ 27

☐ 28

☐ 29

☐ 30

☐ 31

☐ 32

☐ 33



☐ 34

☐ 35

☐ 36

☐ 37

☐ 38

☐ 39

☐ 40

☐ 41

☐ 42

☐ 43

☐ 44

☐ 45

☐ 46

☐ 47

☐ 48

☐ 49

☐ 50



[改ページ](#)

BG31B2 Q31サブ設問2容姿

☐ スカートをはいて

☐ 真珠のネックレスをして

☐ 耳にピアスをして

☐ 口紅を塗って

☐ アイシャドウをして

☐ 半ズボンをはいて

[改ページ](#)

BG31C1 Q31サブ設問3年齢

☐ 16

☐ 17

☐ 18



☐ 19

☐ 20

☐ 21

☐ 22

☐ 23

☐ 24

☐ 25

☐ 26

☐ 27

☐ 28

☐ 29

☐ 30

☐ 31

☐ 32

☐ 33

☐ 34

☐ 35

☐ 36



☐ 37

☐ 38

☐ 39

☐ 40

☐ 41

☐ 42

☐ 43

☐ 44

☐ 45

☐ 46

☐ 47

☐ 48

☐ 49

☐ 50

[改ページ](#)

BG31C2 Q31サブ設問3容姿



☐ スカートをはいて

☐ 真珠のネックレスをして

☐ 耳にピアスをして

☐ 口紅を塗って

☐ アイシャドウをして

☐ 半ズボンをはいて

改ページ

BG31D1 Q31サブ設問4年齢

☐ 22

☐ 23

☐ 24

☐ 25

☐ 26

☐ 27



☐ 28

☐ 29

☐ 30

☐ 31

☐ 32

☐ 33

☐ 34

☐ 35

☐ 36

☐ 37

☐ 38

☐ 39

☐ 40

☐ 41

☐ 42

☐ 43

☐ 44

☐ 45



☐ 46

☐ 47

☐ 48

☐ 49

☐ 50

改ページ

BG31D2 Q31サブ設問4容姿

☐ スカートをはいて

☐ 真珠のネックレスをして

☐ 耳にピアスをして

☐ 口紅を塗って

☐ アイシャドウをして

☐ 半ズボンをはいて

改ページ



BG31E1 Q31サブ設問5年齢

☐ 25

☐ 26

☐ 27

☐ 28

☐ 29

☐ 30

☐ 31

☐ 32

☐ 33

☐ 34

☐ 35

☐ 36

☐ 37

☐ 38

☐ 39



☐ 40

☐ 41

☐ 42

☐ 43

☐ 44

☐ 45

☐ 46

☐ 47

☐ 48

☐ 49

☐ 50

[改ページ](#)

BG31E2 Q31サブ設問5容姿

☐ スカートをはいて

☐ 真珠のネックレスをして



☐ 耳にピアスをして

☐ 口紅を塗って

☐ アイシャドウをして

☐ 半ズボンをはいて

改ページ

BG31F1 Q31サブ設問6年齢

☐ 22

☐ 23

☐ 24

☐ 25

☐ 26

☐ 27

☐ 28

☐ 29

☐ 30



☐ 31

☐ 32

☐ 33

☐ 34

☐ 35

☐ 36

☐ 37

☐ 38

☐ 39

☐ 40

☐ 41

☐ 42

☐ 43

☐ 44

☐ 45

☐ 46

☐ 47

☐ 48



☐ 49

☐ 50

改ページ

BG31F2 Q31サブ設問6容姿

☐ スカートをはいて

☐ 真珠のネックレスをして

☐ 耳にピアスをして

☐ 口紅を塗って

☐ アイシャドウをして

☐ 半ズボンをはいて

改ページ

BG31G1 Q31サブ設問7年齢



☐ 22

☐ 23

☐ 24

☐ 25

☐ 26

☐ 27

☐ 28

☐ 29

☐ 30

☐ 31

☐ 32

☐ 33

☐ 34

☐ 35

☐ 36

☐ 37

☐ 38

☐ 39



☐ 40

☐ 41

☐ 42

☐ 43

☐ 44

☐ 45

☐ 46

☐ 47

☐ 48

☐ 49

☐ 50

[改ページ](#)

BG31G2 Q31サブ設問7容姿

☐ スカートをはいて

☐ 真珠のネックレスをして



☐ 耳にピアスをして

☐ 口紅を塗って

☐ アイシャドウをして

☐ 半ズボンをはいて

[改ページ](#)

スクリーナー

Q1 あなたの性別をお知らせください。

ひとつだけ

必須

☐ 男

☐ 女

☐ その他

[改ページ](#)



Q2 あなたの年齢をお知らせください。

必須

歳

[改ページ](#)

Q3 あなたが生まれた国はどこですか。

ひとつだけ

必須

☐ 日本

☐ 日本以外の国

[改ページ](#)

Q4 あなたはこれまで日本以外の国で生活したことがありますか。

ひとつだけ

必須



☐ 外国には行ったことがない

☐ 2週間以内の海外旅行なら行ったことはあるが、住んだことはない

☐ 15日以上、1年未満のあいだ日本以外の国に住んだり滞在したことがある

☐ 1年以上日本以外の国に住んだことがある

[改ページ](#)

Q5 あなたが最後に通った（または現在通っている）学校は次のどれにあたりますか。

（※在学中や中退も含めて最後に通った学校をお答えください。）

ひとつだけ

必須



☐ 中学校

☐ 高校

☐ 専修学校（専門学校）

☐ 高等専門学校（5年制）

☐ 短期大学

☐ 大学

☐ 大学院

改ページ

割付用隠し設問（性年代）

※実際のアンケート画面では表示されません。

☐ 男性20代

☐ 男性30代

☐ 男性40代

☐ 男性50代

☐ 女性20代



☐ 女性30代

☐ 女性40代

☐ 女性50代

割付用隠し設問（最終学歴）

※実際のアンケート画面では表示されません。

☐ 中学校卒

☐ 高校卒

☐ 短大・専門・高専卒

☐ 大学・大学院卒

本調査

Q6 あなたは前問で回答した学校を卒業しましたか。中退しましたか。それとも、
現在、在学中ですか。



ひとつだけ

必須

☐ 卒業した

☐ 中退した

☐ 在学中

[改ページ](#)

Q7 専修学校、高専、短大、大学、大学院に通ったことのある方にうかがいます。
その学校では何を専攻していましたか。複数の学校に通われた方や、途中で専攻を変えられた方は、最後に専攻された分野をお答えください。

ひとつだけ

必須

☐ 人文学（哲学、文学、歴史など）

☐ 社会科学（経済学、政治学、社会学、法学など）

☐ 理学（数学、物理学、生物学、地学など）

☐ 工学（機械工学、情報工学、土木工学など）

☐ 農学（園芸学、バイオサイエンス、食品工学、水産学、獣医学なども含む）



☐ 保健（医学、看護学、歯学、薬学など）

☐ 家政学（家政学、食品学、被服学など）

☐ 教育学（幼稚園課程、教育心理学なども含む）

☐ 芸術（美術、デザイン、音楽など）

☐ その他 具体的に

入力してください

[改ページ](#)

Q8 昨年1年間のあなたの家の世帯収入は、この中のどれにあたりますか。税金を差し引く前の収入でお答えください。仕事からの収入だけでなく、株式配当、年金、不動産収入などすべての収入を合わせてください。
そのうち、あなたご自身の収入はどのくらいですか。仕事以外からの収入も含めてください。

それぞれひとつだけ

必須

	世帯全体	あなたご自身
	↓	↓
なし	☐	☐
70万円未満	☐	☐
70～100万円未満	☐	☐
100～130万円未満	☐	☐
130～150万円未満	☐	☐
150～250万円未満	☐	☐
250～350万円未満	☐	☐

^

350～450万円未満	☐	☐
450～550万円未満	☐	☐
550～650万円未満	☐	☐
650～750万円未満	☐	☐
750～850万円未満	☐	☐
850～1,000万円未満	☐	☐
1,000～1,200万円未満	☐	☐
1,200～1,400万円未満	☐	☐
1,400～1,600万円未満	☐	☐
1,600～1,850万円未満	☐	☐
1,850～2,300万円未満	☐	☐
2,300万円以上	☐	☐
わからない	☐	☐
答えたくない	☐	☐

[改ページ](#)

Q9 先週、あなたは収入をともなう仕事をしましたか、または仕事をする事になっていましたか。この中からあげてください。

ひとつだけ

必須



☐ 仕事をした

☐ 仕事をもっているが、病気、休暇などで先週は仕事を休んだ

☐ 仕事をしていない

[改ページ](#)

表示条件ここから

Q10 あなたは、先週、残業も含めて仕事を合計何時間しましたか。2つ以上仕事をおもちの場合は、主な仕事1つとそれ以外の仕事にわけて、それぞれの時間を教えてください。

必須

主な仕事を週合計で

時間

それ以外の仕事を週合計で

時間

[改ページ](#)

Q11 あなたの現在のお仕事についてうかがいます。複数の仕事をお持ちの場合は、主な仕事についてお答えください。あなたのお仕事は大きく分けてこの中のどれにあたりますか。

^

学生でアルバイトをしている人は「臨時雇用・パート・アルバイト」、学生でその他の働き方をしている人は適宜該当する選択肢を選んでください。

ひとつだけ

必須

☐ 経営者・役員

☐ 常時雇用されている一般従業者

☐ 臨時雇用・パート・アルバイト

☐ 派遣社員

☐ 契約社員・嘱託

☐ 自営業主・自由業者

☐ 家族従業者

☐ 内職

[改ページ](#)

Q12 あなたの勤め先の業種に最も近いものを以下の中から一つ選んでください。

ひとつだけ

必須



☐ 農業、林業、漁業

☐ 鉱業、採石業、砂利採取業

☐ 建設業

☐ 製造業

☐ 電気・ガス・熱供給・水道業

☐ 情報通信業、新聞・放送・出版業、広告業、映画制作業

☐ 運輸業、郵便業

☐ 卸売業、小売業（コンビニ、デパート等）

☐ 教育、学習支援業

☐ 金融業、保険業、不動産業、物品賃貸業

☐ 学術研究、専門・技術サービス業、法律・会計

☐ 宿泊業、飲食サービス業（ホテル、レストラン等）

☐ 生活関連サービス、娯楽業（クリーニング、冠婚葬祭、ヘアサロン、スポーツ施設等）

☐ 医療、福祉

☐ 複合サービス事業、郵便局、協同組合

☐ 公務

☐ その他 具体的に：

入力してください



[改ページ](#)



Q13 あなたの勤め先の従業員は、会社全体で何人ぐらいですか。

※契約社員や派遣社員、パート・アルバイトも含めた人数でお答えください。

ひとつだけ

必須

☐ 1人

☐ 2～4人

☐ 5～9人

☐ 10～29人

☐ 30～99人

☐ 100～299人

☐ 300～499人

☐ 500～999人

☐ 1000人以上

☐ 官公庁

☐ わからない

改ページ



Q14 あなたは職場で、どのような仕事をしていますか。

ひとつだけ

必須

- ☐ 事務（企業・官公庁における一般事務、経理、内勤の営業、医療事務員など）
- ☐ 販売（小売・卸売店主、店員、不動産売買、保険外交、外勤のセールスなど）
- ☐ サービス（理容・美容師、料理人、ウェイター、ウェイトレス、ホームヘルパーなど）
- ☐ 保安（警察官、消防官、自衛官など）
- ☐ 農林漁業（農業、林業、漁業など）
- ☐ 生産工程（製品製造・組立、自動車整備、農水産物加工など）
- ☐ 輸送・機械運転（トラック・タクシー運転手、船員、クレーン作業員など）
- ☐ 建設・採掘（建設作業員、大工、電気工事、土木作業員など）
- ☐ 運搬・清掃・包装（配達員、ハウスクリーニング、包装作業など）
- ☐ 専門・技術（医師、看護師、弁護士、教師、技術者、デザイナーなど専門的知識・技術を要するもの）
- ☐ 管理（企業・官公庁における課長職以上、議員、経営者など）
- ☐ その他 具体的に：

入力してください

Q15 お仕事の内容を以下の例にしたがってもう少し具体的に教えてください。

例：「銀行」で「一般事務職」、
「自動車整備工場」で「車の製造」、
「私立中学校」で「教員」、
「自宅の田畑」で「農業」、
「病院」で「獣医」、
「アパレル」で「販売店員」、
「美容院」で「美容師」、
「市役所」で「受付事務職」、
「不動産会社」で「営業職」など、できるだけ具体的に記入ください。

必須

	で
	をしている。

[改ページ](#)

Q16 あなたの仕事に関して、次の事柄がどの程度当てはまりますか。

それぞれひとつだけ

必須

		当てはまる	ある程度当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
自分の仕事の内容や仕事のペースを自分で決めたり変えたりすることができる	→	○	○	○	○

職場全体の仕事のやり方を決めたりするのに発言権がある	→	☐	☐	☐	☐
自分の都合で自由に休みをとったり早退したりすることができる	→	☐	☐	☐	☐
職場の都合で勤務時間がよく変更される	→	☐	☐	☐	☐
いつも同じことをくりかえすのではなく、さまざまな種類のことをしている	→	☐	☐	☐	☐

[改ページ](#)

Q17 あなたはお仕事で、顧客に対面で接することがありますか。

ひとつだけ

必須

☐ よく接している

☐ たまに接している

☐ ほとんど接しない

[改ページ](#)

Q18 あなたはお仕事の際にどんな服装をしていますか。在宅勤務もある方は出勤したときの服装について教えてください。

ひとつだけ

必須



☐ 制服や作業服が決まっている

☐ 決まった制服や作業服はないが、服の種類などが指定されている（黒いパンツに白いシャツとか、スーツ着用とか）

☐ 決まった制服や作業服も、服の種類の指定もない（服装自由）

☐ その他 具体的に：

入力してください

[改ページ](#)

表示条件ここまで

Q19 あなたは過去1年間にどれぐらい美容店・理容店、エステサロン、ネイルサロンに行きましたか。

それぞれひとつだけ

必須

	美容店・理容店	エステサロン	ネイルサロン
	↓	↓	↓
週に1回以上	☐	☐	☐
月に2～3回ぐらい	☐	☐	☐
月に1回ぐらい	☐	☐	☐
2ヶ月に1回ぐらい	☐	☐	☐

↑

3～4ヶ月に1回ぐらい	☐	☐	☐
5～6ヶ月に1回ぐらい	☐	☐	☐
1年間で1回ぐらい	☐	☐	☐
行かなかった	☐	☐	☐

改ページ

表示条件ここから

Q20 あなたが美容店もしくは理容店に通って支払った金額は、過去1年間で合計するといくらくらいだったと思いますか（カット、カラー、パーマなどすべての合計でお答えください）。

ひとつだけ

必須

選択してください



改ページ

表示条件ここまで

表示条件ここから

Q21 あなたがエステサロンに通って支払った金額は、過去1年間で合計するといくらくらいだったと思いますか。



ひとつだけ

必須

選択してください



改ページ

表示条件ここまで

表示条件ここから

Q22 あなたがネイルサロンに通って支払った金額は、過去1年間で合計するといくらくらいだったと思いますか。

ひとつだけ

必須

選択してください



改ページ

表示条件ここまで

Q23 あなたはふだんの程度、家族以外の人と会話をしますか（電話等での話やあいさつ、ちょっとした世間話も「会話」に含みます）。



ひとつだけ

必須

☐ 毎日

☐ 2～3日に1回

☐ 4～7日（1週間）に1回

☐ 2週間に1回

☐ 1か月に1回

☐ ほとんど話をしない

[改ページ](#)

Q24 あなたがここ1か月間に家族以外で会話をした人は、何人くらいいましたか（電話等での話やあいさつ、ちょっとした世間話も「会話」に含みます）。

ひとつだけ

必須

☐ 0人

☐ 1～4人

☐ 5～9人

↑

☐ 10～20人

☐ 21～49人

☐ 50人以上

[改ページ](#)

■ 他人と会う必要がある日の、あなたの行動についてお聞きします。

Q25 あなたは、**ご自身でおこなう**頭髪および体毛（例：わき毛、すね毛、ひげ）の手入れに、1日に平均でどれくらい時間をかけますか。「手入れ」には、頭髪をセットする、体毛を剃るなど、頭髪や体毛を整える行動すべてを含みます。

ひとつだけ

必須

選択してください



[改ページ](#)

Q26 他人と会うとき、次にあげる事柄をどのくらいおこないますか。それぞれにあてはまるものを1つお選びください。

それぞれひとつだけ

必須



		ほぼ毎日する	することのほうが多い	しないことのほうが多い	しない
アクセサリをつける	→	☐	☐	☐	☐
整髪料やワックスをつける	→	☐	☐	☐	☐
香水やデオドラントをつける	→	☐	☐	☐	☐
眉を整える	→	☐	☐	☐	☐
日焼け止めを塗る	→	☐	☐	☐	☐
化粧水や乳液、美容液をつける	→	☐	☐	☐	☐
ファンデーションやチークなどを塗る	→	☐	☐	☐	☐
アイメイクをする(アイプチを含む)	→	☐	☐	☐	☐
口紅やリップグロスなどを塗る	→	☐	☐	☐	☐
マニキュアやジェルネイルなどをする	→	☐	☐	☐	☐
ネイルケアをする(爪を磨くなど)	→	☐	☐	☐	☐
		ほぼ毎日する	することのほうが多い	しないことのほうが多い	しない

改ページ

Q27 あなたご自身に、以下のことがどの程度あてはまりますか。

それぞれひとつだけ

必須



		あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
ファッションに興味がある	→	☐	☐	☐	☐
ファッション誌やネット上のファッション情報をときどきチェックしている	→	☐	☐	☐	☐
服のウィンドウショッピングをしたり、服のオンラインショップをチェックするのが好きだ	→	☐	☐	☐	☐
外出するときは服のコーディネートをよく考える	→	☐	☐	☐	☐
外出する前には全身を鏡で見てチェックする	→	☐	☐	☐	☐
服を買うときは試着したり、サイズやシルエット、色などを慎重にチェックする	→	☐	☐	☐	☐
服装には自分なりのこだわりがある	→	☐	☐	☐	☐
服は暑さ寒さをしのげれば何でもいい	→	☐	☐	☐	☐

改ページ

Q28 あなたは以下のような人にどれぐらい抵抗感がありますか。

それぞれひとつだけ

必須

	まったく抵抗感がない	あまり抵抗感がない	どちらともいえない	少し抵抗感がある	とても抵抗感がある
				△	

髪を金髪に染めた[[BG28A1]] ([[BG28A3]]歳・[[BG28A2]])	→	☐	☐	☐	☐	☐
鼻にピアスをした[[BG28B1]] ([[BG28B3]]歳・[[BG28B2]])	→	☐	☐	☐	☐	☐
腕にタトゥーをした[[BG28C1]] ([[BG28C3]]歳・[[BG28C2]])	→	☐	☐	☐	☐	☐
青いカラーコンタクトをした[[BG28D1]] ([[BG28D3]]歳・[[BG28D2]])	→	☐	☐	☐	☐	☐
金色のラメの入ったつけまつげをした[[BG28E1]] ([[BG28E3]]歳・[[BG28E2]])	→	☐	☐	☐	☐	☐
整形して鼻を高くした[[BG28F1]] ([[BG28F3]]歳・[[BG28F2]])	→	☐	☐	☐	☐	☐

改ページ

Q29 化粧をしていない女性が以下のようなことをしていたとしたらどう思いますか。

それぞれひとつだけ

必須

		不適切だと思う	どちらかという と不適切だと思う	どちらとも言えない	どちらかという と不適切ではないと思う	不適切ではないと思う
[[BG29A]]歳の女性が化粧をせずに街を歩く	→	☐	☐	☐	☐	☐
[[BG29B]]歳の女性が化粧をせずにロックコンサートに参加する	→	☐	☐	☐	☐	☐
[[BG29C]]歳の女性清掃員が化粧をせずに廊下を掃除する	→	☐	☐	☐	☐	☐
[[BG29D]]歳の女性教師が化粧をせずに小学校で授業をする	→	☐	☐	☐	☐	☐
[[BG29E]]歳の女性市議会議員が化粧をせずに市議会に参加する	→	☐	☐	☐	☐	☐
[[BG29F]]歳の女性事務員が化粧をせずにオフィスで働く	→	☐	☐	☐	☐	☐

[[BG29G]]歳の女性営業社員が化粧をせずに取引先と商談する

→

○

○

○

○

○

[改ページ](#)

Q30 以下の写真のようにフリルやレースを多用した西洋のお姫様風の服装は、ロリータファッションと呼ばれますが、ロリータファッションやミニスカートの女性が以下のような行動をしたら、あなたはどの程度不適切だと思いますか。



それぞれひとつだけ

必須

不適切だと思う

どちらかというと不適切だ

どちらとも言えない

どちらかというと不適切で

不適切ではないと思う

		と思う	はないと思う
[[BG30A1]]歳の女性が[[BG30A2]]で街を歩く	→	☐	☐
[[BG30B1]]歳の女性が[[BG30B2]]でロックコンサートに参加する	→	☐	☐
[[BG30C1]]歳の女性が[[BG30C2]]でスタジアムでサッカーを観戦する	→	☐	☐
[[BG30D1]]歳の女性教師が[[BG30D2]]で小学生に授業をする	→	☐	☐
[[BG30E1]]歳の女性市議会議員が[[BG30E2]]で市議会に参加する	→	☐	☐
[[BG30F1]]歳の女性事務員が[[BG30F2]]でオフィスで働く	→	☐	☐
[[BG30G1]]歳の女性営業社員が[[BG30G2]]で取引先と商談する	→	☐	☐

[改ページ](#)

Q31 以下のような恰好をした男性が次のようなことをしたら、どの程度不適切だと思いますか。

☐ それぞれひとつだけ

☒ 必須

		不適切だと思う	どちらかという と不適切だと思う	どちらとも言えない	どちらかという と不適切ではない	不適切ではない と思う
[[BG31A1]]歳の男性が[[BG31A2]]街を歩く	→	☐	☐	☐	☐	☐
[[BG31B1]]歳の男性が[[BG31B2]]ロックコンサートに参加する	→	☐	☐	☐	☐	☐
[[BG31C1]]歳の男性が[[BG31C2]]スタジアムでサッカーを観戦する	→	☐	☐	☐	☐	☐
[[BG31D1]]歳の男性教師が[[BG31D2]]小学校で授業をする	→	☐	☐	☐	☐	☐

[[BG31E1]]歳の男性市議会議員が[[BG31E2]]市議会に出席する	→	☐	☐	☐	☐	☐
[[BG31F1]]歳の男性事務員が[[BG31F2]]オフィスで働く	→	☐	☐	☐	☐	☐
[[BG31G1]]歳の男性営業社員が[[BG31G2]]取引先と商談する	→	☐	☐	☐	☐	☐

[改ページ](#)

Q32 あなたは、次のような活動をしていますか。それぞれの活動について、どのくらいしているかを、最近の5、6年でお答えください。

それぞれひとつだけ

必須

		週に1回以上	月に1回ぐらい	年に1回から数回	数年に1回ぐらい	ここ数年したことがない
美術館や絵画展に行く	→	☐	☐	☐	☐	☐
クラシック音楽のコンサートへ行く	→	☐	☐	☐	☐	☐
歴史や民俗に関する資料館・博物館に行く	→	☐	☐	☐	☐	☐
歴史上の人物や物事が登場するフィクション作品（小説・漫画・アニメ・映画）を視聴する	→	☐	☐	☐	☐	☐
小説や歴史の本を読む（歴史フィクションやサイエンスフィクションを除く）	→	☐	☐	☐	☐	☐
文学や思想、芸術に関する動画やテレビ番組をみる	→	☐	☐	☐	☐	☐
国立公園や国定公園、世界自然遺産などを散策する	→	☐	☐	☐	☐	☐
プラネタリウムや天文台、自然史博物館、科学館に行く	→	☐	☐	☐	☐	☐
工場見学やモノづくりに関する産業館、博物館に行く	→	☐	☐	☐	☐	☐
近未来や空想上の科学技術が登場するフィクション作品（小説・漫画・アニメ・映画）を視聴する	→	☐	☐	☐	☐	☐

↑

生物や宇宙、地質など、自然や科学に関する本や雑誌記事を読む（フィクションを除く）	→	☐	☐	☐	☐	☐
生物や宇宙、地質など、自然や科学に関する動画やテレビ番組をみる（フィクションを除く）	→	☐	☐	☐	☐	☐
		週に1回以上	月に1回ぐらい	年に1回から数回	数年に1回ぐらい	ここ数年したことがない

[改ページ](#)

Q33 あなたは生活全般にどの程度満足していますか。

ひとつだけ

必須

☐ 満足している

☐ どちらかといえば満足している

☐ どちらともいえない

☐ どちらかといえば不満

☐ 不満

[改ページ](#)

A1 インターネットを用いた調査においては、うそをついたり、質問を読まないで、いい加減な回答をしたりする方がいることが問題となっています。つきましては大変失礼なお願いですが、あなたがこの文章をきちんと読んでいるかどうかを確認させてください。あなたがこの文章をお読みになったら、以下の質問には回答せずに（つまり、どの選択肢もクリックせずに）、次のページに進んでください。

☐ そう思う

☐ どちらかというと思う

☐ どちらともいえない

☐ どちらかというと思わない

☐ そう思わない

[改ページ](#)

Q34 以下のような意見についてあなたは賛成ですか、反対ですか。あなたの考えに最も近いものを一つお選びください。

それぞれひとつだけ

必須



		そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
	→	☐	☐	☐	☐	☐
権威のある人々にはつねに敬意をはらわなければならない	→	☐	☐	☐	☐	☐
以前からなされてきたやり方を守ることが、最上の結果を生む	→	☐	☐	☐	☐	☐
伝統や慣習にしたがったやり方に疑問をもつ人は、結局は問題をひきおこすことになる	→	☐	☐	☐	☐	☐
この複雑な世の中で何をなすべきか知るいちばんよい方法は、指導者や専門家にたよることである	→	☐	☐	☐	☐	☐

[改ページ](#)

Q35 次のような考え方について、あなたはどのように思いますか。あなたの考えに最も近いものを一つお選びください。

それぞれひとつだけ

必須

		そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
	→	☐	☐	☐	☐	☐
母親が外で働いていても、働いていない母親と同じように、温かく、しっかりした母子の関係はつくれる	→	☐	☐	☐	☐	☐

↑

母親が外で働いていると、小学校入学前の子供は精神的に傷つくようだ	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐
母親がフルタイムで働いていると、家庭生活は損なわれるものだ	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐
仕事を持つのはいいことだが、女性の多くが本当に望んでいるのは家庭と子どもだ	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐
主婦として家事をすることも、働いて収入を得ることも、同じように充実したものだ	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐
男性も女性も家計のために収入を得るようにしなければならない	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐
男性の仕事は収入を得ること、女性の仕事は家庭と家族の面倒をみることだ	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐

[改ページ](#)

Q36 あなたの身長と体重を教えてください。

必須

身長 cm

体重 kg

[改ページ](#)

Q37 同年代の同性の人と比べたときの、あなたの容姿に関する自己評価を教えてください。

それぞれひとつだけ

必須

↑

		思う	らかと言えはそう思う	らとも言えない	らかと言えはそう思わない	思わない
私は顔が良いほうだ	→	☐	☐	☐	☐	☐
私はスタイルが良いほうだ	→	☐	☐	☐	☐	☐
私は清潔感があるほうだ	→	☐	☐	☐	☐	☐
私はオシャレなほうだ	→	☐	☐	☐	☐	☐
私は肌が美しいほうだ	→	☐	☐	☐	☐	☐

改ページ



Q38 3月15日(金)ごろより、あなたご自身の手の写真を撮影いただき、その画像をアップロードいただくアンケートを実施する予定です。
画像をアップロードいただいた方には、200円相当のポイントを後日付与させていただきます。
あなたはそのようなアンケートにご協力いただけますか。

※右手でも左手でも構いません。

※加工や修正はしないでください。

※ご協力いただける方のうち、条件に合う方にのみ、後日アンケートを配信させていただきます。

ひとつだけ

必須

☐ 協力できる

☐ 協力できない

改ページ



付録 B

「仕事と身だしなみに関する調査
2024」の単純集計表

Q1. あなたの性別をお知らせください。

		度数	%
Q1	男	508	50.8
	女	492	49.2
	その他	–	–
	無回答	–	–
	合計	1000	100.0

Q2. あなたの年齢をお知らせください。【歳】

	度数	統計量母数	平均値	最大値	中央値	最小値	最頻値	分散	標準偏差
Q2	1000	1000	41.97	59.00	43.00	20.00	29.00	117.76	10.85

Q3. あなたが生まれた国はどこですか。

		度数	%
Q3	日本	999	99.9
	日本以外の国	1	0.1
	無回答	–	–
	合計	1000	100.0

Q4. あなたはこれまで日本以外の国で生活したことがありますか。

		度数	%
Q4	外国には行ったことがない	521	52.1
	2週間以内の海外旅行なら行ったことはあるが、住んだことはない	373	37.3
	15日以上、1年未満のあいだ日本以外の国に住んだり滞在したことがある	60	6.0
	1年以上日本以外の国に住んだことがある	46	4.6
	無回答	–	–
	合計	1000	100.0

Q5. あなたが最後に通った(または現在通っている)学校は次のどれにあたりますか。(※在学中や中退も含めて最後に通った学校をお答えください。)

		度数	%
Q5	中学校	49	4.9
	高校	386	38.6
	専修学校(専門学校)	123	12.3
	高等専門学校(5年制)	4	0.4
	短期大学	76	7.6
	大学	331	33.1
	大学院	31	3.1
	無回答	-	-
	合計	1000	100.0

Q6. あなたは前問で回答した学校を卒業しましたか。中退しましたか。それとも、現在、在学中ですか。

		度数	%
Q6	卒業した	940	94.0
	中退した	56	5.6
	在学中	4	0.4
	無回答	-	-
	合計	1000	100.0

Q7. 専修学校、高専、短大、大学、大学院に通ったことのある方にうかがいます。その学校では何を専攻していましたか。複数の学校に通われた方や、途中で専攻を変えられた方は、最後に専攻された分野をお答えください。

		度数	%
Q7	人文学(哲学、文学、歴史など)	90	15.9
	社会科学(経済学、政治学、社会学、法学など)	198	35.0
	理学(数学、物理学、生物学、地学など)	28	5.0
	工学(機械工学、情報工学、土木工学など)	78	13.8
	農学(園芸学、バイオサイエンス、食品工学、水産学、獣医学なども含む)	11	1.9
	保健(医学、看護学、歯学、薬学など)	43	7.6
	家政学(家政学、食品学、被服学など)	27	4.8
	教育学(幼稚園課程、教育心理学なども含む)	31	5.5
	芸術(美術、デザイン、音楽など)	32	5.7
	その他 具体的に	27	4.8
	無回答	-	-
	合計	565	100.0

「仕事と身だしなみに関する調査 2024」の単純集計表

Q8. 昨年1年間のあなたの家の世帯収入は、この中のどれにあたりますか。税金を差し引く前の収入でお答えください。仕事からの収入だけでなく、株式配当、年金、不動産収入などすべての収入を含わせてください。そのうち、あなたご自身の収入はどのくらいですか。仕事以外からの収入も含めてください。

	合計	なし	70万円未満	70～100万	100～130万	130～150万	150～250万	250～350万	350～450万	450～550万	550～650万	650～750万
Q8 【世帯全体】	1000	17	20	19	11	15	66	86	104	99	82	62
	100.0	1.7	2.0	1.9	1.1	1.5	6.6	8.6	10.4	9.9	8.2	6.2
【あなたご自身】	1000	142	105	55	46	33	113	102	89	76	47	32
	100.0	14.2	10.5	5.5	4.6	3.3	11.3	10.2	8.9	7.6	4.7	3.2

750～850万	850～1,000万	1,000～1,200万	1,200～1,400万	1,400～1,600万	1,600～1,850万	1,850～2,300万	2,300万円以上	わからない	答えたくない	無回答
69	97	50	22	9	5	6	5	85	71	—
6.9	9.7	5.0	2.2	0.9	0.5	0.6	0.5	8.5	7.1	—
23	28	5	8	1	5	1	1	15	73	—
2.3	2.8	0.5	0.8	0.1	0.5	0.1	0.1	1.5	7.3	—

Q9. 先週、あなたは収入をとまなう仕事をしましたか、または仕事をするようになっていましたか。この中からあげてください。

	度数	%
Q9 仕事をした	733	73.3
仕事をもっているが、病気、休暇などで先週は仕事を休んだ	19	1.9
仕事をしていない	248	24.8
無回答	—	—
合計	1000	100.0

Q10. あなたは、先週、残業も含めて仕事を合計何時間しましたか。2つ以上仕事をおもちの場合は、主な仕事1つとそれ以外の仕事にわけて、それぞれの時間を教えてください。

	度数	統計量母数	平均値	最大値	中央値	最小値	最頻値	分散	標準偏差
Q10 【主な仕事を週合計で／時間】	1000	752	36.79	100.00	40.00	0.00	40.00	204.47	14.30
【それ以外の仕事を週合計で／時間】	1000	752	2.64	60.00	0.00	0.00	0.00	79.83	8.93

Q11. あなたの現在のお仕事についてうかがいます。複数の仕事をお持ちの場合は、主な仕事についてお答えください。あなたのお仕事は大きく分けてこの中のどれにあたりますか。

	度数	%
Q11 経営者・役員	15	2.0
常時雇用されている一般従業者	419	55.7
臨時雇用・パート・アルバイト	188	25.0
派遣社員	44	5.9
契約社員・嘱託	36	4.8
自営業主・自由業者	44	5.9
家族従業者	5	0.7
内職	1	0.1
無回答	—	—
合計	752	100.0

Q12. あなたの勤め先の業種に最も近いものを以下の中から一つ選んでください。

		度数	%
Q12	農業、林業、漁業	5	0.7
	鉱業、採石業、砂利採取業	1	0.1
	建設業	41	5.5
	製造業	159	21.1
	電気・ガス・熱供給・水道業	11	1.5
	情報通信業、新聞・放送・出版業、広告業、映画制作業	52	6.9
	運輸業、郵便業	43	5.7
	卸売業、小売業(コンビニ、デパート等)	108	14.4
	教育、学習支援業	32	4.3
	金融業、保険業、不動産業、物品賃貸業	32	4.3
	学術研究、専門・技術サービス業、法律・会計	28	3.7
	宿泊業、飲食サービス業(ホテル、レストラン等)	31	4.1
	生活関連サービス、娯楽業(クリーニング、冠婚葬祭、ヘアサロン、スポーツ施設等)	53	7.0
	医療、福祉	61	8.1
	複合サービス事業、郵便局、協同組合	16	2.1
	公務	32	4.3
	その他 具体的に:	47	6.3
	無回答	-	-
	合計	752	100.0

Q13. あなたの勤め先の従業員は、会社全体で何人ぐらいですか。

		度数	%
Q13	1人	35	4.7
	2～4人	31	4.1
	5～9人	38	5.1
	10～29人	80	10.6
	30～99人	129	17.2
	100～299人	90	12.0
	300～499人	48	6.4
	500～999人	43	5.7
	1000人以上	154	20.5
	官公庁	23	3.1
	わからない	81	10.8
	無回答	-	-
	合計	752	100.0

Q14. あなたは職場で、どのような仕事をしていますか。

		度数	%
Q14	事務(企業・官公庁における一般事務、経理、内勤の営業、医療事務員な	237	31.5
	販売(小売・卸売店主、店員、不動産売買、保険外交、外勤のセールスな	91	12.1
	サービス(理容・美容師、料理人、ウェ이터、ウェイトレス、ホームヘル		
	パーなど)	73	9.7
	保安(警察官、消防官、自衛官など)	9	1.2
	農林漁業(農業、林業、漁業など)	3	0.4
	生産工程(製品製造・組立、自動車整備、農水産物加工など)	99	13.2
	輸送・機械運転(トラック・タクシー運転手、船員、クレーン作業員など)	20	2.7
	建設・採掘(建設作業員、大工、電気工事、土木作業員など)	22	2.9
	運搬・清掃・包装(配達員、ハウスクリーニング、包装作業など)	37	4.9
	専門・技術(医師、看護師、弁護士、教師、技術者、デザイナーなど専門		
	的知識・技術を要するもの)	128	17.0
	管理(企業・官公庁における課長職以上、議員、経営者など)	25	3.3
	その他 具体的に:	8	1.1
	無回答	-	-
	合計	752	100.0

Q16. あなたの仕事に関して、次の事柄がどの程度当てはまりますか。

		合計	当てはまる	ある程度当	あまり当て	当てはまらない	無回答
Q16	【自分の仕事の内容や仕事のペースを自分で決めたり変えたりすることができる】	752	110	261	234	147	-
		100.0	14.6	34.7	31.1	19.5	-
	【職場全体の仕事のやり方を決めたりするのに発言権がある】	752	64	198	238	252	-
		100.0	8.5	26.3	31.6	33.5	-
	【自分の都合で自由に休みをとったり早退したりすることができる】	752	139	288	189	136	-
		100.0	18.5	38.3	25.1	18.1	-
	【職場の都合で勤務時間がよく変更される】	752	54	137	210	351	-
		100.0	7.2	18.2	27.9	46.7	-
	【いつも同じことをくりかえすのではなく、さまざまな種類のことをしている】	752	104	238	268	142	-
		100.0	13.8	31.6	35.6	18.9	-

Q17. あなたはお仕事で、顧客に対面で接することがありますか。

		度数	%
Q17	よく接している	223	29.7
	たまに接している	165	21.9
	ほとんど接しない	364	48.4
	無回答	-	-
	合計	752	100.0

Q18. あなたはお仕事の際にどんな服装をしていますか。在宅勤務もある方は出勤したときの服装について教えてください。

		度数	%
Q18	制服や作業服が決まっている	323	43.0
	決まった制服や作業服はないが、服の種類などが指定されている(黒いパンツに白いシャツとか、スーツ着用とか)	126	16.8
	決まった制服や作業服も、服の種類の指定もない(服装自由)	298	39.6
	その他 具体的に:	5	0.7
	無回答	-	-
	合計	752	100.0

Q19. あなたは過去1年間にどれぐらい美容店・理容店、エステサロン、ネイルサロンに行きましたか。

		合計	週に1回以	月に2～3回	月に1回ぐ
Q19	【美容店・理容店】	1000	3	6	131
		100.0	0.3	0.6	13.1
	【エステサロン】	1000	1	5	20
		100.0	0.1	0.5	2.0
	【ネイルサロン】	1000	-	4	20
		100.0	-	0.4	2.0

2ヶ月に1回	3～4ヶ月に	5～6ヶ月に	1年間で1回	行かなか	無回答
233	219	86	51	271	-
23.3	21.9	8.6	5.1	27.1	-
9	8	10	15	932	-
0.9	0.8	1.0	1.5	93.2	-
5	7	2	10	952	-
0.5	0.7	0.2	1.0	95.2	-

Q20. あなたが美容店もしくは理容店に通って支払った金額は、過去1年間で合計するといくらくらいだったと思いますか(カット、カラー、パーマなどすべての合計でお答えください)。

		度数	%
Q20	0円	1	0.1
	1000円	8	1.1
	2000円	35	4.8
	3000円	40	5.5
	4000円	34	4.7
	5000円	51	7.0
	6000円	30	4.1
	7000円	15	2.1
	8000円	38	5.2
	9000円	16	2.2
	10000円	47	6.4
	11000円	13	1.8
	12000円	52	7.1
	13000円	16	2.2
	14000円	13	1.8
	15000円	27	3.7
	16000円	10	1.4
	17000円	4	0.5
	18000円	13	1.8
	19000円	2	0.3
	20000円	37	5.1
	21000円	4	0.5
	22000円	—	—
	23000円	2	0.3
	24000円	10	1.4
	25000円	22	3.0
	26000円	3	0.4
	27000円	2	0.3
	28000円	2	0.3
	29000円	2	0.3
	30000円	36	4.9
	31000円	—	—
	32000円	4	0.5
	33000円	2	0.3
	34000円	1	0.1
	35000円	3	0.4
	36000円	8	1.1
	37000円	2	0.3
	38000円	1	0.1
	39000円	3	0.4

「仕事と身だしなみに関する調査 2024」の単純集計表

40000円	13	1.8
41000円	—	—
42000円	3	0.4
43000円	—	—
44000円	2	0.3
45000円	3	0.4
46000円	1	0.1
47000円	1	0.1
48000円	4	0.5
49000円	2	0.3
50000円	22	3.0
51000円	—	—
52000円	—	—
53000円	1	0.1
54000円	—	—
55000円	4	0.5
56000円	—	—
57000円	1	0.1
58000円	2	0.3
59000円	—	—
60000円	12	1.6
61000円	1	0.1
62000円	—	—
63000円	1	0.1
64000円	—	—
65000円	4	0.5
66000円	1	0.1
67000円	—	—
68000円	1	0.1
69000円	—	—
70000円	8	1.1
71000円	—	—
72000円	2	0.3
73000円	—	—
74000円	1	0.1
75000円	2	0.3
76000円	—	—
77000円	—	—
78000円	—	—
79000円	—	—
80000円	4	0.5

「仕事と身だしなみに関する調査 2024」の単純集計表

81000円	-	-
82000円	1	0.1
83000円	-	-
84000円	-	-
85000円	-	-
86000円	-	-
87000円	-	-
88000円	1	0.1
89000円	-	-
90000円	3	0.4
91000円	-	-
92000円	-	-
93000円	-	-
94000円	-	-
95000円	1	0.1
96000円	-	-
97000円	-	-
98000円	-	-
99000円	-	-
100000円	6	0.8
101000円	-	-
102000円	-	-
103000円	-	-
104000円	-	-
105000円	2	0.3
106000円	-	-
107000円	-	-
108000円	-	-
109000円	-	-
110000円	-	-
111000円	-	-
112000円	-	-
113000円	-	-
114000円	-	-
115000円	-	-
116000円	-	-
117000円	-	-
118000円	-	-
119000円	1	0.1
120000円	3	0.4
121000円	-	-

「仕事と身だしなみに関する調査 2024」の単純集計表

122000円	1	0.1
123000円	-	-
124000円	-	-
125000円	-	-
126000円	1	0.1
127000円	-	-
128000円	-	-
129000円	-	-
130000円	-	-
131000円	-	-
132000円	-	-
133000円	-	-
134000円	-	-
135000円	-	-
136000円	-	-
137000円	-	-
138000円	-	-
139000円	-	-
140000円	-	-
141000円	-	-
142000円	-	-
143000円	-	-
144000円	-	-
145000円	-	-
146000円	-	-
147000円	-	-
148000円	-	-
149000円	-	-
150000円	2	0.3
151000円	-	-
152000円	-	-
153000円	-	-
154000円	-	-
155000円	-	-
156000円	-	-
157000円	-	-
158000円	-	-
159000円	-	-
160000円	-	-
161000円	-	-
162000円	-	-
163000円	-	-

「仕事と身だしなみに関する調査 2024」の単純集計表

164000円	-	-
165000円	-	-
166000円	-	-
167000円	-	-
168000円	-	-
169000円	-	-
170000円	1	0.1
171000円	-	-
172000円	-	-
173000円	-	-
174000円	-	-
175000円	-	-
176000円	-	-
177000円	-	-
178000円	-	-
179000円	-	-
180000円	-	-
181000円	-	-
182000円	-	-
183000円	-	-
184000円	-	-
185000円	-	-
186000円	-	-
187000円	-	-
188000円	-	-
189000円	-	-
190000円	-	-
191000円	-	-
192000円	-	-
193000円	-	-
194000円	-	-
195000円	-	-
196000円	-	-
197000円	-	-
198000円	-	-
199000円	-	-
200000円	-	-
201000円	-	-
202000円	-	-
203000円	-	-
204000円	-	-

「仕事と身だしなみに関する調査 2024」の単純集計表

205000円	-	-
206000円	-	-
207000円	-	-
208000円	-	-
209000円	-	-
210000円以上	1	0.1
無回答	-	-
合計	729	100.0

Q21. あなたがエステサロンに通って支払った金額は、過去1年間で合計するといくらくらいだったと思いますか。

		度数	%
Q21	0円	2	2.9
	1000円	-	-
	2000円	1	1.5
	3000円	2	2.9
	4000円	3	4.4
	5000円	7	10.3
	6000円	4	5.9
	7000円	2	2.9
	8000円	5	7.4
	9000円	-	-
	10000円	4	5.9
	11000円	2	2.9
	12000円	2	2.9
	13000円	1	1.5
	14000円	1	1.5
	15000円	2	2.9
	16000円	2	2.9
	17000円	-	-
	18000円	-	-
	19000円	-	-
	20000円	1	1.5
	21000円	-	-
	22000円	-	-
	23000円	-	-
	24000円	-	-
	25000円	-	-
	26000円	-	-
	27000円	-	-
	28000円	1	1.5
	29000円	1	1.5

「仕事と身だしなみに関する調査 2024」の単純集計表

30000円	-	-
31000円	-	-
32000円	-	-
33000円	1	1.5
34000円	-	-
35000円	-	-
36000円	-	-
37000円	-	-
38000円	-	-
39000円	-	-
40000円	5	7.4
41000円	-	-
42000円	-	-
43000円	-	-
44000円	-	-
45000円	1	1.5
46000円	-	-
47000円	-	-
48000円	1	1.5
49000円	-	-
50000円	2	2.9
51000円	-	-
52000円	-	-
53000円	-	-
54000円	-	-
55000円	-	-
56000円	-	-
57000円	-	-
58000円	-	-
59000円	-	-
60000円	5	7.4
61000円	-	-
62000円	-	-
63000円	-	-
64000円	-	-
65000円	-	-
66000円	-	-
67000円	-	-
68000円	-	-
69000円	-	-
70000円	-	-
71000円	-	-
72000円	-	-

73000円	-	-
74000円	-	-
75000円	-	-
76000円	-	-
77000円	-	-
78000円	-	-
79000円	-	-
80000円	-	-
81000円	-	-
82000円	-	-
83000円	-	-
84000円	-	-
85000円	1	1.5
86000円	-	-
87000円	-	-
88000円	-	-
89000円	-	-
90000円	-	-
91000円	-	-
92000円	-	-
93000円	-	-
94000円	-	-
95000円	-	-
96000円	-	-
97000円	-	-
98000円	-	-
99000円	-	-
100000円	4	5.9
101000円	-	-
102000円	-	-
103000円	1	1.5
104000円	-	-
105000円	-	-
106000円	-	-
107000円	-	-
108000円	-	-
109000円	-	-
110000円	1	1.5
111000円	-	-
112000円	-	-
113000円	-	-
114000円	-	-

「仕事と身だしなみに関する調査 2024」の単純集計表

115000円	-	-
116000円	-	-
117000円	-	-
118000円	-	-
119000円	-	-
120000円	-	-
121000円	-	-
122000円	-	-
123000円	-	-
124000円	-	-
125000円	-	-
126000円	-	-
127000円	-	-
128000円	-	-
129000円	-	-
130000円	-	-
131000円	-	-
132000円	-	-
133000円	-	-
134000円	-	-
135000円	-	-
136000円	-	-
137000円	-	-
138000円	-	-
139000円	-	-
140000円	-	-
141000円	-	-
142000円	-	-
143000円	-	-
144000円	-	-
145000円	-	-
146000円	-	-
147000円	-	-
148000円	-	-
149000円	-	-
150000円	1	1.5
151000円	-	-
152000円	-	-
153000円	-	-
154000円	-	-
155000円	-	-

156000円	-	-
157000円	-	-
158000円	-	-
159000円	-	-
160000円	-	-
161000円	-	-
162000円	-	-
163000円	-	-
164000円	-	-
165000円	-	-
166000円	-	-
167000円	-	-
168000円	-	-
169000円	-	-
170000円	-	-
171000円	-	-
172000円	-	-
173000円	-	-
174000円	-	-
175000円	-	-
176000円	-	-
177000円	-	-
178000円	-	-
179000円	-	-
180000円	-	-
181000円	-	-
182000円	-	-
183000円	-	-
184000円	-	-
185000円	-	-
186000円	-	-
187000円	-	-
188000円	-	-
189000円	-	-
190000円	-	-
191000円	-	-
192000円	-	-
193000円	-	-
194000円	-	-
195000円	-	-
196000円	-	-
197000円	-	-
198000円	-	-

199000円	-	-
200000円	-	-
201000円	-	-
202000円	-	-
203000円	-	-
204000円	-	-
205000円	-	-
206000円	-	-
207000円	-	-
208000円	-	-
209000円	-	-
210000円以上	2	2.9
無回答	-	-
合計	68	100.0

Q22. あなたがネイルサロンに通って支払った金額は、過去1年間で合計するといくらくらいだったと思いますか。

		度数	%
Q22	0円	2	4.2
	1000円	2	4.2
	2000円	-	-
	3000円	-	-
	4000円	3	6.3
	5000円	4	8.3
	6000円	5	10.4
	7000円	2	4.2
	8000円	1	2.1
	9000円	2	4.2
	10000円	2	4.2
	11000円	-	-
	12000円	2	4.2
	13000円	-	-
	14000円	1	2.1
	15000円	2	4.2
	16000円	1	2.1
	17000円	-	-
	18000円	-	-
	19000円	-	-
	20000円	2	4.2
	21000円	-	-
	22000円	-	-

23000円	-	-
24000円	-	-
25000円	2	4.2
26000円	-	-
27000円	-	-
28000円	-	-
29000円	-	-
30000円	2	4.2
31000円	-	-
32000円	1	2.1
33000円	1	2.1
34000円	-	-
35000円	1	2.1
36000円	-	-
37000円	-	-
38000円	-	-
39000円	-	-
40000円	-	-
41000円	-	-
42000円	-	-
43000円	-	-
44000円	-	-
45000円	1	2.1
46000円	-	-
47000円	-	-
48000円	-	-
49000円	-	-
50000円	2	4.2
51000円	-	-
52000円	-	-
53000円	-	-
54000円	-	-
55000円	-	-
56000円	-	-
57000円	-	-
58000円	-	-
59000円	-	-
60000円	2	4.2
61000円	-	-
62000円	-	-
63000円	-	-
64000円	-	-
65000円	-	-

「仕事と身だしなみに関する調査 2024」の単純集計表

66000円	-	-
67000円	-	-
68000円	-	-
69000円	-	-
70000円	1	2.1
71000円	-	-
72000円	-	-
73000円	-	-
74000円	-	-
75000円	-	-
76000円	-	-
77000円	-	-
78000円	-	-
79000円	-	-
80000円	-	-
81000円	-	-
82000円	1	2.1
83000円	-	-
84000円	-	-
85000円	-	-
86000円	-	-
87000円	-	-
88000円	-	-
89000円	-	-
90000円	-	-
91000円	-	-
92000円	-	-
93000円	-	-
94000円	-	-
95000円	-	-
96000円	-	-
97000円	-	-
98000円	-	-
99000円	-	-
100000円	1	2.1
101000円	-	-
102000円	-	-
103000円	-	-
104000円	-	-
105000円	-	-
106000円	-	-
107000円	-	-

「仕事と身だしなみに関する調査 2024」の単純集計表

108000円	-	-
109000円	-	-
110000円	-	-
111000円	-	-
112000円	-	-
113000円	-	-
114000円	-	-
115000円	-	-
116000円	-	-
117000円	-	-
118000円	-	-
119000円	-	-
120000円	-	-
121000円	-	-
122000円	-	-
123000円	-	-
124000円	-	-
125000円	-	-
126000円	-	-
127000円	-	-
128000円	-	-
129000円	-	-
130000円	1	2.1
131000円	-	-
132000円	-	-
133000円	-	-
134000円	-	-
135000円	-	-
136000円	-	-
137000円	-	-
138000円	-	-
139000円	-	-
140000円	-	-
141000円	-	-
142000円	-	-
143000円	-	-
144000円	-	-
145000円	-	-
146000円	-	-
147000円	-	-
148000円	-	-
149000円	-	-

「仕事と身だしなみに関する調査 2024」の単純集計表

150000円	1	2.1
151000円	-	-
152000円	-	-
153000円	-	-
154000円	-	-
155000円	-	-
156000円	-	-
157000円	-	-
158000円	-	-
159000円	-	-
160000円	-	-
161000円	-	-
162000円	-	-
163000円	-	-
164000円	-	-
165000円	-	-
166000円	-	-
167000円	-	-
168000円	-	-
169000円	-	-
170000円	-	-
171000円	-	-
172000円	-	-
173000円	-	-
174000円	-	-
175000円	-	-
176000円	-	-
177000円	-	-
178000円	-	-
179000円	-	-
180000円	-	-
181000円	-	-
182000円	-	-
183000円	-	-
184000円	-	-
185000円	-	-
186000円	-	-
187000円	-	-
188000円	-	-
189000円	-	-
190000円	-	-
191000円	-	-

192000円	-	-
193000円	-	-
194000円	-	-
195000円	-	-
196000円	-	-
197000円	-	-
198000円	-	-
199000円	-	-
200000円	-	-
201000円	-	-
202000円	-	-
203000円	-	-
204000円	-	-
205000円	-	-
206000円	-	-
207000円	-	-
208000円	-	-
209000円	-	-
210000円以上	-	-
無回答	-	-
合計	48	100.0

Q23. あなたはふだんの程度、家族以外の人と会話をしますか（電話等での話やあいさつ、ちょっとした世間話も「会話」に含みます）。

	度数	%
Q23 毎日	490	49.0
2～3日に1回	223	22.3
4～7日（1週間）に1回	66	6.6
2週間に1回	27	2.7
1か月に1回	21	2.1
ほとんど話をしない	173	17.3
無回答	-	-
合計	1000	100.0

Q24. あなたがここ1か月間に家族以外で会話をした人は、何人くらいいましたか(電話等での話やあいさつ、ちょっとした世間話も「会話」に含みます)。

		度数	%
Q24	0人	88	8.8
	1～4人	292	29.2
	5～9人	194	19.4
	10～20人	238	23.8
	21～49人	91	9.1
	50人以上	97	9.7
	無回答	—	—
	合計	1000	100.0

Q25. あなたは、ご自身でおこなう頭髪および体毛(例:わき毛、すね毛、ひげ)の手入れに、1日に平均でどれくらい時間をかけますか。「手入れ」には、頭髪をセットする、体毛を剃るなど、頭髪や体毛を整える行動すべてを含みます。

		度数	%
Q25	0分	81	8.1
	1～2分	113	11.3
	3～5分	286	28.6
	6～9分	150	15.0
	10～19分	235	23.5
	20～29分	64	6.4
	30～39分	47	4.7
	40～49分	7	0.7
	50～59分	8	0.8
	60～79分	4	0.4
	80～99分	—	—
	100分以上	5	0.5
	無回答	—	—
	合計	1000	100.0

Q26. 他人と会うとき、次にあげる事柄をどのくらいおこないますか。それぞれにあてはまるものを1つお選びください。

	合計	ほぼ毎日	することの	しないこと	しない	無回答
Q26 【アクセサリをつける】	1000	76	84	195	645	-
	100.0	7.6	8.4	19.5	64.5	-
【整髪料やワックスをつける】	1000	117	127	184	572	-
	100.0	11.7	12.7	18.4	57.2	-
【香水やデオドラントをつける】	1000	57	98	175	670	-
	100.0	5.7	9.8	17.5	67.0	-
【眉を整える】	1000	119	242	264	375	-
	100.0	11.9	24.2	26.4	37.5	-
【日焼け止めを塗る】	1000	166	125	183	526	-
	100.0	16.6	12.5	18.3	52.6	-
【化粧水や乳液、美容液をつける】	1000	483	98	57	362	-
	100.0	48.3	9.8	5.7	36.2	-
【ファンデーションやチークなどを塗る】	1000	196	133	92	579	-
	100.0	19.6	13.3	9.2	57.9	-
【アイメイクをする(アイプチを含む)】	1000	152	108	84	656	-
	100.0	15.2	10.8	8.4	65.6	-
【口紅やリップグロスなどを塗る】	1000	132	113	129	626	-
	100.0	13.2	11.3	12.9	62.6	-
【マニキュアやジェルネイルなどをする】	1000	32	43	111	814	-
	100.0	3.2	4.3	11.1	81.4	-
【ネイルケアをする(爪を磨くなど)】	1000	19	64	132	785	-
	100.0	1.9	6.4	13.2	78.5	-

Q27. あなたご自身に、以下のことがどの程度あてはまりますか。

	合計	あてはまる	どちらかと	どちらかと	あてはまら	無回答
Q27 【ファッションに興味がある】	1000	160	282	288	270	-
	100.0	16.0	28.2	28.8	27.0	-
【ファッション誌やネット上のファッション情報をときどきチェックしている】	1000	66	195	246	493	-
	100.0	6.6	19.5	24.6	49.3	-
【服のウィンドウショッピングをしたり、服のオンラインショップをチェックするのが好き】	1000	90	270	246	394	-
	100.0	9.0	27.0	24.6	39.4	-
【外出するときは服のコーディネートをよく考える】	1000	126	283	282	309	-
	100.0	12.6	28.3	28.2	30.9	-
【外出する前には全身を鏡で見てチェックする】	1000	176	300	198	326	-
	100.0	17.6	30.0	19.8	32.6	-
【服を買うときは試着したり、サイズやシルエット、色などを慎重にチェックする】	1000	169	342	224	265	-
	100.0	16.9	34.2	22.4	26.5	-
【服装には自分なりのこだわりがある】	1000	146	349	262	243	-
	100.0	14.6	34.9	26.2	24.3	-
【服は暑さ寒さをしのげれば何でもいい】	1000	120	239	352	289	-
	100.0	12.0	23.9	35.2	28.9	-

Q28. あなたは以下のような人にどれくらい抵抗感がありますか。

		合計	まったく抵抗	あまり抵抗	どちらとも	少し抵抗	とても抵抗	無回答
Q28	【髪を金髪に染めた[[BG28A1]] <[[BG28A3]]歳・[[BG28A2]]>】	1000	124	170	206	287	213	-
		100.0	12.4	17.0	20.6	28.7	21.3	-
	【鼻にピアスをした[[BG28B1]]<[[BG28B3]] 歳・[[BG28B2]]>】	1000	69	100	172	278	381	-
		100.0	6.9	10.0	17.2	27.8	38.1	-
	【腕にタトゥーをした[[BG28C1]] <[[BG28C3]]歳・[[BG28C2]]>】	1000	71	120	183	243	383	-
		100.0	7.1	12.0	18.3	24.3	38.3	-
	【青いカラーコンタクトをした[[BG28D1]] <[[BG28D3]]歳・[[BG28D2]]>】	1000	125	194	220	229	232	-
		100.0	12.5	19.4	22.0	22.9	23.2	-
	【金色のラメの入ったつけまつげをした [[BG28E1]]<[[BG28E3]]歳・[[BG28E2]]>】	1000	131	166	221	208	274	-
		100.0	13.1	16.6	22.1	20.8	27.4	-
	【整形して鼻を高くした[[BG28F1]] <[[BG28F3]]歳・[[BG28F2]]>】	1000	237	234	261	136	132	-
		100.0	23.7	23.4	26.1	13.6	13.2	-

Q29. 化粧をしていない女性が以下のようなことをしていたとしたらどう思いますか。

		合計	不適切だと	どちらかと	どちらとも	どちらかと	不適切では	無回答
Q29	【[[BG29A]]歳の女性が化粧をせずに街を 歩く】	1000	16	46	212	186	540	-
		100.0	1.6	4.6	21.2	18.6	54.0	-
	【[[BG29B]]歳の女性が化粧をせずにロッ クコンサートに参加する】	1000	17	28	206	191	558	-
		100.0	1.7	2.8	20.6	19.1	55.8	-
	【[[BG29C]]歳の女性清掃員が化粧をせず に廊下を掃除する】	1000	13	31	193	170	593	-
		100.0	1.3	3.1	19.3	17.0	59.3	-
	【[[BG29D]]歳の女性教師が化粧をせずに 小学校で授業をする】	1000	28	75	237	178	482	-
		100.0	2.8	7.5	23.7	17.8	48.2	-
	【[[BG29E]]歳の女性市議会議員が化粧を せずに市議会に参加する】	1000	45	112	255	156	432	-
		100.0	4.5	11.2	25.5	15.6	43.2	-
	【[[BG29F]]歳の女性事務員が化粧をせず にオフィスで働く】	1000	31	102	253	185	429	-
		100.0	3.1	10.2	25.3	18.5	42.9	-
	【[[BG29G]]歳の女性営業社員が化粧をせ ずに取引先と商談する】	1000	87	181	244	134	354	-
		100.0	8.7	18.1	24.4	13.4	35.4	-

Q30. 以下の写真のようにフリルやレースを多用した西洋のお姫様風の服装は、ロリータファッションと呼ばれますが、ロリータファッションやミニスカートの女性が以下のような行動をしたら、あなたはどの程度不適切だと思いますか。

		合計	不適切だと	どちらかと	どちらとも	どちらかと	不適切では	無回答
Q30	【[[BG30A1]]歳の女性が[[BG30A2]]で街を 歩く】	1000	50	88	267	165	430	-
		100.0	5.0	8.8	26.7	16.5	43.0	-
	【[[BG30B1]]歳の女性が[[BG30B2]]でロッ クコンサートに参加する】	1000	40	52	254	187	467	-
		100.0	4.0	5.2	25.4	18.7	46.7	-
	【[[BG30C1]]歳の女性が[[BG30C2]]でスタ ジアムでサッカーを観戦する】	1000	61	103	278	171	387	-
		100.0	6.1	10.3	27.8	17.1	38.7	-
	【[[BG30D1]]歳の女性教師が[[BG30D2]]で 小学生に授業をする】	1000	299	287	215	60	139	-
		100.0	29.9	28.7	21.5	6.0	13.9	-
	【[[BG30E1]]歳の女性市議会議員が [[BG30E2]]で市議会に参加する】	1000	301	243	238	79	139	-
		100.0	30.1	24.3	23.8	7.9	13.9	-
	【[[BG30F1]]歳の女性事務員が [[BG30F2]]でオフィスで働く】	1000	227	224	262	101	186	-
		100.0	22.7	22.4	26.2	10.1	18.6	-
	【[[BG30G1]]歳の女性営業社員が [[BG30G2]]で取引先と商談する】	1000	331	224	235	75	135	-
		100.0	33.1	22.4	23.5	7.5	13.5	-

Q31. 以下のような恰好をした男性が次のようなことをしたら、どの程度不適切だと思いますか。

		合計	不適切だと	どちらかと	どちらとも	どちらかと	不適切では	無回答
Q31	【[[BG31A1]]歳の男性が[[BG31A2]]街を歩く】	1000	73	94	286	162	385	-
		100.0	7.3	9.4	28.6	16.2	38.5	-
	【[[BG31B1]]歳の男性が[[BG31B2]]ロックコンサートに参加する】	1000	46	39	264	181	470	-
		100.0	4.6	3.9	26.4	18.1	47.0	-
	【[[BG31C1]]歳の男性が[[BG31C2]]スタジアムでサッカーを観戦する】	1000	60	53	245	181	461	-
		100.0	6.0	5.3	24.5	18.1	46.1	-
	【[[BG31D1]]歳の男性教師が[[BG31D2]]小学校で授業をする】	1000	205	199	312	101	183	-
		100.0	20.5	19.9	31.2	10.1	18.3	-
	【[[BG31E1]]歳の男性市議会議員が[[BG31E2]]市議会に出席する】	1000	213	198	293	115	181	-
		100.0	21.3	19.8	29.3	11.5	18.1	-
	【[[BG31F1]]歳の男性事務員が[[BG31F2]]オフィスで働く】	1000	164	173	331	117	215	-
		100.0	16.4	17.3	33.1	11.7	21.5	-
	【[[BG31G1]]歳の男性営業社員が[[BG31G2]]取引先と商談する】	1000	244	209	305	86	156	-
		100.0	24.4	20.9	30.5	8.6	15.6	-

Q32. あなたは、次のような活動をしていますか。それぞれの活動について、どのくらいしているかを、最近の5、6年でお答えください。

		合計	週に1回以	月に1回ぐ	年に1回か	数年に1回	ここ数年し	無回答
Q32	【美術館や絵画展に行く】	1000	1	20	127	168	684	-
		100.0	0.1	2.0	12.7	16.8	68.4	-
	【クラシック音楽のコンサートへ行く】	1000	1	9	57	87	846	-
		100.0	0.1	0.9	5.7	8.7	84.6	-
	【歴史や民俗に関する資料館・博物館に行く】	1000	1	12	112	176	699	-
		100.0	0.1	1.2	11.2	17.6	69.9	-
	【歴史上の人物や物事が登場するフィクション作品(小説・漫画・アニメ・映画)を視	1000	59	92	174	123	552	-
		100.0	5.9	9.2	17.4	12.3	55.2	-
	【小説や歴史の本を読む(歴史フィクションやサイエンスフィクションを除く)】	1000	55	83	116	114	632	-
		100.0	5.5	8.3	11.6	11.4	63.2	-
	【文学や思想、芸術に関する動画やテレビ番組をみる】	1000	40	105	159	103	593	-
		100.0	4.0	10.5	15.9	10.3	59.3	-
	【国立公園や国定公園、世界自然遺産などを散策する】	1000	2	25	146	173	654	-
		100.0	0.2	2.5	14.6	17.3	65.4	-
	【プラネタリウムや天文台、自然史博物館、科学館に行く】	1000	3	13	92	182	710	-
		100.0	0.3	1.3	9.2	18.2	71.0	-
	【工場見学やモノづくりに関する産業館、博物館に行く】	1000	2	15	68	157	758	-
		100.0	0.2	1.5	6.8	15.7	75.8	-
	【近未来や空想上の科学技術が登場するフィクション作品(小説・漫画・アニメ・映	1000	68	96	149	110	577	-
		100.0	6.8	9.6	14.9	11.0	57.7	-
	【生物や宇宙、地質など、自然や科学に関する本や雑誌記事を読む(フィクションを	1000	16	57	109	124	694	-
		100.0	1.6	5.7	10.9	12.4	69.4	-
	【生物や宇宙、地質など、自然や科学に関する動画やテレビ番組をみる(フィクション	1000	36	98	156	130	580	-
		100.0	3.6	9.8	15.6	13.0	58.0	-

Q33. あなたは生活全般にどの程度満足していますか。

		度数	%
Q33	満足している	110	11.0
	どちらかといえば満足している	363	36.3
	どちらともいえない	228	22.8
	どちらかといえば不満	183	18.3
	不満	116	11.6
	無回答	-	-
	合計	1000	100.0

Q34. 以下のような意見についてあなたは賛成ですか、反対ですか。あなたの考えに最も近いものを一つお選びください。

		合計	そう思う	どちらかと	どちらとも	どちらかと	そう思わな	無回答
Q34	【権威のある人々にはつねに敬意をはらわなければならない】	1000	42	213	403	189	153	
		100.0	4.2	21.3	40.3	18.9	15.3	—
	【以前からなされてきたやり方を守ることが、最上の結果を生む】	1000	17	125	460	240	158	—
		100.0	1.7	12.5	46.0	24.0	15.8	—
	【伝統や慣習にしたがったやり方に疑問をもつ人は、結局は問題をひきおこすことに	1000	27	101	496	245	131	—
		100.0	2.7	10.1	49.6	24.5	13.1	—
	【この複雑な世の中で何をなすべきか知るいちばんよい方法は、指導者や専門家に	1000	28	164	526	185	97	—
		100.0	2.8	16.4	52.6	18.5	9.7	

Q35. 次のような考え方について、あなたはどう思いますか。あなたの考えに最も近いものを一つお選びください。

		合計	そう思う	どちらかと	どちらとも	どちらかと	そう思わな	無回答
Q35	【母親が外で働いていても、働いていない	1000	340	331	242	65	22	—
	母親と同じように、温かく、しっかりした母	100.0	34.0	33.1	24.2	6.5	2.2	—
	【母親が外で働いていると、小学校入学前	1000	28	104	412	251	205	—
	の子供は精神的に傷つくようだ】	100.0	2.8	10.4	41.2	25.1	20.5	—
	【母親がフルタイムで働いていると、家庭	1000	38	118	375	237	232	—
	生活は損なわれるものだ】	100.0	3.8	11.8	37.5	23.7	23.2	—
	【仕事を持つのはいいことだが、女性の多	1000	43	125	497	158	177	—
	くが本当に望んでいるのは家庭と子ども	100.0	4.3	12.5	49.7	15.8	17.7	—
	【主婦として家事をすることも、働いて収	1000	219	303	389	61	28	—
	入を得ることも、同じように充実したもの	100.0	21.9	30.3	38.9	6.1	2.8	—
	【男性も女性も家計のために収入を得るよ	1000	101	246	534	67	52	—
	うにしなければならぬ】	100.0	10.1	24.6	53.4	6.7	5.2	—
	【男性の仕事は収入を得ること、女性の仕	1000	32	97	374	203	294	—
	事は家庭と家族の面倒をみることだ】	100.0	3.2	9.7	37.4	20.3	29.4	—

Q36. あなたの身長と体重を教えてください。

		度数	統計量母数	平均値	最大値	中央値	最小値	最頻値	分散	標準偏差
Q36	【身長／cm】	1000	1000	164.56	194.00	165.00	143.00	160.00	74.42	8.63
	【体重／kg】	1000	1000	59.62	120.00	57.00	36.00	50.00	182.82	13.52

Q37. 同年代の同性の人と比べたときの、あなたの容姿に関する自己評価を教えてください。

		合計	そう思う	どちらかと	どちらとも	どちらかと	そう思わな	無回答
Q37	【私は顔が良いほうだ】	1000	26	117	280	227	350	-
		100.0	2.6	11.7	28.0	22.7	35.0	-
	【私はスタイルが良いほうだ】	1000	32	112	236	246	374	-
		100.0	3.2	11.2	23.6	24.6	37.4	-
	【私は清潔感があるほうだ】	1000	61	262	394	144	139	-
		100.0	6.1	26.2	39.4	14.4	13.9	-
	【私はオシャレなほうだ】	1000	37	128	281	244	310	-
		100.0	3.7	12.8	28.1	24.4	31.0	-
	【私は肌が美しいほうだ】	1000	49	129	291	246	285	-
		100.0	4.9	12.9	29.1	24.6	28.5	-

Q38. 3月15日(金)ごろより、あなたご自身の手の写真を撮影いただき、その画像をアップロードいただくアンケートを実施する予定です。画像をアップロードいただいた方には、200円相当のポイントを後日付与させていただきます。あなたはそのようなアンケートにご協力いただけますか。

		度数	%
Q38	協力できる	485	48.5
	協力できない	515	51.5
	無回答	-	-
	合計	1000	100.0

美的労働に関する調査報告書

2025 年 3 月発行

編集・発行: 太郎丸博

京都大学文学部社会学研究室

〒606-8501 京都府京都市左京区吉田本町
